

SUSTAINABILITY

サステナビリティ

私たちは創始者 中島董一郎の「食を通じて社会に貢献する」という精神を受け継ぎ、社会課題の解決に取り組んでいます。多様なステークホルダーとの対話や連携を通じて、持続可能な社会の実現への貢献とグループの持続的成長の実現をめざします。



トップメッセージ



サステナビリティ
マネジメント



サステナビリティ、
基本方針



推進体制



重点課題



サステナビリティ、
目標



サステナビリティ活動



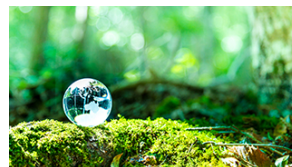
資源の有効活用・循環

- ・ 食品ロスの削減・有効活用
- ・ プラスチックの削減・再利用
- ・ 水資源の持続的利用



気候変動への対応

- ・ CO₂排出量の削減



生物多様性の保全

- ・ 生物多様性の保全活動



食と健康への貢献

- ・ 健康寿命延伸への貢献
- ・ 子どもの心と体の健康支援



持続可能な調達

- ・ 持続可能な調達の推進



人権の尊重

- ・ 人権尊重への取り組み
- ・ 多様な人材の活躍
- ・ 健康経営・労働安全衛生

ガバナンス

安全・安心

キーワードから見る取り組み

再生可能エネルギー

循環型経済

サプライチェーン

食を通じた社会貢献

健康

ユニバーサルデザイン

コンプライアンス

ダイバーシティ

サステナビリティ情報



開示方針



各種報告書



対照表



ESGデータ集



社外からの評価



各種方針



イニシアチブ・
加盟団体



社会・環境活動の歴史



キュービーグループ
オフィシャルブログ



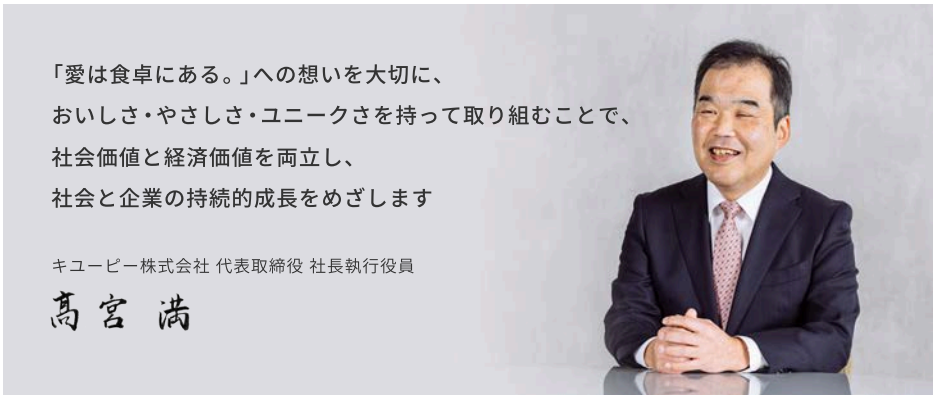
グループ各社の
サステナビリティ活動



サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

トップメッセージ



キューピー株式会社 代表取締役 社長執行役員

高宮 満

キューピーグループは、サステナビリティという概念ができる以前から創始者中島董一郎の「食を通じて社会に貢献する」という考えのもと、社会課題の解決に取り組んできました。現在は「めざす姿」「2030ビジョン」を将来のありたい姿とし、2021-2024年度中期経営計画では、「持続的な成長を実現する体質への転換」をテーマに、社会・地球環境への取り組みを強化することを掲げています。今年度はその最終年度であり、かつ、2025年度からはじまる新たな中期経営計画で未来を描く大切な1年として準備を進めています。

キューピーグループのサステナビリティ活動は、キューピーグループ サステナビリティ基本方針のもと、国連の持続可能な開発目標(SDGs)を参考に6つの重点課題を特定し、目標を設定しています。2030年度目標達成に向け、中間点となる2024年度もグループ一丸となり取り組みを推進していきます。

2023年11月期を振り返ると、円安基調が続く中、国際的な穀物相場・エネルギー価格の高止まりによる原資材価格の高騰影響、さらに高病原性鳥インフルエンザの感染拡大の影響を受け、厳しい経営環境が続いた1年でした。このような厳しい経営環境においても社会的価値を創出する取り組みとして、食のサステナブルや地球・環境への配慮をテーマにさまざまな活動を進めています。主な取り組みとして、プラントベースフードを中心に食のサステナブルを展開するブランドであるGREEN KEWPIEを冠とした商品の発売、国内調味料初となる100%再生PET樹脂ボトルを一部のドレッシング容器に採用、製造切り替えの際に発生するマヨネーズ残さをバイオガス発電に活用した取り組みが評価され、さまざまな賞をいただいています。

これからキューピーグループは、社会価値と経済価値を両立し、社会と企業の持続的成長を実現させるために、積極的に未来投資していきます。グループの未来の成長に向け、国内の効率化と海外成長に向けた積極的な投資の他、人的資本、ブランド、研究／技術開発、ITデジタル、サステナビリティの5分野への未来投資を積極的に行っていきます。特にサステナビリティにおいては、ブランドがもたらす「自己表現的価値」に重きを置き「そのブランドを所有すること、使うことで自分が心地よい」という価値の提供をしていきたいと考えます。社会価値を創出する企業として生活者から支持され続けることは、中長期での成長を支える利益の創出にもつながります。その利益を、社員をはじめとするステークホルダーに還元することで、好循環の輪を広げていきます。

> サステナビリティ目標

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ
マネジメント -
- 重点課題と推進体制 >
- 環境マネジメント >
- ステークホルダーとの
対話 >
- 社外からの評価 >
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

サステナビリティマネジメント

キューピーグループは、持続可能な社会への貢献とグループの持続的な成長のために、キューピーグループサステナビリティ基本方針をはじめとした各種方針を定め、活動を推進しています。私たちの活動を支えていただいているステークホルダーの皆様との対話を積極的に行いながら、「キューピーグループ 2030ビジョン」そしてキューピーグループの理念「めざす姿」の実現に向け推進していきます。



重点課題と推進体制

キューピーグループのサステナビリティ基本方針や取り組む重点課題、サステナビリティ目標達成に向けた推進体制を示します。



環境マネジメント

キューピーグループは、環境方針のもと事業活動における環境影響に配慮した取り組みを行っています。



ステークホルダーとの対話

ステークホルダーの皆様への姿勢と主な対話の手段についてご紹介します。










社外からの評価

キューピーグループの社外からの評価についてご紹介します。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント -
- 重点課題と推進体制 >
- 環境マネジメント >
- ステークホルダーとの対話 >
- 社外からの評価 >
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キユーピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

重点課題と推進体制

- キユーピーグループ サステナビリティの考え方 
- キユーピーグループ サステナビリティ基本方針 
- サステナビリティ推進体制 
- サステナビリティに向けての重点課題 
- 重点課題特定のプロセス 
- サステナビリティ目標 
- 従業員への浸透 

キユーピーグループ サステナビリティの考え方

キユーピーグループは、「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」を持って世界の食と健康に貢献することで、社会に貢献し続ける企業でありたいと考えています。サステナビリティ活動を重要な活動と位置づけ、グループ理念と規範の実践を通じて、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、グループの持続的な成長の基盤として、活動を推進します。

[>キユーピーのサステナビリティ活動について](#) 

キユーピーグループ サステナビリティ基本方針

**「愛は食卓にある。」への想いを大切に、
さまざまな課題に対して「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」をもって取り組み、
解決をめざします。そして商品の設計、原料調達から、生産、販売、消費までの
バリューチェーン全体を通じて人と環境をおもいやり、
笑顔の溢れる未来を創ります。**

食と健康への貢献

- ・ サラダとタマゴのリーディングカンパニーとして、栄養・健康価値を追究し、広く普及することで、世界の人々の健康寿命延伸に貢献します。
- ・ 未来を創る子どもたちの心と体の健康を、食を通じて応援します。

資源の有効活用・循環

- ・ 卵のすべてを有効に活用する世界で唯一のメーカーとして、技術を磨き、価値を創造します。
- ・ 食べ方提案と未利用部の活用により、世界的にユニークな「野菜活用メーカー」をめざします。
- ・ プラスチックにおける循環型社会の実現のため、商品の環境配慮設計や社外との協働を進めます。
- ・ 水は限りある貴重な資源と認識し、効率的な利用と取水・排水における環境負荷を低減します。
- ・ 需要情報と生産・輸配送情報のマッチング技術を深耕し、食品ロスを削減します。

気候変動への対応

- ・ 原料調達から消費まで、バリューチェーン全体の 排出量削減をめざします。

生物多様性の保全

- ・ 生物多様性の負の影響を最小限に抑え、生態系の回復、再生に努めます。

CO₂

持続可能な調達

- ・ 安全性はもとより、環境や人権への影響に配慮した安定調達をお取引先と協働して進めます。

人権の尊重

- ・ 従業員のダイバーシティ&インクルージョンを推進するとともに、ビジネスに関わるすべての人の人権を守ります。

サステナビリティ推進体制

サステナビリティ委員会は、担当取締役を委員長とし、サステナビリティ目標の達成に向けた方針・計画策定および取り組みを推進しており、年4回委員会を開催しています。

重点課題に対する目標・取り組みについて、分科会や連携するプロジェクトで検討し、グループ内への浸透と定着を図っています。

また、リスクマネジメント委員会とも連携して、環境変化に対応し、経営基盤の強化を進めていきます。



サステナビリティに向けての重点課題

キュービーグループでは、「キュービーグループ 2030ビジョン」の実現やSDGs[※]への貢献など、2030年からバックキャスト思考で検討し、以下のサステナビリティに向けての重要課題を特定しました。

- ・ 食と健康への貢献
- ・ 資源の有効活用・循環
- ・ 気候変動への対応
- ・ 生物多様性の保全
- ・ 持続可能な調達
- ・ 人権の尊重

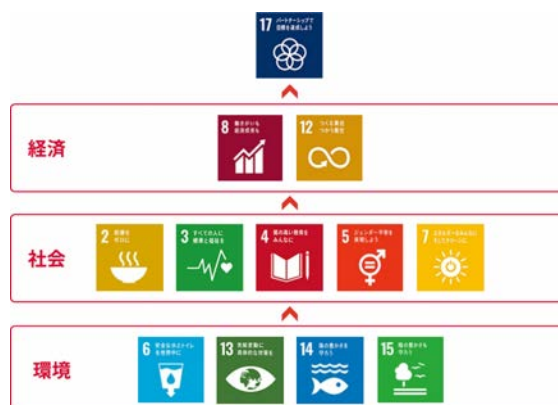
サステナビリティに向けての重点課題は、持続可能な社会の実現への貢献とグループの持続的な成長をめざす上で、事業と社会の双方にとって重要と考えています。社会・地球環境変化に応じて、定期的に重点課題の見直しを行います。



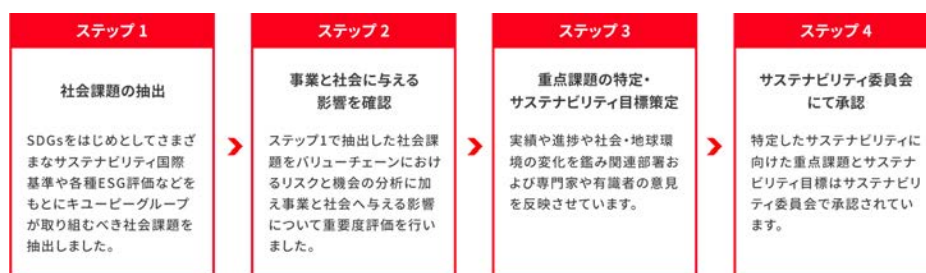
※ 持続可能な開発目標 (SDGs)

SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標)は、2015年に国連で採択された国際社会共通の目標です。持続可能な社会の実現に向けて2030年までに達成すべき17の目標で構成されています。

キューピーグループが貢献するSDGs項目



重点課題特定のプロセス



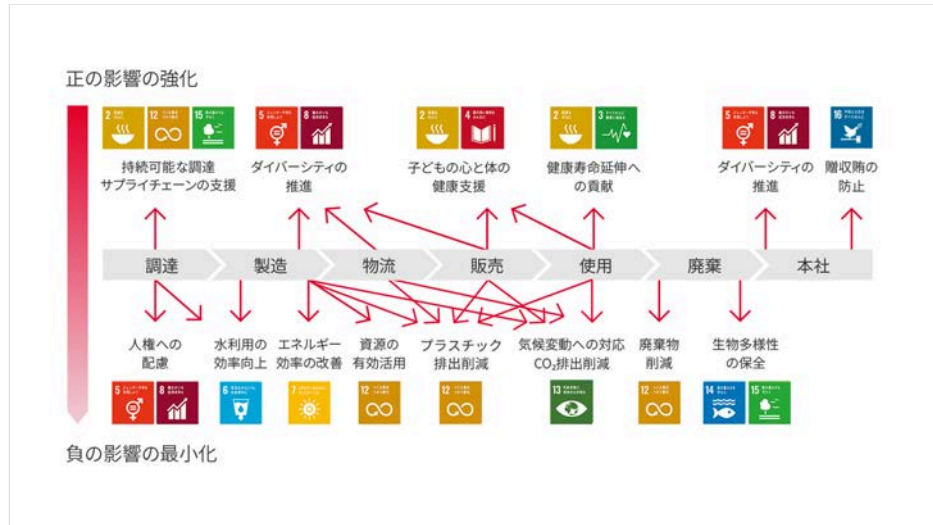
キューピーグループが取り組むべき社会課題の抽出

キューピーグループが事業を通じて取り組むべき社会課題は、持続可能な開発目標（SDGs）、サステナビリティの国際基準GRI、ISO26000、SASBおよび各種ESG評価などを参考に抽出しています。

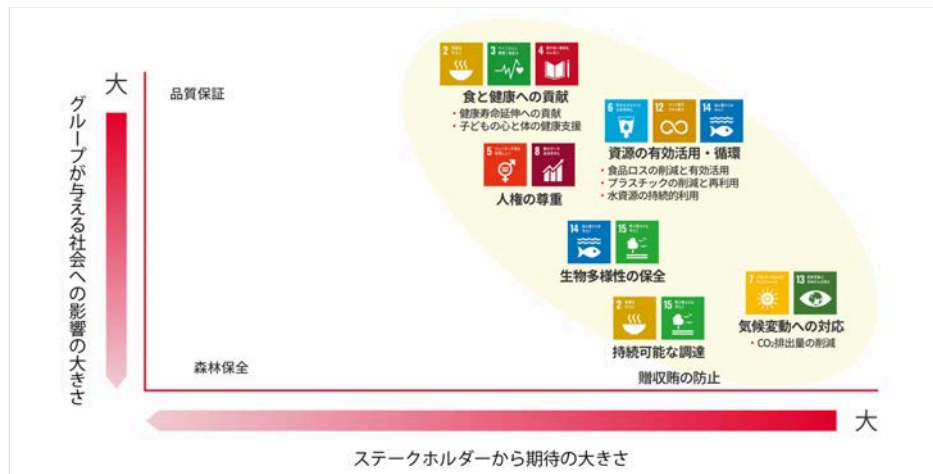
事業と社会に与える影響

バリューチェーン全体およびステークホルダーを網羅的に勘案し、バリューチェーンにおけるリスクと機会の分析に加え、社会課題ごとにステークホルダーからの期待の大きさとグループが与える社会への影響の大きさを評価しサステナビリティに向けての重点課題を特定しました。

バリューチェーンにおけるリスクと機会



サステナビリティに向けての重点課題の特定



サステナビリティ目標

サステナビリティ目標は、サステナビリティに向けた重点課題にひも付け、キユーピーグループとして取り組むテーマを指標化したものです。

従業員一人ひとりが、サステナビリティの意識と視点を持ち、キユーピーグループの理念と規範の実践により、目標達成に向けて取り組んでいきます。

サステナビリティ目標と実績

重点課題	取り組みテーマ	指標	2023 年度 実績	2024 年度 目標	2030 年度 目標
食と健康 への貢献 	健康寿命 > 延伸への貢献	一人ひとりの食のパートナーとして ・1日当たりの野菜摂取量の目標値350gの達成に貢献 ・たんぱく質の摂取に貢献するために卵の消費量アップを推進			
	子どもの心と > 体の健康支援	私たちの活動で創る 子どもの笑顔の数 (2019年度からの累計)	36.1 万人	40万人 以上	100万人 以上
資源の 有効活用・循環 	食品ロスの > 削減・有効活用	食品残さ 削減率 (2015年度比)	59.6%	50% 以上	65% 以上
		野菜未利用部 有効活用率 主要野菜: キャベツなど (当年)	82.7%	70% 以上	90% 以上
		商品廃棄量 削減率 (2015年度比)	75.5%	60% 以上	70% 以上
	プラスチックの > 削減・再利用	プラスチック 排出量削減率 (2018年度比)	20.9%	8% 以上	30% 以上
	水資源の > 持続的利用	水使用量 (原単位) 削減率 (2020年度比)	2.1%	3% 以上	10% 以上
気候変動 への対応 	CO ₂ 排出量の > 削減	CO ₂ 排出量 削減率 (2013年度比)	34.3%	30% 以上	50% 以上
生物多様性 の保全 	生物多様性 > の保全	持続可能な紙の調達率2025年度までに100% (容器包材、印刷冊子、販促物、事務用品)			
持続可能な調達 	持続可能な > 調達の推進	お取引先との協働によって 「持続可能な調達のための基本方針」を推進			
人権の尊重 	> 人権の尊重	ビジネスに関わるすべての人の人権を尊重するために 「キュービーグループ 人権方針」を推進			

※「食品残さ削減率」の指標には「野菜未利用部有効活用率」も含まれています。

※サステナビリティ目標は国内の数値となっています。

※2024年度より「生物多様性の保全」の定量目標を設定しています。

※商品廃棄量削減率の2023年度実績は、2024年1月10日の決算発表時点から変更となっています。

従業員への浸透

社会の持続可能性と企業の持続的成長には、従業員一人ひとりが、方針を理解し共感することが重要と考えています。

社内広報

統合報告書などを従業員教育へ活用しています。社内広報ではキューピーグループ社内報「iQP」、メールマガジン形式によるサステナビリティ通信「NewS」でのサステナビリティ情報を発信しています。



サステナビリティ通信「NewS」

キューピーグループ オフィシャルブログ

2007年3月にスタートした社会・環境への取り組みを社外発信する「キューピーグループ オフィシャルブログ」では、実際に取り組むグループ従業員が記事を執筆することで、従業員一人ひとりがサステナビリティへ共感することをめざしています。

[> キューピーグループ オフィシャルブログ](#)

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント -

重点課題と推進体制 >

環境マネジメント >

ステークホルダーとの
対話 >

社外からの評価 >

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

グループ各社の
サステナビリティ活動 >

環境マネジメント

環境マネジメントの考え方 >

キューピーグループ 環境方針 >

環境マネジメント推進体制 >

環境マネジメントシステム >

環境法規の遵守 >

環境監査 >

事業活動における環境影響 >

地域への環境配慮 >

環境コミュニケーション >

環境マネジメントの考え方

キューピーグループの事業活動は、豊かな自然の恵みのもとに成り立っています。事業活動における環境影響に配慮するとともに「品質第一主義」を土台にしたものづくりと地球環境保全の両立を図り、持続可能な社会の実現に貢献します。

キューピーグループ 環境方針

環境理念・行動指針からなるキューピーグループ 環境方針は、国内外での環境保全の意識の高まりを受けて制定しました。キューピーグループ サステナビリティ基本方針と連動し、取り組みを推進します。

キューピーグループ 環境方針

商品の設計、原料調達から、生産、販売、消費までの
バリューチェーン全体の活動において環境配慮に努めます。

1. 省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、再資源化の推進と技術開発に努めます。
2. 環境の影響に配慮した商品開発と、容器包装の適正化を推進します。
3. 自主的な基準を定めて環境保全に取り組み、法規制の遵守はもとより社会的要請に応える環境管理体制の整備と充実を図ります。

1998年制定、2022年改訂

重点課題と目標の設定

キューピーグループでは、地球環境への取り組みとして「資源の有効活用・循環」「気候変動への対応」「生物多様性の保全」のそれぞれの重点課題の取り組みについて指標(サステナビリティ目標)を設け、実践につなげています。

> [重点課題と推進体制](#)

環境マネジメント推進体制

キューピーグループでは、サステナビリティ担当取締役を委員長とするサステナビリティ委員会を開催しています。環境面では、サステナビリティに向けての重点課題の解決に向け、テーマごとに分科会・連携プロジェクトを設け、グループ全体への浸透と定着を図り、取り組みを推進しています。

環境マネジメントシステム

キュービーグループでは、環境保全活動のPDCAサイクルを回すための基本ツールとして、各事業所でISO14001あるいはこれに準じた独自のシステムを導入しています。

ISO14001 認証取得状況

国内グループ生産71事業所中24事業所がISO14001認証を取得しています(2023年11月末現在)。

環境法規の遵守

キュービーグループの各事業所は、環境に関わる法令・条例などの規制の遵守はもちろん、独自の基準に基づき管理・対応を適正に行っています。

※2023年度は、関連法規などの違反や事故の発生はありませんでした。

環境監査

キュービーグループは、関連法規などの遵守、管理推進体制の整備、施設管理状況などについての基準を定め、定期的な内部監査を実施することで、それらを徹底するとともに環境保全活動を推進しています。この他、ISO14001認証取得事業所では、規格に基づいた外部機関による審査を受け、要求事項に適合した仕組みや運用を確認しています。

事業活動における環境影響

商品の生産工程では、原料・資材・水などの資源、電気・ガス・重油などのエネルギーが消費され、産業廃棄物や水、CO₂などが排出されます。また、商品輸送時のエネルギー使用に伴う環境負荷や、お客様が使用された商品の容器包装は廃棄物になります。そうした事業活動に伴う環境への負荷を正しく認識し、商品の設計、原料調達から、生産、販売、消費までのバリューチェーン全体の活動で、持続可能な地球環境に配慮し、省エネルギー・省資源、廃棄物削減、容器包装の改善、輸送の効率化、汚染防止などの環境保全活動を推進しています。



キュービーグループ生産部門での物質とエネルギーの流れ

キユーピーグループ生産部門における物質とエネルギーの流れ(2023年度)

インプット

エネルギーの使用	購買電力	1,925 千GJ (205,193千KWh)
	燃料 ^{※1}	1,048 千GJ
	エネルギー合計	2,973 千GJ
水の使用	水(地下水、水道水)	7,367 千m ³

アウトプット

大気への排出	CO ₂	149.9 千ト
	NO _x	33.6ト
	SO _x	6.7ト
水域への排出 ^{※2}	排出量	5,879 千m ³
廃棄物の排出	排出量(再資源化率)	33.5 千ト(97.2%)

※1 発電燃料含む

※2 河川、公共下水道含む

対象:キユーピーグループ生産工場

[> ESGデータ集](#)

廃棄物排出量の削減

廃棄物排出量の削減目標

- ・ 総量および生産数量当たりの原単位 前年比減

キユーピーグループの工場から排出される主な廃棄物は、製造工程から排出される食品残さや包装資材のロスとしての廃プラスチック類、排水処理設備における排水処理後の汚泥などがあります。

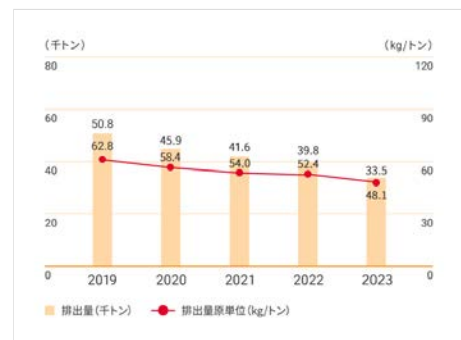
キユーピーグループでは、製造工程における歩留まりの改善や、容器包装の改善などによる廃棄物の発生抑制を第一として取り組んでいます。

また、卵殻の肥料化や野菜未利用部を含む食品残さの社内再生による再資源化(堆肥化・飼料化)や、廃棄物などとして外部に再資源化(堆肥化)を委託することで、工場が発生する廃棄物などの再資源化率100%(単純焼却・埋立て処分ゼロ)に取り組んでいます。

2023年度の再資源化率は97.2%となっています。また、再資源化率100%達成工場は、グループ生産71事業所中28事業所となっています。

[> ESGデータ集](#)

廃棄物排出量[※]



対象:キユーピーグループ生産工場

※ グループ内で再資源化している副産物を除く

※ 使用量・原単位の大幅な減少の主な原因は、サラダ・惣菜事業における一部事業売却による影響

地域への環境配慮

キュービーグループの事業所では、近隣にお住いの皆さまや、地域の環境に配慮して操業を行っています。

水質汚濁の防止

排水処理設備で浄化処理後の排水は自主管理基準を定めて水質などを管理し、地域ごとの基準を遵守しています。また、液体原料・燃料のタンクなどには漏洩防止設備を設置するとともに、万が一の公共水域への排出、地下浸透などを想定した訓練を行っています。

大気汚染の防止

ボイラーやコジェネレーションなどは、適切な運転管理に努めるとともに、定期点検・メンテナンス、ばい煙測定を実施しています。また、ボイラーなどの燃料についても、ばいじんや硫黄酸化物の発生が少ないガスへの転換を進めています。

騒音防止と臭気対策

排水処理や調理の際に発生する臭気対策として、工程改善や脱臭装置の整備を行っています。また、騒音防止のため、防音壁の設置や設備導入時の騒音評価、従業員や納入業者への指導などを実施しています。

環境コミュニケーション

キュービーグループの事業活動は、原材料をはじめとした豊かな自然の恵みのもとに成り立っています。持続可能な社会を引き継ぐために、事業活動が与える自然への影響に十分に配慮し、環境負荷低減活動や環境保全活動の充実を図り、環境活動を通じてステークホルダーの皆様とコミュニケーションを深めることを目的に、情報発信に努めます。

キューピーグループecoマーク

2024年2月より、キューピーグループ独自のecoマークを表示しています。環境に配慮した商品であることをお客さまに分かりやすくお伝えすることを目的に容器包装に対する環境配慮基準を定め、基準を満たした商品に付与します。

 [キューピーグループecoマーク付与商品一覧\(113KB\)](#)



マーク一例

デザインに込めた想い

キューピーグループは「愛は食卓にある。」への想いを大切に、さまざまな課題に対して「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」をもって取り組み、解決をめざしています。その取り組みの一環として、環境に配慮した商品に付与するエコマークのデザインにも「愛は食卓にある。」の想いを込めました。

食卓に不可欠なお皿とスプーンとフォーク、そして中央にecoのロゴを添えて「環境へのやさしさ」を伝え、oの文字にはアクセントとして葉っぱをつけました。

キューピーグループecoマーク付与基準

付与項目	マーク付与基準
プラスチック削減	プラスチック使用量を5%以上削減(2018年を基準として)
再生プラスチック	プラスチック使用量に占める再生プラスチック材料を重量比で25%以上使用
バイオマスプラスチック	プラスチック使用量に占めるバイオマスプラスチック材料を重量比で10%以上使用

表示例



環境教育

キューピーグループでは、従業員の環境保全に対する意識を高め、取り組みを推進するために環境教育を行っています。

関係部署と連携を取り、環境実務に即した内容で要望のある講座を実施しています。

排水処理管理、廃棄物管理などの教育は定期的を実施しています。

各事業所でも、環境問題に関する一般教育や緊急事態を想定した訓練などを行っています。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ
マネジメント -
- 重点課題と推進体制 >
- 環境マネジメント >
- ステークホルダーとの
対話 >
- 社外からの評価 >
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

ステークホルダーとの対話

キューピーグループは、私たちの活動を支えていただいているお客様、従業員、お取引先、株主・投資家、地域社会などのステークホルダーの皆様との対話において、グループ理念・規範の考え方を実践していきます。

※2023.11.30時点の実績

	ステークホルダーへの姿勢	主な対話の手段(2023年度実績)
> お客様	行動規範のもと、品質を最優先に安全・安心な商品をはじめ、すべての活動の質を高め、お客様の信頼にお応えしていきます。	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様相談室(お客様の声 24,786件/年) ・消費者志向自主宣言 ・コミュニティサイト「キューピーコミュニティおはなしダイニング」(会員数20,834人) ・コミュニティサイト「キューピー マヨネーズ ファンクラブ」(会員数14,026人)
> 従業員	倫理規範のもと、人権を尊重し差別やハラスメント行為を行わず、また行動規範のもと、従業員一人ひとりの個性や成長する意欲を尊重するダイバーシティを推進していきます。	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員意識調査(2年に1回) ・労使委員会による対話 ・ダイバーシティ ディスカッション ・キャリア自己申告(1回/年) ・上司と部下の面談を通じた人材育成
> お取引先	倫理規範のもと、公正・自由な競争を行うとともに、透明で健全な関係を築き、相互の発展につなげます。	<ul style="list-style-type: none"> ・営業活動を通じたお取引先とのコミュニケーション ・原材料調達先への定期・不定期訪問および現場交流会 ・生産農家・団体との取り組み
> 株主・投資家	倫理規範のもと、透明で健全な関係を築いていくとともに、当社グループをより理解していただけるよう努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・定時株主総会(1回/年) ※事前にご意見をいただける工夫 ・アナリスト向け決算説明会(2回/年)
> 地域社会	行動規範のもと、食育を中心とした社会貢献活動を積極的に行うことで、社会・地域とのより良い共生を図っていきます。	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキッチン(工場見学)とマヨテラスの見学(44,266人/年) ※オンライン含む ・マヨネーズ教室(食育活動)(5,617人/年) ※オンライン含む ・食をテーマにした講演会(100回/年) ※オンライン含む ・介護に関するイベント(81回/年) ・国内外各エリアにおける地域とのコミュニケーション ・マッチングギフト制度「QPeace」支援先団体の活動報告会(6回/年)

対談

生産者と向き合い、お客様に価値をお届けする
野菜とタマゴを扱うキュービーだからこそ、できること

秋元 里奈
食ベテラス代表
株式会社ビッドガーデン代表取締役社長
キュービー株式会社
経営アドバイザーボード 社外委員

高宮 満
キュービー株式会社
代表取締役
社長執行役員



「サラダとタマゴのリーディングカンパニー」として、持続可能な食を実現する

秋元 キュービーのご縁は経営者の会で高宮さんにお目にかかる前で、私がビッドガーデン創業の頃にこの深谷テラス ヤサイな仲間たちファームを創業した従業員の方にお会いしたのが始まりです。その方は生産の現場を消費者に身近に感じてほしいという強い志を持っていらっしゃいました。企業としても私と共通する考えを具現化しようとする、素敵な会社だと感じました。

高宮 ヤサイな仲間たちファームは、従業員の想いを具現化する社内公募制から生まれたビジネス案件です。投資もかかりますが、挑戦すれば多くの成果も得られます。時には失敗があっても、その経験を次の挑戦に活かせる会社になりたいと思っています。もちろん、本人任せではなく従業員全員で応援してはなりません。

秋元 ビッドガーデンの事業の一つである、生産者が個人や法人に「直接」商品を販売できるオンライン直売所「食べチョク」では、こだわりを持った小規模生産者が高付加価値の農畜水産物を自ら販売できる場所を提供しています。一方では大規模で効率的な農業を進める動きもありますが、規模の大小を問わず、いずれの農業においても消費者の食への理解の深化が大切だと思います。現在、消費者からは農業は遠い存在のように感じられていますが、ヤサイな仲間たちファームは食への理解を深めるためのさまざまな接点を作っており、生産と消費を近づけるという点で似ています。

高宮 キュービーは「サラダとタマゴのリーディングカンパニー」をめざし、サラダ用の調味料を作っています。彩りも豊かで、見ておいしい、食べておいしい、そして体にも優しいというサラダの世界を作り出すのが野菜です。野菜が元気で、おいしくて、健康的でなければ素敵なサラダはできません。サラダを語るために野菜と向き合わ

なければならない、と考えています。今、日本においては、生産者の姿やご苦労が見えづらいことが、第一次産業共通の課題です。

秋元 タマゴの世界も同じですか？
高宮 私たちキュービーは、生産物を加工する立場で共通の問題意識を持っています。例えば、キュービーは鶏卵の日本における生産量の約1割を扱っていますが、昨年は高病原性鳥インフルエンザが大規模発生し、さまざまな対応をせざるを得ませんでした。しかし、一番苦労をなされているのは養鶏業者の方です。養鶏場の感染を心配しながら、限られた数を何とかしてお客様に届けようという思いを込めておられます。私たちキュービーは、いただいた貴重な生産物を加工・調理する立場として、生産物ができるまでの難しさや喜び、それらの感情すべてを価値として伝える必要があります。生産者の方しっかりと向き合うことは大切なテーマと認識しています。
秋元 キュービーは第一次産業の方と深く関係性を持

ち、生産者の規模の大小に関わらず生産物をより高付加価値にすることで、持続可能な食への取り組みを進めておられる印象です。

高宮 私たちは生産物の恵みのおかげで、ビジネスが成り立っている立場ですから、循環型社会をめざし、生産者の方にも参画いただけるような仕組みを作っています。一例を挙げると、当社グループでは、千切りキャベツや野菜ミックスなどをパッケージして手軽に食べられる「パッケージサラダ」を製造・販売しています。それらの野菜はすべて生産者からいただいたものです。従来、キャベツやレタスの外葉は廃棄していましたが、今は堆肥として畑に返す。あるいは肥料として活用する。といった別な価値を創り有効活用しています。こうした循環型の取り組みは、参画して下さる農家や養鶏業者の方に大変喜んでいただいています。今後一層重要になってくると考えています。

キュービーとお客様との接点を
広げ、生産者の方の「顔が見える」
仕組みを作る

秋元 循環型社会への貢献を一例としてあげましたが、自分の仕事が社会に貢献していることを実感できる、この実感を社内でいくつ創れるかが大切だと思っています。実感によって、さらに頑張りが、それにより苦勞も含め成長できる。このサイクルが回し続けられれば、社会も



会社も従業員も幸せになれると思っています。

私たちはECの「Qummy (キューミー)」を立ち上げ、野菜料理を楽しむための商品やサービスをお客様に直接お届けしています。多くのお客様が会員になっていただくことで、ご要望やご意見を直接伺っていきたく考えています。また、顧客接点を広げ新しいお客様に出会うこともめざしています。今後はさらに、野菜のおいしさを直接お届けできるように、生産者の方の「顔が見える」仕組みを、生産者の方にもプレーヤーとして参画いただき、一緒に作り、高めたいのです。

秋元 日本の農業は老後の暮らしにしたいイメージがありますが、実際の現場に行くと若くて想いを持っておられる農家さんがたくさんいらっしゃいます。イメージと実感を合わせていく必要があると常々思っ

ています。
高宮 私たちはサラダ調味料メインの仕事にしていますので、サラダの材料である野菜をもっと理解する必要があります。4月の入社式にはスーツを脱いで、このヤサイな仲間たちファームで自分たちの手で種をまいたり、収穫した野菜を使ったサラダを食べる体験をしました。お客様と生産者をつなぐ役割の一つをキュービーが担っている、ということを確認する場になったと思います。

未来を担う従業員たちにエネルギーを
チャージし、アンチテーゼを
受け止められる会社になりたい

秋元 キュービーの皆さんと関わらせていただく中で、「こういう価値を世の中に提供したい」と熱く語られて

Qummy <https://qummy.kewpie.co.jp/>



いる姿を拝見し、個人が強い想いを抱えている印象を受けました。人を動かすのは強い想いですが、その強い想いを熱く語る人は少ないです。ロジックを組み立てて理路整然と話すことはできても、想いを語るには若手という人が多い中、キュービーには熱い方々がいると思っています。

今回、経営アドバイザーボードの社外委員をお引き受けるにあたり、歴史や商品のお話を伺いました。その会話の中からも、消費者や生産者を含めて、社会全体に価値を提供することに目を向ける想いを持った方々がたくさんおられると思いました。

ビッドガーデンは文字どおり「ゼロ」からのスタートだったので、資金繰りも、仲間集めも、生産者の方とのネットワークも全くないところから始まりました。小さな信頼を積み重ね、生産者さんが集まり、少しずつ仲間も集まり、資金も数年たつたら集まるようになりました。しかし、今でも人も資金も限られている中で、どうやって効率よく最大化していくのか、高い成長をどうやってめざすかを、ただひたすら構築し続けています。

秋元 秋元さんのご経験を従業員にお話しただく、きっと刺激になり、励みになり、また喜びにもなると思います。今まで自分たちが考えていた行動が変わってくる可能性があります。キュービーを10年後も継続して発展させていくために、元氣、エネルギーをチャージしてもらいたいです。

秋元 組織にはフレッシュな考えの人が一人いるだけで雰囲気はガラッと変わります。経営アドバイザーボードでは、私も気にせずにいろいろ発言させていただけますね。

高宮 私はアンチテーゼが当たり前存在する会社にしたのです。日本そのものがアンチテーゼを受け入れるのが苦手なために、今、苦しんでいるのだと考えるからです。過去の成功体験を引きずってはいけなかな変わらねえ。

今、私は社内向けブログで個人的な考え方を発信しています。すると、私の意見に対して従業員がアイコンで自分の感情を表現してくれます。首を傾げているアイコンとかもたくさん出ているのを見ると、多様な考え方が表現されていて、とても健全だと感じます。

秋元 これから、幅広い年代や職種の従業員の方々と接点を持たせていた

くのを楽しみにしています。失敗しても挑戦が称えられる文化を創るために、自分自身の体験や現在のチャレンジをお伝えしたいと思います。今の現場やこれまでの社歴とかは関係なく、アイデアが言い合えるような雰囲気を作りたいですね。もちろんベースとして、DXやサステナビリティー、生産者との接点といった知見に活用していきませんが、新しい取り組みを積極的に全員で応援する風土づくりに貢献したいと改めて感じました。

キュービーは想いがあるって嬉しい方が多い会社だと感じています。一方で、どちらかというと柔らかく進められる方が多い印象も受けています。大型の投資をやらなければならない時など、思い切ってテーゼを踏み越えていくための「伸びしろ」はまだありません。

秋元 特にDXについては、将来に向けて深く向き合っていきたいと考えています。関連したご経験や考え方を今後も披露いただきたいと思います。引き続き、恐ろしいアドバイスをよろしくお願ひします。



サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ
マネジメント -
- 重点課題と推進体制 >
- 環境マネジメント >
- ステークホルダーとの
対話 >
- 社外からの評価 >**
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

社外からの評価

ESG関連指標  評価  認定  表彰 

ESG関連指標

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexは、サステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。キューピーは、第三者調査の結果、2022年からFTSE Blossom Japan Sector Relative Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄に選定されました。

[> FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexウェブページ !\[\]\(3211b5d1d968fc1665909b34f9f16010_img.jpg\)](#)



MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数*

米国のMSCI(モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル)社が提供するESG投資インデックスです。「MSCI日本株 IMI指数」を親指数とし、各業種からESG評価に優れた企業により構成されています。年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)の運用対象として採用されており、キューピーは2024年より構成銘柄に選定されています。

2024 CONSTITUENT MSCI日本株
ESGセレクト・リーダーズ指数

※ THE INCLUSION OF Kewpie Corporation IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF Kewpie Corporation BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

MSCI日本株女性活躍指数(WIN)*

女性活躍推進法により開示される女性雇用に関するデータに基づき、多面的に性別多様性スコアを算出し、各業種から性別多様性スコアの高い企業を選別しています。年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)の運用対象として採用され、キューピーは2017年の初回から2019年までと2022年から連続して構成銘柄に選定されています。

2023 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数(WIN)

※ キューピー株式会社のMSCIインデックスへの組み入れや、MSCIのロゴ、商標、サービスマークやインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社によるキューピー株式会社の後援、宣伝、販売促進ではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産です。MSCIおよびMSCIインデックスの名称とロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数

年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF) が選定したESG投資のための株式指数「S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数」の構成銘柄に採用されています。環境評価のバイオニア的存在であるTrucostによる炭素排出量データをもとに、世界最大級の独立系指数会社であるS&Pダウ・ジョーンズ・インデックスが指数を構築しています。同業種内で炭素効率性が高い企業、温室効果ガス排出に関する情報開示を行なっている企業の投資比重を高めた指数です。

キュービーは2020年より連続して構成銘柄に選定されています。



SOMPOサステナビリティ・インデックス

SOMPOアセットマネジメント株式会社が、独自の評価に基づきESGの取り組みに優れる約300銘柄を採用し、毎年見直しを行うインデックスです。当インデックスに追隨する「サステナブル運用」は、複数の年金基金・機関投資家が採用しています。キュービーは2019年より連続して選定されています。



評価

CDP

CDPは英国を拠点とし、気候変動などの環境分野に取り組む国際NGOです。世界の主要な企業・都市に対して、気候変動や水管理などにどのように取り組んでいるかについて情報開示を求め、調査・評価を行っています。

キュービーグループは2023年、気候変動および水セキュリティにおいて「A-」評価を獲得しました。また、森林(パーム油)はC、森林(木材)はCの評価を受けました。



認定

健康経営優良法人

キュービーは、優良な健康経営を実践している法人として健康経営優良法人2024(大規模法人部門)の認定を受けました。昨年に続き、3年連続の認定となります。

※ キュービー株式会社にて健康経営優良法人2024(大規模法人部門)、株式会社ディスプレイバックジャパン、株式会社サラダクラブにて健康経営優良法人2024(中小規模法人部門)の認定を受けました。

※ 健康経営優良法人認定制度とは

地域の健康課題に即した取り組みや、日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している法人を顕彰する制度。



プラチナくるみん*認定

キュービーは「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定(くるみん認定)を通算7回受けています。2018年5月にプラチナくるみん*の認定を受けました。

*プラチナくるみんとは

2015年4月1日より、くるみん認定を既に受け、相当程度両立支援の制度の導入や利用が進み、高い水準の取り組みを行っている企業を評価しつつ、継続的な取り組みを促進するため、新たにプラチナくるみん認定がはじまりました。



「健康な食事・食環境」認証制度で「3つ星」を取得

キュービーは、「健康な食事・食環境」コンソーシアムが進める第1回「健康な食事・食環境」認証制度の給食部門に応募し、グループオフィス「仙川キューポート」内の社員食堂での取り組みが、最高ランクの「3つ星」認証を受けました。

> 「仙川キューポート」の社員食堂が第1回「健康な食事・食環境」認証制度で「3つ星」を取得しました



表彰

2024年	> 第45回食品産業優良企業等表彰 環境部門 農林水産大臣賞 マヨネーズ残さをバイオガス発電に有効活用
2023年	> SDGs・災害食大賞@2023ローリングストック部門最優秀賞 キュービー「やさしい献立」シリーズ > 令和5年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞 マヨネーズ残さをバイオガス発電に有効活用 > 第11回食品産業もったいない大賞農林水産省大臣官房長賞 マヨネーズ残さをバイオガス発電に有効活用
2022年	> 第6回食育活動表彰「農林水産大臣賞」受賞 > 第72回大会日本食品保蔵科学会 産業技術功労賞「冷圧フレッシュ製法®」 日本食品工学会第23回年次大会 技術賞「冷圧フレッシュ製法®」 > 2022 日本パッケージングコンテスト 包装部門賞 食品包装部門賞「キュービー平飼い卵 マヨネーズ」 > 2022 日本パッケージングコンテスト 包装技術賞 アクセシブルデザイン包装賞「レンジでチンするハッピーレシビ」 > 2022日本パッケージングコンテスト ジャパンスター賞 公益社団法人日本包装技術協会会長賞「ヴェルデ ピーナッツホイップ、チョコホイップ」 > 2022年度グッドデザイン賞「HOBOTAMA」シリーズ3品
2021年	> 令和2年度「知財功労賞」特許庁長官表彰 > サステナアワード2021 みどりの食料システム推進賞  > サプライチェーンイノベーション大賞2021
2020年	> 第7回「食品産業もったいない大賞」農林水産省 食料産業局長賞 > 第2回日本オープンイノベーション大賞 農林水産大臣賞 > UCDAアワード2020 特別賞  > 第3回「SUSTAINA ESG AWARDS 2020」総合部門ブロンズクラス 
2019年	> 第6回「食品産業もったいない大賞」農林水産省 食料産業局長賞 > 「IT JapanAward 2019」準グランプリ > 「ディーラーニングビジネス活用アワード(日経xTECH主催)」大賞 > 令和元年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 農林水産大臣賞 > サプライチェーンイノベーション大賞2019 > 「スムーズBiz推進大賞」大賞 > 世界包装機構「ワールドスターコンテスト2019」フード部門 ワールドスター賞 > 第43回木下賞「新規創出部門」 > 「キュービー3分クッキング」2019年度グッドデザイン・ロングライフデザイン賞

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環

食品ロスの削減・有効活用 >

プラスチックの削減・再活用 >

水資源の持続的利用 >

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

グループ各社の
サステナビリティ活動 >

資源の有効活用・循環

キューピーグループの事業活動は、原材料をはじめとした豊かな自然の恵みのもとに成り立っています。限りある資源を大切に使い、商品の設計、原料調達から、生産、販売、消費までのバリューチェーン全体において、地球環境の持続可能性に配慮した取り組みをグループ一丸となって推進していきます。



サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2030年度目標
資源の有効活用・循環	食品ロスの削減・有効活用	食品残さ削減率 (2015年度比)	65%以上
		野菜未利用部有効活用率 主要野菜:キャベツなど (当年)	90%以上
		商品廃棄量削減率 (2015年度比)	70%以上
	プラスチックの削減・再利用	プラスチック排出量削減率 (2018年度比)	30%以上
	水資源の持続的利用	水使用量(原単位)削減率 (2020年度比)	10%以上



▶ **食品ロスの削減・有効活用**
容器の改良・賞味期間の延長などでの食品ロス削減に加え、食資源の有効活用に取り組んでいます。



▶ **プラスチックの削減・再利用**
品質第一主義を守りながら、容器の軽量化・薄肉化や再生材の採用など商品・サービスにおける環境負荷低減に取り組んでいます。



▶ **水資源の持続的利用**
人々の生活やさまざまな産業を支える大切な水資源について、効率的な活用に取り組んでいます。

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
 マネジメント +

資源の有効活用・循環

食品ロスの削減・有効活用 >

プラスチックの削減・
 再利用 >

水資源の持続的利用 >

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >


イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >


キューピーグループ
 オフィシャルブログ >

グループ各社の
 サステナビリティ活動 >

食品ロスの削減・有効活用

食品ロスの削減・有効活用の考え方 

食品ロス削減への対応 

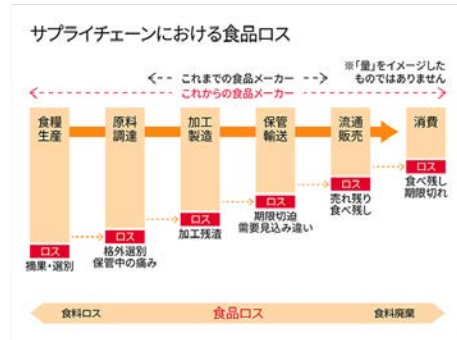
有効活用の推進 

食品ロスの削減・有効活用の考え方

限りある食資源を利用する食品メーカーの重要な責任として、キューピーグループでは食品ロスを削減して、資源の有効活用に努めてきました。

近年、気候変動により原料となる農作物などの収量や品質へ影響が生じるなど、食品ロス削減の重要性は一層高まっています。また、お客様をはじめとするステークホルダーからの食品ロス削減への関心も高まっており、その期待に応え続けたいと考えています。

キューピーグループは、サステナビリティに向けた重点課題「資源の有効活用・循環」の取り組みテーマのひとつに食品ロスの削減・有効活用を掲げ、食品残さ削減、野菜未利用部の有効活用、商品廃棄の削減に注力して取り組んでいます。



サプライチェーンの各段階で発生する食品ロス

食品ロス削減への対応

キューピーグループでは、サプライチェーンの各段階でさまざまな工夫を重ね、グループ内で連携し、食品ロス削減を実現していきます。

製造における食品ロス対応

キューピーグループでは、効率的な製造ラインの配置や商品設計の工夫などで食品ロスを最小限に抑えるための取り組みを行っています。

さまざまなサラダ・惣菜を製造するデリア食品では、製造工程ごとに生産重量が適正であったかを計量・確認するシステムを導入してデータ化し、現状把握や要因分析、対策を繰り返すことで食品ロスを最小限にするよう取り組んでいます。

商品における食品ロス対応

キューピーグループでは、製法や容器包装の改良による賞味期間延長と賞味期限の「年月表示」切り替えを通して、食品ロス削減に取り組んでいます。

また、サラダクラブでは野菜の収穫量が増える旬の時期に増量企画を実施することで消費促進を図り、産地での食品ロス削減への支援を行っています。

開始時期	対象	内容
2024年2月	ヴェルデ トーストスプレッドシリーズ全品	13カ月から19カ月に延長 ただし、バジルのみ11カ月から13カ月に延長
2024年2月	サラダクラブ 千切りキャベツ ミックスサラダ増量企画(九州エリア)	最盛期の産地廃棄(フードロス)削減への支援
2024年2月	サラダクラブ 千切りキャベツ増量企画(全国)	最盛期の産地廃棄(フードロス)削減への支援
2024年2月	サラダクラブ シュレッドレタス増量企画(沖縄)	最盛期の産地廃棄(フードロス)削減への支援
2024年2月	サラダクラブ 千切りキャベツ ミックスサラダ ブロッコリースーパースプラウト彩りミックスサラダ増量企画(東海・北陸エリア)	最盛期の産地廃棄(フードロス)削減への支援
2023年12月	キューピー 3分クッキング 和えの素 3品	7カ月から12カ月に延長
2023年9月	キューピー やさしい献立5品	19カ月から25カ月に延長
2023年9月	キューピー あえるパスタソース8品	11カ月から12~19カ月に延長
2023年6月	サラダクラブ カットレタス増量企画(全国)	最盛期の産地廃棄(フードロス)削減への支援
2023年5月	GREEN KEWPIE ドレッシング2品	8カ月から10カ月に延長
2023年3月	サラダクラブ ヤングコーン	19カ月から24カ月に延長
2023年3月	キューピー デリフィットマヨネーズ 190kg	60日から75日に延長
2023年1月	サラダクラブ 千切りキャベツ ミックスサラダ ブロッコリースーパースプラウト彩りミックスサラダ増量企画(東海・北陸エリア)	最盛期の産地廃棄(フードロス)削減への支援
2023年1月	キューピー 鉄分入りソフトおせんべい	6カ月から12カ月に延長
2022年9月	キューピー あえるパスタソースシリーズ全品	「年月表示」に変更 賞味期間延長
2022年9月	キューピー やさしい献立シリーズ31品	賞味期間を25カ月に延長
2022年6月	サラダクラブ カットレタス増量	生産体制の維持や産地廃棄(フードロス)削減への支援
2022年3月	サラダクラブ加熱用カット野菜 炒めるキャベツ	業界最長クラス 消費期限7日間を実現(加工日+7日間)
2022年2月	キューピー 3分クッキング 野菜をたべよう!スープの素シリーズ	「年月表示」に変更 賞味期間を12カ月から13カ月に延長
2022年	ポテトサラダなどの惣菜	冷圧フレッシュ製法 [※] による日持ち延長 ※ 食品を低温・高圧処理することで、より素材本来の食感や色味を残し、味を維持しながら日持ちを延長できる当社独自の技術

2019年4月	サラダクラブ 千切りキャベツ	消費期限を1日延長(加工日に加え5日間)
2019年3月	サラダクラブ 素材パウチシリーズの一部	賞味期間延長 「年月日表示」から「年月表示」に変更

商品廃棄の削減

商品廃棄の主な原因は、需要予測による生産と販売実績とのギャップや流通段階での売れ残りによる返品が生じることなどです。各社各部門が連携するのはもちろんのこと、フードバンクへの寄贈も積極的に行うことで課題解決に向け取り組んでいます。

需給調整の精度アップへ向けた生産・販売・物流の連携

2015年より関係部署が集まり、月に1度のワーキンググループを開催しています。

ここでは「商品在庫」に着目し、製造から流通に至る過程でのさまざまな課題や解決策を話し合います。

この活動により、社内の食品ロス削減に対する意識も変化したことで、計画的な生産が実現し、商品在庫の適正化によって、廃棄削減につながっています。

お取引先と連携した返品削減の取り組み

関東地区の一部の販売店・卸店と連携し、売れ残りにより廃棄される商品の削減に取り組みました。各店舗の商品の販売傾向を見直して、商品の納入の最適化を図り、取り組みが難しいと言われていた返品ゼロを実現しました。

現在は、この取り組みを水平展開し、社内外の連携を進めながらサプライチェーン全体での商品廃棄削減に取り組んでいます。

食品ロス削減のためのメニュー提案

食品ロス削減に向けた取り組みを、お客様が毎日の食生活の中で実践する支援をしたいと考えています。

野菜の外葉や芯などは捨ててしまいがちな部位ですが、少しの工夫でおいしい食材として活用することをおすすめしています。傷や外敵などから野菜を守るために成長が盛んな部位にあたることで、他の部位とは違う栄養や機能に優れている場合もあります。

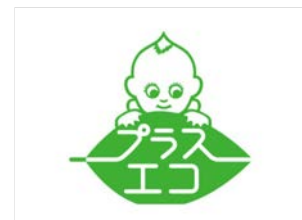
料理メニューを紹介する「とっておきレシピ」サイトで、2019年から東京家政大学の皆さんが考案してくれたキャベツの芯、レタスの外葉、ブロッコリー茎の活用レシピをご紹介します。

使わないのはもったいない！
野菜の意外な食べ方



キューピーの社提供番組「キューピー3分クッキング」では、「簡単、便利、毎日の献立づくり」に役立つレシピを時代に合わせて提供しています。環境への配慮が日常的になってきたこともあり、番組でも「エコ」を取り入れていきます。

食材を無駄なく上手に活用する工夫や、省エネにつながるアイデアなど、毎日の料理に手軽に取り入れられる「エコ」なレシピをご紹介します。「エコ」に取り組むきっかけを提供していきます。



「プラスエコ」ロゴ

有効活用の推進

キューピーグループは、ステークホルダーとの協働により、さまざまな取り組みを進め食資源の有効活用に取り組んでいます。

食品残さを活用したバイオガス発電*の取り組み

キュービーグループでは、多品種のマヨネーズを製造する工程で、異なる商品の製造への切り替え時に、配管から排出されるマヨネーズなどの食品残さが発生します。製造過程で発生する食品残さをバイオガス発電へ活用することに成功しました。

この取り組みは、キュービーの五霞工場、中河原工場、泉佐野工場、神戸工場、およびグループ会社の株式会社ケイパックで行っています。

*バイオガス発電とは、養豚農家から出る家畜の排泄物と食品残さを混合してメタン発酵後、そこで生成されたバイオガスを利用して発電する仕組み。

家畜のふん尿とマヨネーズなどの「黄金比」を見つけ出し、ようやく安定したガス量を確保へ



製品の切り替え時などに、配管などからマヨネーズの廃棄物が出る



発酵タンク

ガスの発電機

- > 令和5年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰で「リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞」を受賞
- > 第11回「食品産業もったいない大賞」マヨネーズ残さをバイオガス発電に活用する取り組みが農林水産省大臣官房長賞を受賞
- > 第45回 食品産業優良企業等表彰 環境部門で「農林水産大臣賞」を受賞
- > 【サステナビリティピックス】マヨネーズで発電?「もったいない」を価値あるものへ

野菜未利用部の有効活用

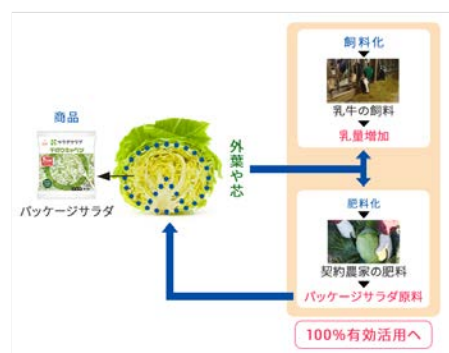
キュービーグループでは、サラダ・惣菜の加工時に生じる野菜の芯やへた、外葉や皮などの未利用部の有効活用に取り組んでいます。

葉物野菜の未利用部

2017年度、カット野菜工場のグリーンメッセージでは、これまで事業規模では難しいとされたキャベツ・レタスの葉物野菜の飼料化に成功しました。東京農工大学とキュービーの共同研究*で、この飼料を与えた乳牛は乳量が増加することが報告されています。また、サラダクラブでは、パッケージサラダを製造する際に直営7工場で発生する野菜の外葉や芯などの未利用部を堆肥や飼料として契約農家などで活用いただいています。

* 日本畜産学会第124回大会(2018年3月)発表

- > 平成30年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 キュービーグループが内閣総理大臣賞を受賞
- > 第6回「食品産業もったいない大賞」キュービーグループが農林水産賞食料産業局長賞を受賞
- > サラダクラブ サステナビリティ



キャベツ未利用部の有効活用

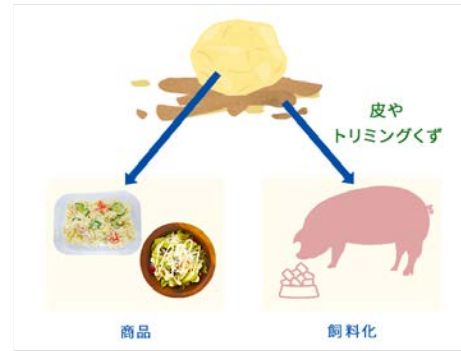
じゃがいもの未利用部

ポテトデリカとデリア食品グループの旬菜デリ 昭島事業所では、ポテトサラダの製造工程で発生するじゃがいもの皮(ポテトピール)やトリミングくずの部分を、特殊な技術を活用して液状にして、養豚向けの飼料にしています。

この技術は、養豚業界の課題である国産の安全な飼料の生産や安定流通につながり、食品残さを使った循環型社会の構築にも貢献しています。

> [デリア食品 サステナビリティ](#)

> [ポテトデリカ サステナビリティ](#)



じゃがいも未利用部の有効活用

卵の100%有効活用

キュービーグループでは、マヨネーズ以外にもさまざまなタマゴ加工品を生産しており、日本で生産される卵の約10%を使用しています。

「キュービー マヨネーズ」は、卵黄を使用し、卵白はかまぼこなどの水産練り製品や、ケーキなどの菓子の食品原料として使われます。

また、年間約2万8千トン発生する卵殻は土壌改良材やカルシウム強化食品の添加材などに有効活用しています。卵殻膜は、化粧品などへの高度利用に取り組んでいます。

> [令和元年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰キュービーグループが農林水産大臣賞を受賞](#)

> [第7回「食品産業もったいない大賞」キュービーグループが農林水産賞食料産業局長賞を受賞](#)



卵の有効活用

卵殻は米を強くし、ヒトの骨も強くする

東京農業大学 応用生物科学部 辻井良政教授、加藤拓准教授と共同で、卵殻の肥料としての価値を研究しています。現在までに、水田に卵殻を施肥することで、猛暑などの天候不順による水稲への影響を低減し収穫量を改善すること、米の品位が向上することが分かってきました。米の作付面積は日本の耕地面積の中で最も大きい※ため、将来的には、キュービーグループだけでなく日本全体の卵殻の有効活用も期待できます。

また、ベトナムのハノイ国立栄養研究所との共同研究では、卵殻カルシウム(食用微細化卵殻粉、炭酸カルシウムを主成分とする生体素材)がヒトの骨量を増加させることを確認しました。卵殻は、高齢化で世界的に課題となる骨粗しょう症の解決に貢献できる素材です。現在ベトナムでは、卵殻カルシウムを配合した栄養強化食品の販売とあわせ学校や病院への啓発と提案を進め、子どもの体格向上と高齢者の骨粗しょう症への課題解決に取り組んでいます。

※ 農林水産省 平成30年農作物作付(栽培)延べ面積および耕地利用率 参照

メッセージ

卵殻の可能性を明らかにすることが今後の課題です

卵殻の主成分であるカルシウムは、植物の細胞一つ一つを頑健にするだけでなく、細胞内でさまざまな生理活性を持つと考えられています。その生理活性の一つとして、カルシウムは高温ストレス時に籾の中へとお米を充填する重要な役割を担っています。カルシウムを多量に含む卵殻は、地球規模で気候変動が生じる中、稲の夏バテを防いでおいしいお米を安定的に供給する農業資材として期待できます。



東京農業大学 応用生物科学部
農芸化学科 土壌肥科学研究室
准教授 加藤 拓

卵殻膜の機能

キュービー独自の製法で卵殻と卵殻膜を分離することに成功しました。水に溶ける卵殻膜には、肌のハリのもととなるⅢ型コラーゲンを増やす働きがあることがわかり、1991年から化粧品原料として活用しています。

卵殻と食酢から生まれたカルシウム肥料

キュービー醸造では、卵殻を食酢に溶かしたカルシウム肥料「葉活酢(ようかつす)」を開発・販売しています。定期的に葉の表面に散布すると、カルシウム欠乏症を防ぐ効果があり、野菜や果物、花など植物が元気に育ちます。

食品由来の成分なので、人や環境にやさしく、安心してお使いいただける商品です。

[> お酢と卵でできた葉活酢 キュービー醸造](#)

卵殻活用のあゆみ

- 1956年 卵殻を天日で干し、土壌改良材として農家に販売を開始
- 1969年 卵殻の破碎・乾燥設備を導入(旧仙川工場)
- 1981年 卵殻を食品用カルシウムとして発売(膜除去技術の確立により実現)
- 1991年 卵殻膜を加工、化粧品原料として発売
- 2007年 卵殻を建築材や日用雑貨(壁紙、タイヤなど)の原料として発売
- 2012年 卵殻を肥料として生産した米に関する研究を開始
- 2017年 ベトナムにて栄養強化食品として卵殻カルシウムソースを発売
- 2019年 卵殻に関する取り組みが「3R推進功労者等表彰」農林水産大臣賞を受賞
- 2020年 卵殻に関する取り組みが「食品産業もったいない大賞」農林水産省食料産業局長賞を受賞
- 2021年 「[卵の有効活用](#)」動画がサステナアワード2021にて「みどりの食料システム推進賞」を受賞

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環
- 食品ロスの削減・有効活用 >
- プラスチックの削減・再利用 >**
- 水資源の持続的利用 >
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

プラスチックの削減・再利用

- プラスチック削減・再利用の考え方 
- キューピーグループ プラスチック方針 
- 容器包装設計でのプラスチック削減 
- 製造・流通でのプラスチック削減 

プラスチック削減・再利用の考え方

キューピーグループは、食品の容器包装などにプラスチックを使用しています。プラスチックは、軽くて壊れにくいという利点がありますが、海洋プラスチックごみをはじめ、地球環境への影響が指摘されています。キューピーグループでは、プラスチックごみが生態系や環境に大きな影響を及ぼす重要な課題と認識し、石油由来のバージンプラスチック使用量削減、および資源循環に向けた取り組みを進めています。

- > 環境省 プラスチック・スマートキャンペーンに参加
- > CLOMA(クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス)に参加

キューピーグループ プラスチック方針

キューピーグループでは、「キューピーグループ プラスチック方針」を策定し、事業活動で使用するプラスチックの削減などの取り組みを加速させ、循環型社会の構築に貢献することをめざして取り組みを推進します。

キューピーグループ プラスチック方針

3R+Renewableを実施し、持続可能な循環型社会の実現に貢献します。

- ・ 開発段階から環境配慮設計を行います。
- ・ バリューチェーン全体で協力し推進します。

2019年制定、2022年改訂

今後推進していく主な取り組み

- ・ 軽量化を主体としたプラスチック使用量のさらなる削減
- ・ 再生プラスチック、およびバイオマスプラスチックの導入
- ・ 分別しやすい容器包装設計
- ・ プラスチックの回収・再生を推進する業界の取り組みに参加



ドレッシング容器の軽量化



再生プラスチックを外装に使用



再生プラスチックを含む容器を採用

容器包装設計でのプラスチック削減

商品の容器包装は、商品の品質やおいしさを保つためには欠かせないものですが、生産する際にエネルギーを消費し、使用後は廃棄物となります。

「キュービーグループ 容器包装選定の基本方針」のもと容器包装の軽量化・簡素化やバイオマス素材、再生材などの開発を進め、環境負荷が少ない包材の採用を推進しています。

 [キュービーグループ 容器包装選定の基本方針\(152KB\)](#)

容器包装の軽量化・簡略化

開始時期	対象	内容
2024年2月	業務用商品 ほしえぬパスタソースパキッテシリーズ	容器サイズ変更によりプラスチック 使用量25%削減
2023年7月	業務用商品 ニューエグスター	ボトルのプラスチック使用量を削減 しすることで軽量化
2023年1月	業務用商品 キュービー、ほしえぬブランド1000 ml・500mlボトル容器入り商品	軽量化によりキャップのプラスチッ ク使用量を約9%削減
2022年9月	キュービー あえるパスタソースシリ ーズソースタイプ	個装サイズをスリム化し、プラスチッ ク使用量を約7%削減
2022年8月	ヴェルデ トーストスプレッドシリ ーズ	容器のラミネートチューブに使用し ている素材の厚みを薄くすることで、 プラスチック使用量を約10.9%削減 (2023年シリーズすべてに採用)
2022年3月	キュービー ベビーおやつ 野菜入り ソフトおせんべい	外装・個包装・トレーの資材を変更 し、プラスチック使用量を35%削減。 さらに材質を単一素材に変えること で、リサイクルのしやすさにも配慮
2022年2月	サラダクラブ パッケージフィルム	パッケージサラダに使用するフィル ムの寸法の縮小化や薄肉化などの規 格変更
2022年1月	サラダクラブ パッケージサラダトレ ー	パッケージサラダに使用するトレ ーを、従来品と比較して、約10%軽量化
2021年3月	キュービー すまいるカップシリ ーズ、キュービー やさしい献立	上部に付いていた外蓋をなくすこと で、使用するプラスチック量を削減
2021年3月	キュービー ベビーおやつ たまごたっぷりぼうろ	外装、内装でのプラスチック使用量を 約25%削減
2019年4月	キュービー ドレッシング 380ml	ボトルの強度を落とさない工夫を施 すことで、従来のボトルの形状イメ ージを損なうことなく軽量化

環境負荷の少ない包材の採用

開始時期	対象	内容
2024年2月	キューピー あえるパスタソースシリーズ	外装を紙パッケージに変更
2024年2月	キューピー 3分クッキング 野菜をたべよう!スープの素	外装を紙パッケージに変更
2023年7月	キューピー テイステイドレッシング、機能性表示食品ドレッシング	再生プラスチックを100%使用したボトルを採用(国内調味料初:キューピー調べ)
2023年5月	ヴェルデ パッケージシリーズ	容器の一部(内容物が入っている部分)にバイオマスプラスチックを配合することで、石油由来プラスチック使用量を40%削減
2021年6月	キューピー テイステイドレッシング	再生プラスチック*30%を含むボトルを採用 ※主に清涼飲料水用のペットボトルを回収後に粉碎、洗浄した後、高温下で一定時間処理し、汚染物質を除去することで高品質にする方法「メカニカルリサイクル(物理的再生法)」で再生したプラスチック
2020年8月	サラダクラブ 素材パウチシリーズ	植物由来のプラスチック*を一部に使ったパウチを、全19品のうち12品で採用 (2022年シリーズすべてに採用) ※植物由来のプラスチック:再生可能な有機資源(サトウキビの副産物などの植物)を原料に使用したバイオマスプラスチック
2020年2月	キューピー ドレッシング スティックタイプ	外装に再生プラスチックを約15%使用

キューピーグループecoマーク

キューピーグループ独自のecoマーク*を表示していきます。環境に配慮した商品であることをお客さまに分かりやすくお伝えすることを目的に容器包装に対する環境配慮基準を定め、基準を満たした商品に付与します。

※2024年2月より開始

▶ [キューピーグループecoマーク詳細](#)



マーク一例

製造・流通でのプラスチック削減

キューピーグループでは、商品容器包装でのプラスチック削減以外にも、調達から製造、流通、消費に至るまでのバリューチェーン全体で排出されているプラスチックの削減に向けた取り組みを行っています。

商品流通容器のリサイクル

液卵用プラスチック容器

キューピータマゴでは、液卵などの卵製品を入れるプラスチック容器をリサイクルし、リサイクルした再生品を使用する取り組み*を行っています。今まで廃棄していたプラスチック容器がリサイクルされることで、廃プラスチックの削減につながっています。

※ 2020年より開始

> [キューピータマゴ サステナビリティ](#) 







左:リサイクル品 右:既存品

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環
 - 食品ロスの削減・有効活用 >
 - プラスチックの削減・再利用 >
 - 水資源の持続的利用 >**
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キユーピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

水資源の持続的利用

- 水資源の持続的利用の考え方 
 - 水リスク・水ストレスの評価 
 - 水資源の効率的活用 
- 節水の取り組み 

水資源の持続的利用の考え方

水は、人々の生活やさまざまな産業にとって欠くことのできない貴重な資源です。キユーピーグループでは、商品の原料になる農作物や生産工程における洗浄・冷却などに多くの水を使っています。事業を継続するために、水は限りある貴重な資源と認識し、効率的な利用と取水・排水における環境負荷の低減に取り組めます。

[> 環境省 ウォータープロジェクトに参加](#)

水リスク・水ストレスの評価

キユーピーグループにおける水リスクについて、事業運営への影響を確認するため、世界資源研究所(World Resources Institute)のAqueductを用いて水ストレス(水需要の逼迫の程度)を評価しています。国内における洪水・高潮による浸水リスクはハザードマップ、海外における洪水・高潮による浸水リスクはAqueductを通じて評価しています。

	事業所数	洪水リスク	高潮リスク	水ストレス
日本	71	26	4	0
中国	4	1	2	1
アジア	4	2	1	0
米国・欧州	2	0	0	1

 ハザードマップ調べ  Aqueduct調べ

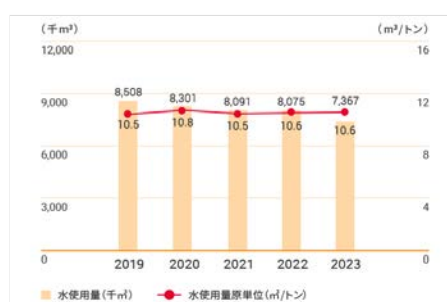
水資源の効率的活用

キューピーグループでは、製造方法の見直しや工程の改善を行い、効率的な水利用を促進し、水使用量の削減に取り組んでいます。

2023年度のキューピーグループ工場の水使用量は、総量7,367千m³でした。

生産量1トン当たりの水使用量(原単位)は10.6m³となりました。

> ESGデータ集



節水の取り組み

キューピーグループは、人と環境にやさしい工場づくりの一環として、排水の高度処理システムを導入し、節水に取り組んでいます。

高度処理水の利用

デリア食品グループでは、生産工程での節水活動として、水使用量の見える化やデータ化を行い、現状把握、要因分析、対策により水使用量を最小限にする取り組みを行っています。

さらに旬菜デリ昭島事業所では、生産ラインからの排水の再利用を行うため、膜処理(RO)技術を活用した設備を導入し、排水から平均160トン/日の純水を再生して、加工場内トイレのほかに、樹木への散水、床の洗浄、屋根散水、空調設備の室外機冷却などに使用しています。



逆浸透膜(RO)ろ過装置

冷却水の有効活用

キューピー醸造では、ビネガー生産時に使用した冷却水をそのまま工場外部へ排出せず、別途温度帯の冷却水として使用することで冷却水の使用量削減を行っています。



過剰給水の抑制

サラダクラブでは、カット野菜の洗浄などで使用する水を常時給水から必要時給水に変更し、さらに過剰給水を抑制するなど管理を徹底することで使用量の削減を行っています。



サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応
- CO2排出量の削減 >
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

気候変動への対応

気候変動に関するパリ協定が2015年に採択され、脱炭素社会の実現に向けて、企業は、より責任ある行動が求められるようになりました。
キューピーグループでは、原料調達から、商品の使用・廃棄まで、サプライチェーン全体を通じたCO2排出削減を実現します。



サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2030年度目標
気候変動への対応	CO2排出量の削減	CO2排出量削減率 (2013年度比)	50%以上



CO2排出量の削減
調達、生産、物流、販売、オフィスの各段階で省エネルギーやエネルギー転換に積極的に取り組んでいます。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ
マネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応
 - CO₂排出量の削減 >
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キユーピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

CO₂排出量の削減

- CO₂排出量削減に向けた考え方
- TCFDへの取り組み
- 生産における取り組み
- 物流における取り組み
- オフィスにおける取り組み

CO₂排出量削減に向けた考え方

キユーピーグループでは気候変動の原因となるCO₂排出量削減のため、調達、生産、物流、販売、オフィスのバリューチェーン全体において、省エネルギーやエネルギー転換など積極的に取り組んでいます。キユーピーグループのサステナビリティに向けての重点課題「気候変動への対応」への取り組みとして、国内グループでCO₂排出量削減目標を設定して、気候変動への対応をさらに推進していきます。

CO₂排出量の削減

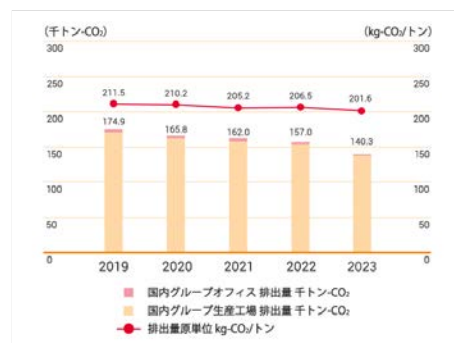
キユーピーグループは、サプライチェーン全体でのCO₂排出量の算定を進め、さらなるCO₂排出削減のため取り組みを推進しています。グループ全体で製造工程の効率改善、省エネ設備の導入など従来の取り組みに加え、脱炭素社会に向けた製法・工程の変革、再生可能エネルギーの導入を推進しています。

> 重点課題と推進体制

再生可能エネルギーの活用

キユーピーグループでは、国内外で再生可能エネルギーの導入を順次進めています。2023年度は、新たに7つの拠点で太陽光パネルを設置し発電を開始しました。CO₂排出量削減のため、海外事業所においても、積極的に再生可能エネルギーに転換に取り組んでいきます。

CO₂排出量



対象：国内グループ生産工場、オフィス
ただし、排出量原単位は、国内グループ生産工場

設置状況	
発電開始時期	拠点名
2023年 8月	コープ食品 東北工場
2023年 6月	キユーピータマゴ 尾張工場
2023年 5月	キユーピーマレーシア
2023年 5月	広州丘比

2023年 3月	サラダクラブ 遠州工場(第2期)
2023年 3月	キューピータマゴ 三田工場
2023年 1月	南通丘比
2022年 8月	キタカミデリカ(オンサイトPPAモデル)
2022年 3月	北京丘比
2022年 1月	キューピー 神戸工場(オンサイトPPAモデル)
2021年12月	キューピーベトナム
2021年 2月	キューピータマゴ 飯能工場
2021年 2月	旬菜デリ 青梅工場
2020年 4月	旬菜デリ 昭島工場
2020年 2月	キューピータイランド(第2期)
2018年 4月	キューピータイランド(第1期)
2017年 3月	グリーンファクトリーセンター白河※(第2期)
2016年12月	キューピー 五霞工場
2016年 2月	サラダクラブ 遠州工場(第1期)
2015年 9月	キューピー 富士吉田工場
2015年 1月	グリーンファクトリーセンター白河※(第1期)
2014年 4月	キューピー醸造 滋賀工場
2013年10月	仙川キューポート
2013年 4月	ケイパック 本社工場
2012年 3月	キューピー ファインケミカル本部五霞工場

※ 富士吉田キューピーは、2021年事業譲渡、グリーンファクトリーセンター白河は、2023年事業撤退しました。その敷地内にキューピーが設置した太陽光パネルは、現在もキューピーが保有管理を継続しています。



キューピーマレーシア事業所内に設置した太陽光パネルの一部

TCFDへの取り組み

キュービーグループの事業は、自然の恵みに強く依存しているため、原材料の収量の減少や品質の低下など、気候変動によるさまざまな影響を受ける可能性があります。今後の気候変動に関連する事象を、経営リスクとして捉えて対応すると同時に、新たな機会も見だし、企業戦略へ生かしてまいります。

キュービーグループは、「TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）^{※1}」へ賛同し、これに賛同する企業や金融機関などが連携する場としての、「TCFDコンソーシアム^{※2}」に参画しました。

キュービーグループ内で「TCFDプロジェクト」を発足し、2021年からTCFDに取り組んでいます。

※1 G20からの要請を受け、金融安定理事会（FSB）が2015年に設立。気候変動によるリスクおよび機会が経営に与える財務的影響を評価し、ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標について開示することを推奨しています。

[> TCFD ウェブサイト](#)

※2 企業の効果的な情報開示や、開示された情報を金融機関などの適切な投資判断につなげる取り組みについて議論する場として、2019年に設立。TCFD提言に賛同する企業や金融機関などが取り組みを推進しています。

[> TCFD コンソーシアムウェブサイト](#)



TCFD分析計画

年度	対象範囲	報告書
2024年度	マヨネーズ・ドレッシング・タマゴ・カット野菜・惣菜（ポテトサラダ）	2025年1月公開予定
2023年度	マヨネーズ・ドレッシング・タマゴ・カット野菜	2023年度TCFD報告 (572KB)
2022年度	マヨネーズ・ドレッシング・タマゴ（液卵・加工品）	2022年度TCFD報告 (497KB)
2021年度	マヨネーズ・ごまドレッシング	2021年度TCFD報告 (566KB)

生産における取り組み

生産部門のCO₂排出削減

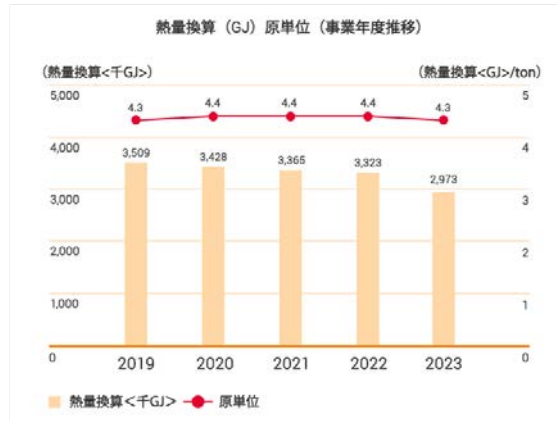
キュービーグループでは、製造工程での効率改善、設備の導入などによる省エネルギーを基本として、A重油から都市ガス・天然ガスへの燃料転換、コジェネレーション（熱電併給）や太陽光発電の利用を進めています。また、グループ事業所での優れた取り組み事例を共有・展開することによってCO₂排出削減に努めています。

生産部門の省エネルギーの推進

キュービーグループでは、生産事業所の各工程にエネルギー測定装置を設置するなど「エネルギー使用の見える化」を進め、設備運用改善・メンテナンスの徹底、省エネ型機器を導入し省エネルギー化を推進しています。

生産部門の省エネルギー削減目標

エネルギー使用量 前年対比1%以上の削減



対象: キュービーグループ生産工場

使用量・原単位の減少の主な原因は、調味料事業の工場再編による効率生産とタマゴ事業の事業再編による効率生産および各事業での計画的な省エネ型の設備更新によります。

自然冷媒冷凍機の活用

キュービーグループでは、省エネ設備の導入と設備の運用最適化に取り組んでいます。冷凍機更新において、自然冷媒機を導入することにより、CO₂削減と脱フロンを実現しています。



アンモニア冷凍機

設置状況	
設置時期	拠点名
2023年	キュービータマゴ 尾張工場 キュービータマゴ 筑波工場
2021年	キュービータマゴ 尾張工場
2020年	キュービータマゴ 伊丹工場
2018年	キュービー 中河原工場
2015年	キュービータマゴ 筑波工場

物流における取り組み

キューピーグループでは、お取引先やグループ会社と連携し、原料輸送から商品配送にいたるまで、すべての輸配送で環境負荷低減に取り組んでいます。

輸配送距離の短縮化と積載効率向上による輸配送効率化、低燃費で安全にもつなげるエコドライブなどを実施しています。加えて、長距離トラック輸送の鉄道や船舶への切替(モーダルシフト)を推進して、CO₂排出削減を実現しています。

輸配送によるCO₂排出量

		2022年度	2023年度	前年度比
キューピー 販賣商品	輸配送量(千トンキロ)	128,385	124,914	-2.7%
	CO ₂ 排出量(トン)	20.6	20.2	-2.0%

モーダルシフトの推進

専用31フィートコンテナ10基(うち冷凍コンテナ4基)を導入し、輸送事業者と連携してモーダルシフト^{※1}を推進しています。

キューピーは、商品を輸送する時に貨物鉄道を一定割合以上利用している企業として、2019年7月に「エコレールマーク」認定をされました。

※1 モーダルシフト:500km以上の長距離トラック輸送を鉄道・船舶でのコンテナ輸送へ転換すること

[> 国土交通省「エコレールマーク」のご案内](#)



鉄道・船舶積載用31フィートコンテナを10基導入し、輸送事業者と連携してモーダルシフトを進めています



モーダルシフト化率の推移

※ モーダルシフト化率:500km以上の輸送トン数に対し、鉄道や船舶による輸送トン数の比率

異業種での共同輸送の取り組み

キューピーは、2018年からトイレタリー業界のライオン株式会社、レンタルパレット業界の日本パレットレンタル株式会社と一緒に共同輸送を実施しています。3社の荷物を載せることで、トラックが空での移動を1%未満に抑えることができました。

加えて、一部区間をトラックから船に切り替えるモーダルシフトを行うことでさらにCO₂削減の効果を高めています。

オフィスにおける取り組み

2022年2月より国内3カ所に設置した太陽光パネルで発電された環境価値(トラッキング付FIT非化石証書[※])付きの電力を、東京電力エナジーパートナー株式会社を通して日本卸電力取引所から調達し、渋谷本社と仙川キューポートの使用電力へと振り替え実質再生可能エネルギー由来へ100%切り替えました。

※ 非化石電源により発電された電気が持つ「非化石電源由来であることの価値」を証書化したものです。小売電気事業者が非化石価値取引市場で調達して、需要家に販売する電気に活用することで温室効果ガス排出量の削減が認められています。

渋谷オフィスでの取り組み

キュービーグループの渋谷オフィス(渋谷董友ビル)は、ビル全体を2重のガラスが覆い(ダブルスキン)、ガラス間を自然換気することで高い断熱性を実現しています。また、高効率空調機やLED照明といった省エネ設備も導入しています。

これらの環境設計により、建築総合環境評価システム「CASBEE」の総合評価Aランクに認定されています。また、グリーンファイナンス促進利子補給金交付決定事業[※]に採用されています。



2重ガラスが覆う(ダブルスキン)外観

※ グリーンファイナンス促進利子補給金交付決定事業:環境省が公募した、地球温暖化対策のための設備投資の事業に係る融資に対する利子の一部を補給する対象となる事業。

仙川キューポートでの取り組み

仙川キューポートでは、吹き抜けを活用した自然換気システム、コジェネレーションシステム、太陽光発電、LED照明などを導入しています。省エネ設計性能を最大化するため、設備メーカーとの連携を深めるとともに、仙川キューポートに勤務する多くの社員に聞き取りなどを行うことで、運用精度の向上を図っています。

さらに、東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社との協働により、クラウドサーバー上のAIを利用して、気象予報データと空調器(冷凍機、ヒートポンプ、ガスボイラー、コージェネレーション発電)の稼働状況などに基づく最適化運転パターン分析を実現、運用を検証し、運転の自動化に向けて、さらなる取り組みを進めています。



自然換気システム

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 -

↳ 生物多様性の保全活動 >

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

グループ各社の
サステナビリティ活動 >

生物多様性の保全

経済活動に伴い、森林伐採による生息地の破壊、環境汚染など生物多様性の損失が急速に進行し危機的状況にあります。

キューピーグループの事業活動は、豊かな自然環境と密接な関わりを持っているため、生物多様性の損失は重大な課題であると認識しています。

「良い商品は良い原料からしか生まれたい」という考えを大切に、原料を生み出す自然の恵みに感謝し、生物多様性の負の影響を最小限に抑え、環境保全と生態系の回復・再生に努めネイチャー・ポジティブをめざします。



サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2030年度目標
生物多様性の保全	生物多様性の保全	持続可能な紙の調達率2025年度までに100% (容器包材、印刷冊子、販促物、事務用品)	



↳ 生物多様性の保全活動

原料を生み出す自然の恵みに感謝し、豊かな自然と生物多様性の保全に努めています。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ
マネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 -
- ↳ 生物多様性の保全活動 >**
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キユーピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

生物多様性の保全活動

- [生物多様性保全の考え方](#)
- [キユーピーグループ 生物多様性方針](#)
- [TNFDへの取り組み](#)
- [調達における生物多様性保全への配慮](#)
- [キユーピーグループの環境保全活動](#)

生物多様性保全の考え方

キユーピーグループの事業活動は、豊かな自然環境と密接な関わりを持っています。私たちは、「良い商品は良い原料からしか生まれない」という考えを大切に、原料を生み出す自然の恵みに感謝し、豊かな自然と生物多様性の保全に努め、持続可能な社会を次世代につないでいきます。

[> 経団連生物多様性宣言イニシアチブに参画](#)

キユーピーグループ 生物多様性方針

キユーピーグループ 生物多様性方針

キユーピーグループは原材料を生み出す豊かな自然に感謝し、生物多様性の保全と生態系の回復、再生に努めネイチャー・ポジティブをめざします。

1. 生物多様性への依存と影響をバリューチェーン全体で把握します。
2. 把握した依存と影響を経営判断に生かし、情報の開示に努めます。
3. 生物多様性への負の影響を最小限に抑え、同時に生態系を回復、再生する活動を積極的に進めます。
4. ステークホルダーの皆様との対話と協働により、バリューチェーン全体で生物多様性保全の取り組みを推進します。

2022年11月制定

TNFDへの取り組み

キユーピーグループの事業活動は、原料を生み出す自然の恵みに強く依存しています。そのため自然環境に与える影響を把握すると同時に、生物多様性・水資源・気候変動などの深く関連する課題を包括的に対応していくことが重要であると考えています。

キユーピーグループは、2024年4月に「TNFD（自然関連財務情報タスクフォース）^{※1}」に賛同し、TNFDフォーラム^{※2}へ参画しました。さらに、課題に対応すると同時に、新たな機会も見だし、企業戦略にも生かしていくためのプロジェクトを発足しました。TNFDフレームワークのLEAPアプローチ^{※3}を活用して、キユーピーグループの主要な原料と直接操業（生産拠点）を対象に分析を行ってまいります。



^{※1} TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）に続く枠組みとして設立され、自然資本と生物多様性に関するリスクや機会を評価するタスクフォースです。金融機関や企業に情報開示を促し、資金の流れをネイチャーポジティブに転換することをめざし、自然関連リスクに関する情報開示フレームワークの構築を推進しています。

[> TNFD](#) 

※2 賛同企業が自然資本に関してリスク管理と開示の枠組を構築するために設立された国際組織です。

[> TNFD フォーラム ウェブサイト](#)

※3 事業が行われる地域やバイオーム(生物群系)に着目しながら、自然関連のリスクと機会を管理するための統合的な評価プロセスのことです。「LEAP」とは、Locate(発見)、Evaluate(診断)、Assess(評価)、Prepare(準備)の4つのフェーズから成り立ちます。

調達における生物多様性保全への配慮

「キューピーグループの持続可能な調達のための基本方針」を2018年に策定し、環境や人権に配慮した調達を推進しています。

[> 持続可能な調達の推進](#)

紙

キューピーグループは紙調達に関して、環境問題と人権などの社会問題に配慮した調達を行います。2023年12月にキューピーグループ 紙調達ガイドラインを策定し、基準・目標を設定し取り組みを推進します。

[📄 キューピーグループ 紙調達ガイドライン\(217KB\)](#)

[> サステナビリティ目標](#)

パーム油

2018年にRSPO[※]へ加盟し持続可能なパーム油の調達に取り組んでいます。

※ RSPO: 持続可能なパーム油のための円卓会議

[> ESG データ集](#)

キューピーグループの環境保全活動

「生物多様性保全の考え方」のもと、キューピーグループでは、富士北麓にある森林「キューピーの森」での植林活動や霧多布湿原における保全活動など、長年にわたり環境保全活動を行ってきました。

キューピーグループの事業活動が自然環境に与える影響を把握し、活動を見直し、持続可能な社会を次世代につなげるため、キューピーグループならではの活動を推進していきます。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 -
- 健康寿命延伸への貢献 >
- 子どもの心と体の健康支援 >
- ユニバーサルデザインへの取り組み >
- 社会貢献活動 >
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

食と健康への貢献

キューピーグループは、人々の生活になくはならない食に携わる企業として、健康で豊かな暮らしの実現に貢献していきたいと考えています。

サラダとタマゴのリーディングカンパニーとして、国内外のあらゆるお客様の食と健康に配慮した商品開発を行い、食を中心としたさまざまな取り組みを通じて子どもの心と体の健康を応援していきます。

また、より良い社会の実現のため「長く継続できること」「多くの方の役に立つこと」「地域に根ざすこと」を柱として、社会貢献活動に取り組んでいます。



サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2030年度目標
食と健康への貢献	健康寿命延伸への貢献	一人ひとりの食のパートナーとして ・1日当たりの野菜摂取量の目標値350gの達成に貢献 ・たんぱく質の摂取に貢献するために卵の消費量アップを推進	
	子どもの心と体の健康支援	私たちの活動で創る子どもの笑顔の数(2019年度からの累計)	100万人以上



健康寿命延伸への貢献

それぞれの世代の食と健康に貢献するための取り組みや、商品を通して特定の条件をもったお客様への配慮を行っています。



子どもの心と体の健康支援

食を中心としたさまざまな活動により未来を創る子どもたちに栄養面だけでなく食の大切さ楽しさを伝えています。



ユニバーサルデザインへの取り組み

できるだけ多くの方にお使いいただけるよう、ユニバーサルデザインの取り組みを行っています。



社会貢献活動

地域社会・国際社会の一員として、地域に根付いた継続的な地域貢献活動の実施や、歌やダンスなどの文化を通じた活動を応援しています。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 -
- 健康寿命延伸への貢献 >
- 子どもの心と体の健康支援 >
- ユニバーサルデザインへの取り組み >
- 社会貢献活動 >
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

健康寿命延伸への貢献

- 健康寿命延伸の考え方
- 健康寿命延伸に向けた協働・研究
- 一人ひとりの健康をサポートする取り組み
- 健康に配慮した商品
- 食物アレルギーへの取り組み
- 医療への取り組み
- 未病(がん予防)への取り組み
- 海外における健康への取り組み

健康寿命延伸の考え方

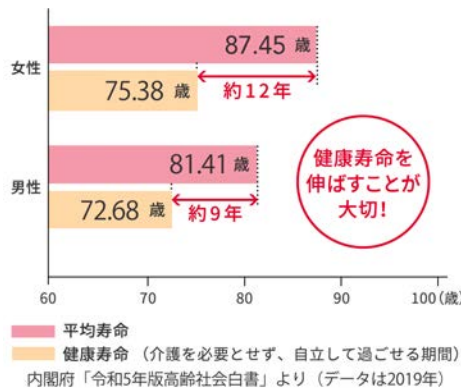
生涯健康のカギとなるフレイル予防に向けて、東京大学高齢社会総合研究機構により栄養(食事・口腔機能)・身体活動(運動を含む)・社会参加(社会活動)の3つの柱が提唱されています。しかし、これは決して高齢者だけではなく全世代に共通するポイントです。3つの柱は、1つよりも2つ、2つよりも3つと複数の柱を自分の生活サイクルにうまく組み込むことが大切です。その中で、キューピーグループは特に「栄養」に関して、「サラダ」「タマゴ」「噛む」「適塩」を推進し、一人ひとりの楽しく健康な食生活をサポートすることを中心に健康寿命延伸への貢献をしていきます。

キューピーグループはサラダとタマゴで一人ひとりの健康を応援します



東京大学高齢社会総合研究機構
教授 飯島勝矢 提唱

平均寿命と健康寿命のギャップ



食と健康への貢献 >

健康寿命延伸に向けた協働・研究

運動と食の両面から健康を応援

生涯健康であるために、「栄養」「身体活動」「社会参加」の3つの要素が大切という想いを共有するセントラルスポーツ株式会社と協働しています。

子どもから高齢者まで健康に過ごしていただくため、インストラクターが実施する食育イベントや、ホームページなどを通して、栄養と運動の大切さを発信しています。

[> セントラルスポーツ 運動と食](#)



共同プロジェクトで健康な食生活に役立つ情報を発信

「健康な食生活に貢献したい」という想いを共有する株式会社ABC Cooking Studioと共同プロジェクト「サラダとタマゴの食と健康キッチン」を立ち上げました。野菜不足やたんぱく質不足、塩分の過剰摂取など、食生活の課題に対して、両社の強みや特徴をいかしたWEBコンテンツや、1dayレッスンなどを通じて「サラダとタマゴ」にまつわる健康な食生活に役立つ情報を発信しています。

2023年3月には健康についての意識や、サラダや卵料理をつくるときの悩みや課題をリサーチしまとめた「サラダとタマゴの食と健康白書2023」を公表しました。

[> サラダとタマゴの食と健康白書2023](#)



東京大学高齢社会総合研究機構との取り組み

東京大学高齢社会総合研究機構と連携し、志を共にする企業と、高齢者の食生活向上に向けて業界連携の場である食のコンソーシアム(「食の在り方研究会」)に参画しています。「食の在り方研究会」では、フレイル予防・対策に向け、生涯健康のための3つの柱を基軸に、新たな産業創出をめざしています。超高齢・人口減少社会を迎えている日本において、医療や介護の分野での限りある公的資源を維持継続していくためにも、フレイル予防に役立つさまざまな産業の発掘と健全な育成をめざします。

[> 東京大学 高齢社会総合研究機構](#)



東京大学高齢社会総合研究機構



フレイル予防イベント

食糧学院との取り組み

栄養士および調理士の養成校である学校法人食糧学院と連携し、学院生徒に向けた講演会や授業を実施しています。

2023年は「サラダから食べる」ことの良さを授業で啓発し、学生自らが作ったサラダをSNSに投稿する企画を実施しました。

取り組みを通じて、学生が楽しくサラダとタマゴの魅力を学んで体感できる機会を提供しています。



授業風景

食生活に関する調査の実施と健康な食生活提案

健康寿命は食生活との関わりが強く、生活習慣病予防としては塩分を控え、野菜を積極的に摂取することが必要といわれています。

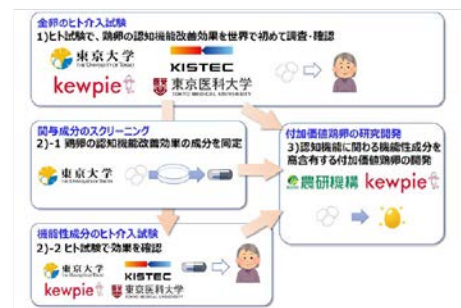
そこで、健康な食生活提案に向けて、長寿県であり、野菜の摂取量も多い長野県松本市・松本大学および東京都渋谷区・東京都健康長寿医療センターとそれぞれ共同調査を実施し、その結果を学会発表や論文にまとめました。

さらに、そうした結果をもとにお客様に向けた食生活提案を地元企業と共に取り組み始めています。

- ▶ [松本大学と共同研究の成果を発表 1](#)
- ▶ [松本大学と共同研究の成果を発表 2](#)
- ▶ [渋谷区と共同調査を実施](#)

鶏卵の摂取による認知機能改善効果

生物系特定産業技術研究支援センター(以下生研支援センター)が公募する「令和3年度 イノベーション創出強化研究推進事業^{※1}」に応募し、「鶏卵市場拡大に向けた卵の認知機能改善研究と付加価値鶏卵の開発」のテーマで採択^{※2}されました。キューピーはこのうち「応用研究ステージ」にて、鶏卵の認知機能改善効果を明らかにし、その機能性成分を高含有する付加価値卵の開発を五者共同でめざします^{※3}。鶏卵の摂取による「認知機能改善効果」を明らかにするとともに、改善に関与する成分を特定し、その効果をヒト試験で確認することを目的としています。



研究体制

※1 従来の常識を覆す革新的な技術・商品・サービスを生み出していくイノベーションの創出を目的とした、「知」の集積と活用による研究開発を重点的に推進する提案公募型の研究開発事業

※2 令和3年度「イノベーション創出強化研究推進事業」の公募における審査結果について:

- ▶ [生物系特定産業技術研究支援センター](#)

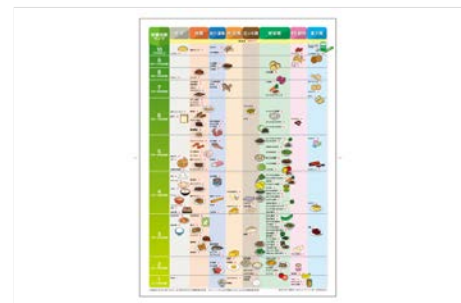
※3 共同研究機関: 国立大学法人東京大学、学校法人東京医科大学、地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)

- ▶ [令和3年度 イノベーション創出強化研究推進事業に採択](#)

一人ひとりの健康をサポートする取り組み

噛むことの大切さを啓発

生涯にわたり食事を楽しむためには、噛む力がとても大切です。しかし、「噛む」という動作は、半ば無意識的に行われる運動であり、噛まない習慣が身につけてしまっている方にとっては意識して改善していくのは困難です。キューピーでは「噛むことの大切さ」の啓発を目的に株式会社ロッテと和洋女子大学とで共同研究に取り組んでいます。2022年には、これまで共同で行ってきた食品ごとの噛む回数に関する研究成果をまとめ、ランク付けした「咀嚼回数ランク表」を公開しました。



咀嚼回数ランク表

- ▶ [よく噛むことを心がけよう!](#)
- ▶ [食品の咀嚼回数や咀嚼効果の研究による健康貢献](#)

食をテーマにした講演会

食についての正しい知識や、食の大切さと楽しさを伝えることは、私たちの重要な役割です。

健康で楽しい食生活に貢献したいと考え、「食」をテーマにした講演会に講師となる社員を派遣し、食生活と健康について正しい情報を提供しています。

プログラムは現在3種類あり、「野菜の魅力」をテーマにしたプログラムでは、野菜の栄養や理想的な摂取量などをDVDで見たり、毎日の生活で実践できる調理法を紹介したり、参加される皆さんに関心を持っていただけるような内容にしています。

参加した方からは、「1日350gの野菜摂取を意識して献立を考えます」「野菜の幅広い魅力、食卓での楽しみ方などを学ぶことができた」などの声も聞かれ、野菜の魅力が伝わっています。

[開催中の講演会プログラム](#)

介護に関するイベント

キューピーは1998年に日本で初めて市販用介護食を発売しました。日本は世界で最も早く超高齢社会に突入し、ますます介護食の必要性は高まっています。

高齢者の食について理解を深めてもらい、ユニバーサルデザインフードについても知ってもらうために、介護の現場に関わる方々や学生へ勉強会を行っています。また、一般の方を対象としたイベントも開催しています。

たまごスター

社内認定制度「たまごスター」を2019年度よりスタートしました。

「タマゴのリーディングカンパニー」をめざしてグループ全体で卵の魅力を語れる従業員を増やすことが目的です。

三ツ星タマリエ検定取得（日本卵業協会）に加え、卵の知識を正しく伝えるための勉強会に参加することで認定されます。

全国約888人の「たまごスター」が卵の魅力を伝える活動を行っています。



たまごスター認定証

たまご白書

「たまご白書」は、卵に対する認識や食べ方、トレンドを分析した調査報告で2017年より実施しています。卵について魅力を感じることや好きな卵料理などのアンケートから、卵の正しい知識の啓発や、卵料理の楽しみ方の提案へと生かしていきます。

[>「たまご白書2023」を公表](#)



健康に配慮した商品

健康に配慮した商品

キュービーグループは、野菜をサラダで食べるという新しい食文化の普及に努め、サラダメニューの拡がりとともに成長してきました。これからも一人ひとりの食のパートナーとして、さまざまな世代の食と健康に貢献するため研究・商品開発を行っていきます。

特定保健用食品



キュービー
ディフェ

機能性表示食品



キュービー
アマニ油
マヨネーズ



キュービー
アマニ油
ドレッシング



キュービー
フィッテ



キュービー
フィッテ
ドレッシング

低カロリー・減塩対応食品



ジャネフ
ノンオイルドレッシング

食物アレルギーへの取り組み

近年、日本をはじめとする先進国では、食物アレルギーは増加の一途をたどっており、食品メーカーとして対応すべき重要な課題と考えています。キュービーでは、より多くの方に食事を楽しんでいただけるよう、さまざまな取り組みを行っています。

商品表示

キュービーでは、一目でわかりやすいように、法令で定められている表示方法に加えて、商品に含まれるアレルギー(特定原材料7品目と表示が推奨されている21品目について)をまとめて表示しています。また育児食(ベビーフード)については、重篤度が高い、あるいは症例数が多い食物アレルギー7品目「卵・乳成分・小麦・えび・かに・そば・落花生」の使用の有無について、商品の正面に一目でわかるように表示しています。



アレルギーアイコン

食物アレルギー7品目不使用のベビーフード

小麦を使用していないしょうゆなど原材料から配慮し、食物アレルギー7品目を使用しない育児食(ベビーフード)の開発を行っています。

「卵不使用」のマヨネーズタイプ調味料

キューピーは、卵アレルギーに配慮し、卵を使わないマヨネーズタイプ調味料(業務用)を学校給食向けに発売しています。発売後の状況から家庭用のニーズが高まっていると判断し、2015年2月に「キューピー エッグケア(卵不使用)」を市販向けに発売しました。今後も社会に求められる商品づくりで食生活に貢献していきます。

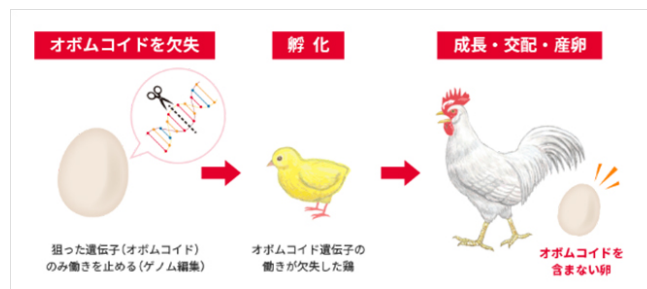


卵アレルギー研究

アレルギー低減卵の研究

キューピーは、国立大学法人広島大学と共に、2013年からアレルギー低減卵[※]の共同研究を進めてきました。「卵の会社」として、卵アレルギーで苦しむ人を「ゼロ」にしたいという思いで、さまざまな取り組みを進めてきました。

2022年11月には、鶏卵を加熱したのちにオボムコイドを水で洗い流す処理を施した「低アレルギー化鶏卵粉末」を用いて、安全に卵アレルギーを予防する可能性が示唆され、学会で研究成果を発表しています。あらゆる方法で“食の選択肢”を広げることは、食品メーカーが向き合うべき重要なテーマです。キューピーは、今後もアレルギー低減卵の研究に取り組んでいきます。



オボムコイドを含まない鶏卵の作出方法

[※] 鶏卵中に含まれる熱や消化酵素に強いたんぱく質を除去することで、アレルギーを低減できる鶏卵のこと。

> [PRTIMES STORY「研究者ディスカッション：アレルギー低減卵の可能性と今後の課題」](#)

卵アレルギーは「食べて予防」へ

卵アレルギーは「食べて予防」へ

食物アレルギーは、じんましんや呼吸困難などを引き起こす病気で、特に卵アレルギーは乳幼児に多いといわれています。これまでアレルギーを引き起こす食品の摂取は避けた方がよいとされてきましたが、最近の研究で「離乳早期に少しずつ食べ始めるほうがアレルギー発症予防に有効^{*}」であることがわかってきました。キュービーグループは、加熱などによりアレルゲン性を低下させた卵を用いて、より安全な卵アレルギーの診断・治療および予防につなげる研究を専門医療機関と共同で行っています。卵アレルギーの無い世界をめざして、これからも診断から治療・予防法確立までの支援を継続していきます。



加熱などによりアレルゲン性を低下させた卵素材

^{*}2016年、国立成育医療研究センターは、卵アレルギーの予防に関する研究成果を発表しました。アトピー性皮膚炎の乳児121人を対象に行った結果、皮膚の治療を十分に行った上で6カ月齢から微量の加熱した卵の粉末を食べた乳児の1歳時における卵アレルギー発症率は8%（食べなかった乳児は38%）となり、その有効性が示されました。この結果を受けて、2017年には日本小児アレルギー学会から「鶏卵アレルギー発症予防に関する提言」が出され、さらに2019年には厚生労働省の授乳・離乳の支援ガイドにおいて卵黄の摂取開始時期が早められました。

医療への取り組み

キュービーのファインケミカル事業は、卵由来のレシチンやリゾチーム、食酢の研究から生まれた酢酸菌酵素など、さまざまな素材を食品・化粧品・医薬品などの分野へ提供しています。中でも30年以上にわたり研究を重ねてきたヒアルロン酸は、事業の中核となる素材であり、国内販売量No.1（2022年富士経済調べ）となっています。

キュービーは国内で唯一、鶏のトサカからの抽出と微生物発酵の2つの方法でヒアルロン酸を製造するメーカーです。分子量のコントロール技術や修飾技術を強みとし、顧客ニーズに合わせた技術支援を行ってきました。

キュービーのヒアルロン酸は、医療用点眼剤や関節機能改善剤の原料など、さまざまな医薬品に使用されています。これらの取り組みで得た製造・品質管理の技術を生かし、ヒアルロン酸を活用した医療機器の企画、開発を行うビジネスを展開しています。

消化管（胃・食道・大腸など）の粘膜層にとどまる早期がんなどの病変を内視鏡を用いて切除する際に使用される医療機器「内視鏡用粘膜下注入材」は、ヒアルロン酸ナトリウムが使われています。ヒアルロン酸の粘性により粘膜下層にとどまることで粘膜層と筋層を分け、その状態を維持することで病変部位の切除または剥離操作性向上をサポートします。キュービーは高品質の医療機器を提供することで、内視鏡による早期がん治療を通じ、健康寿命の延伸に貢献します。

他にも大腸検査を受けられる方や医療機関の皆様へ、検査前日にご使用いただける商品もご用意しています。

[> 検査食](#)



キュービー初の医療機器、内視鏡用粘膜下注入材「ケイスマート」

未病(がん予防)への取り組み

キューピーは「食」でがんを予防する研究を2013年から開始しました。2018年には将来の発がんリスクを判定する研究を始めています。

血液中に存在するマイクロRNAという成分を測定することで、将来の発がんリスクを判定し、マイクロRNAの発現量を改善する食提案で疾病予防の実現をめざしています。現在、これに向け、横浜国立大学、東京医科大学と共同で、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が運営する「人と共に進化する次世代人工知能に関する技術開発事業」のプロジェクトを進めています。

> “将来の発がんリスク判定技術の実現”に向けて



海外における健康への取り組み

それぞれの国のライフスタイルや食の歴史・文化を理解し、お客様に寄り添いながら、キューピーグループが持つ「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」によって新しい食べ方や食シーンを提案し、世界中の人々の心と体の健康に貢献していきます。

各国の食文化に合わせた商品開発

キューピーグループは、日本のオリジナルマヨネーズの味を大切にしながら、海外拠点においても現地の食材や料理に合った調味料の開発に力を注いでいます。

中国ではフルーツサラダに好んで使われる甘いタイプのマヨネーズを開発し、広く使われるようになっていきます。また、中国北部で一般的に食べられている大拌菜(ダーバンツァイ)というサラダ向けにドレッシングを開発し、現在では中国各地で人気の商品になっています。

マレーシアとインドネシア、タイの3カ国でハラール認証を取得した商品を生産し、食の洋風化が進む現地および周辺諸国に向け販売を行っています。

このように現地のニーズに合わせた商品の開発を行い、世界中の人々においしさを提供しています。



左:甘いタイプのマヨネーズ
右:大拌菜ドレッシング



キューピー マヨネーズ ジャパニーズスタイル
(ハラール認証)

中国における食と健康啓発活動

中国でも健康志向は高まりを見せる中、「中国の食と健康への貢献」をめざす丘比(中国におけるキューピーブランド)では、日本や現地での研究成果を生かし、上海市食品学会などと健康普及活動を展開しています。

また、店頭の野菜売り場では、野菜の健康機能を啓発しつつサラダに注目していただく活動も開始しており、上海・北京を起点として中国全土への拡大を進めています。



活動の様子(上海)

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 -

健康寿命延伸への貢献 >

子どもの心と体の健康
支援 >

ユニバーサルデザイン
への取り組み >

社会貢献活動 >

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

グループ各社の
サステナビリティ活動 >

子どもの心と体の健康支援

子どもの心と体の健康支援の考え方 食育活動 フードバンク活動の支援

食を通じた「子どもの貧困対策」への支援 ベルマーク運動

WFP「レッドカップキャンペーン」

子どもの心と体の健康支援の考え方

「食」には体をつくる、体の調子を整えるなど、栄養面だけではなく、健全な心を育む力があります。さまざまな活動を通じて食べることの大切さや楽しさを伝えることで子どもたちの生きる力、考える力を支援していきます。

食育活動

キューピーグループは、「食の安全・安心」とともに「食の大切さと楽しさ」をお伝えする食育活動を実施しています。1961年に「オープンキッチン(工場見学)」を開始し、2002年からは小学校への出前授業「マヨネーズ教室」、2022年からは「SDGs教室」を全国で実施しています。

その他、食に関する情報を提供しています。ホームページでも新たに「食生活アカデミー」などの食育コンテンツを設けたり、健康な心と体づくりを応援するDVDを学校や消費生活センターなどに無償で配布する「メディアライブラリー活動」なども行っています。

> 活動の全体像

食育活動 >

海外における食育活動 >



オープンキッチン

キューピーは「工場は家庭の台所の延長」と考えています。そのため、一般の方の工場見学を「オープンキッチン」と呼んでいます。商品がどのように生産されているのかをお客様の目で見ていただくことが、商品をご理解いただき、安心をお届けする最良の機会であると考えています。

オープンキッチン(工場見学)の歴史は古く、1961年に活動を開始。食品業界では生産現場を公開することが珍しかった当時、小学生の社会科見学を実施したことがきっかけです。現在も、地域の産業を学ぶ場として、多くの見学者を受け入れています。

2020年からはオンライン見学を開始し、現在は来場見学とオンライン見学の両方を実施しています。

> 詳しくはこちら

食育コンテンツ

キュービー公式サイトにて、さまざまな食育コンテンツを開設しています。

子どもたちが主体的に学べたり、一緒に楽しめるコンテンツとして、役立つ情報を随時追加し、内容も充実させていきます。

- [> 食生活アカデミー](#)
- [> 子どもと野菜をたのしもう !\[\]\(a88007b249b36c75dcbde101f514cec3_img.jpg\)](#)
- [> みんなの食と健康応援 !\[\]\(800628c068083563f747129d8b339031_img.jpg\)](#)

野菜料理をつくる経験は子どもの心理的発達に良い影響があります！

親子で一緒に野菜料理をつくることはお子さんの「こころの健康や成長」にとって非常に重要だということが発達心理学領域の研究からわかりました。

月に1回以上の野菜料理の共同調理経験があるお子さんは、野菜料理以外の共同調理経験のみあるお子さんと比較して、自己統制力、主張力、協調性、自己肯定感、論理的・集中的態度、好奇心の全6項目の心理的発達項目において、スコアが有意に高いことがわかりました。

「野菜」とひとくちに言っても、その種類は非常に多く、色・形・香りなどもさまざまです。

また、野菜を使った料理も多岐にわたり、健康な食生活という観点からも食卓への出現頻度が非常に高いのが特徴です。これらの特徴が、子どもの心理的発達に野菜料理の共同調理経験が好影響を与える要因である、と推察できます。

[> 詳しくはこちら](#)

フードバンク活動の支援

日本では、まだ食べられるのに廃棄されている「食品ロス」が、年間約523万トン(令和3年度推計値:農林水産省)あるといわれています。その一方、十分な食事が摂れない人たちも数多く存在しています。キュービーは、2007年よりフードバンク活動^{*1}を行う「認定NPO法人セカンドハーベスト・ジャパン」の支援を始め、今では全国のフードバンク10団体と、提携を結んだ3つの社会福祉協議会を通じて商品を寄贈しています。この活動は、グループ各社にも広がっています。

また、2020年よりキュービーみらいたまご財団を通じて、全国食支援活動協会の立ち上げたMOWLS^{**2}への商品寄贈を実施しています。

^{*1} フードバンク活動:食品企業の製造工程で発生する規格外品などを引き取り、児童養護施設などの福祉施設や生活困窮者へ無償で提供する活動

^{**2} MOWLS:一般社団法人全国食支援活動協会が運営する全国のこども食堂などの「居場所」に集う子どもから高齢者などすべての人が食事を得られる環境をサポートするシステム

食を通じた「子どもの貧困対策」への支援

近年、ライフスタイルや食生活の多様化が急速に進む一方、若い世代を中心とした食に関する知識・興味の低下、食を通じたコミュニケーションの希薄化、子どもの貧困など、食を取り巻く社会課題はますます深刻化しています。キュービーは「食を通じて社会に貢献する」という創業当初からの精神のもと、2017年4月に「一般財団法人キュービーみらいたまご財団^{**}」を設立しました。想いを共有しうる団体の活動を広範に支援することで一企業だけでは成し得ない社会貢献に繋げていきたいと考えています。独自の食育活動とあわせ、長期的な視野をもって健やかで持続的な社会の実現をめざします。

^{**} キュービーみらいたまご財団は2019年4月1日から公益財団法人に移行しました。



公益財団法人 キューピーみらいたまご財団

食育活動および子ども食堂など食を通じた子どもの居場所づくりに取り組む団体への、寄付を中心とした助成活動を行っています。また、子ども食堂などの活動定着を目的に、展開事例紹介や団体同士のネットワークづくりにつながるセミナーを開催しております。

2017年～2023年助成団体数:630団体

2017年～2023年セミナー開催数:13回



[公益財団法人 キューピーみらいたまご財団](#)

ベルマーク運動

ベルマーク運動は、「すべての子どもに等しく、豊かな環境のなかで教育を受けさせたい」という願いからはじまった運動です。

キューピーグループはこの願いに共感し、ベルマーク運動が開始された1960年より、公益財団法人ベルマーク教育助成財団に協賛し、運動に参加した学校などへの教育支援活動に協力しています。



ベルマークとキューピー商品

ベルマークはキューピーのマヨネーズとドレッシングについています。



ベルマークがついている商品

[財団法人 ベルマーク教育助成財団](#)

WFP「レッドカップキャンペーン」

レッドカップキャンペーンは、地球上の飢えに苦しむ子どもたちに学校給食を届ける支援活動です。

キューピーベビーフード「Happyレシピ」シリーズは、国連の食糧支援機関であるWFP国連世界食糧計画の「レッドカップキャンペーン」に参加し、商品の売り上げの一部を寄付しています。



[レッドカップキャンペーン](#)



サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ
マネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 -
 - 健康寿命延伸への貢献 >
 - 子どもの心と体の健康
支援 >
 - ユニバーサルデザイン
への取り組み >
 - 社会貢献活動 >
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キユーピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

ユニバーサルデザインへの取り組み

- ユニバーサルデザインへの取り組みへの考え方 [▼](#)
- ユニバーサルデザインを取り入れた例 [▼](#)
- ユニバーサルデザインフード [▼](#)

ユニバーサルデザインへの取り組みへの考え方

できるだけ多くの方に使いやすいことをめざすユニバーサルデザインへの取り組みは、キユーピーグループのめざす姿「私たちは『おいしさ、やさしさ、ユニークさ』をもって世界の食と健康に貢献するグループをめざします。」を具現化することでもあると考えています。

キユーピーグループではお客様相談室をはじめとしたさまざまな部署が集まる「お客様の声委員会」でユニバーサルデザインにかかわるテーマについて話し合いを行っており、その結果を各部署で具体的に検討しながら、商品の改善に努めています。

キユーピーグループ ユニバーサルデザイン原則

1. 誰でも公平に利用できる
2. 使う上で自由度が高い
3. 使い方が簡単ですぐに分かる
4. 必要な情報がすぐに理解できる
5. うっかりミスや危険につながらない
6. 無理な姿勢を取ることなく少ない力で楽に使用できる
7. アクセスしやすいスペースと大きさの確保
8. 人体に危害を加えない
9. 環境に配慮している
10. 利便性に優れている

ユニバーサルデザインを取り入れた例

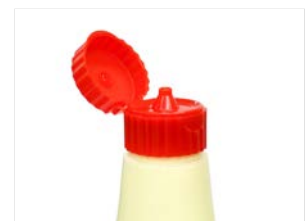
使いやすさへの工夫

ダブルキャップ

細口や星型のダブルキャップ

キユーピー マヨネーズのふたは、細口と星型のダブルキャップだということをご存じですか？上ぶたを開けると細口、キャップを回して外すと星型の口があらわれます。料理の仕上げのデコレーションには細口で、たっぷりとかけたいときは星型で。料理の楽しさが広がるダブルキャップをぜひご活用ください。

また、キャップには、回したときに手が痛くない、壊れにくいなど、ユニバーサルデザインの発想が随所に施されています。





軽く持ちやすい容器

より軽く、より使いやすく、を追求したプラスチックボトル

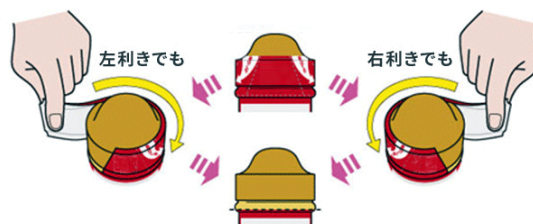
キューピー ドレッシングは「軽さ」「開けやすさ」「持ちやすさ」「注ぎやすさ」「分別しやすさ」「環境配慮」を実現したオリジナルの容器を採用しています。



キャップシール

左右どちらでも開けられる易開封シュリンク

ドレッシングのキャップ部分のシュリンク(フィルム)は、右利き・左利きのどちらの方でも1回の動作で開封することができます。さらに、シュリンクに上から下までのミシン目も追加し、分別の際のはがしやすさに配慮しています。



多面体デザイン

瓶の上部を多面体にする事で、握りやすさと開けやすさを実現しました。



パキッテ

片手ですばやくかけられるポーション容器「パキッテ」

「パキッテ」は、片手で容易に開封でき、従来の袋やカップに比べ、手を汚すことなく中身を完全に押し出すことができる容器です。1983年にアメリカで発明され、1987年にはキユーピーのグループ会社であるディスプレイパックジャパンが、世界に先駆けて技術開発および商品化に成功しました。さまざまな食シーンにあわせ、出し口を工夫するなどラインアップを拡充しています。現在では中食や外食産業をはじめ、家庭や学校給食などで幅広く使用されています。



分かりやすい工夫

開栓日メモ

開栓した日を記入する「開栓日メモ」



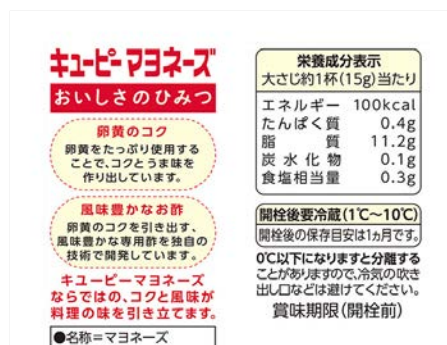
点字表示

「アラハタ」「ジャム」「ドレ」という点字を入れ、より多くのお客様に判断しやすいようにしています。



大きな文字

文字を大きくし、一目で見やすく、分かりやすくしています。



※2024年5月末時点

ユニバーサルデザインフード

どなたにも食べやすくおいしい食事として楽しんでいただきたいという想いから、キューピーはさまざまな商品を開発してきました。いつまでも「食」を楽しむことのできる豊かな食生活の実現を応援しています。

「やさしい献立」は、食べやすさから生まれたユニバーサルデザインフードです。食べる人の噛む力、飲み込む力に合わせて選べる4段階のやわらかさと、とろみ調整食品があります。



ユニバーサルデザインフード(UDF)とは

ユニバーサルデザインフード(UDF)は、日常の食事から介護食まで幅広くお使いいただける、食べやすさに配慮した食品です。2002年設立の日本介護食品協議会(加盟95社:2023年10月現在)は消費者がより分かりやすいように噛む力・飲み込む力に配慮し、「かたさ」や「粘度」に応じて選べる4段階のやわらかさと、とろみ調整食品に区分されています。各区分に分類される商品にユニバーサルデザインフードロゴマークを使用しています。



ユニバーサルデザインフードについて

区分	容易にかめる	歯ぐきでつぶせる	舌でつぶせる	かまなくてよい
噛む力の目安	かたいものや大きいものはやや食べづらい	かたいものや大きいものは食べづらい	細かくてやわらかければ食べられる	固形物は小さくても食べづらい
飲み込む力の目安	普通に飲み込める	ものによっては飲み込みづらいことがある	水やお茶が飲み込みづらいことがある	水やお茶が飲み込みづらい
かたさの目安 (ごはんの調理例)	ごはん ~やわらかごはん 	やわらかごはん ~全がゆ 	全がゆ 	ペーストがゆ 
かたさの目安 (たまごの調理例)	厚焼き卵 	だし巻き卵 	スクランブルエッグ 	やわらかい茶碗蒸し(具なし) 

▶ [日本介護食品協議会ホームページ](#)

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 -
 - 健康寿命延伸への貢献 >
 - 子どもの心と体の健康支援 >
 - ユニバーサルデザインへの取り組み >
 - 社会貢献活動 >
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

社会貢献活動

- 社会貢献活動の考え方 ●
- マッチングギフト制度 ●
- 地域との連携 ●
- その他の社会貢献活動 ●

社会貢献活動の考え方

キューピーグループは、人々の生活になくてはならない食に携わる企業として、健康で豊かな暮らしの実現をめざした貢献をしていきたいと考えています。

そのために、「長く継続できること」「多くの方の役に立つこと」「地域に根ざすこと」を柱として、地域社会とのより良い共生をめざして社会貢献活動に取り組んでいます。特に、地方自治体や地域のNGO・NPOなどの団体との協働を通じて、さまざまな地域の発展につながる活動を行っています。

マッチングギフト制度(QPeace)

キューピーグループは、従業員が社会課題の解決に取り組む団体に寄付を行うことを支援する活動として、マッチングギフト制度「QPeace(キューピース)」を2008年度より導入しています。寄付先の団体は、従業員の推薦を受け、有志による選定委員会で決定しています。2023年度は、グループ26社が参加し、「子ども」「環境」「食」を活動のテーマとする10の社会・環境団体へ寄付を行いました。従業員が社会課題への関心を高めるきっかけとしています。



QPeaceの流れ

1. 従業員が支援したい団体を推薦。従業員からなるプロジェクトメンバーと事務局で、推薦された団体を審査し、決定
2. 寄付を希望する従業員は毎月100円を1口として給与天引きし、QPeaceに積立
3. 会社は従業員の積立金と同額を支援
4. 各社会・環境活動団体へ寄付

■ 2024年QPeace支援団体(453KB)



地域との連携

キューピーグループは、さまざまな自治体と協働して地域社会の課題解決や地域の活性化に取り組んでいきます。

包括連携協定

締結年月	グループ	連携自治体名	目的と主な取り組み
2023年9月	キューピー	> 愛知県西尾市	<p>双方の資源を有効に活用した協働を推進することにより、地域のさまざまな課題に迅速かつ的確に対応し、健康増進や地域の活性化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内小学校の学校給食で、児童の食に対する興味・知識を増やしてもらうための活動 ・外食でもおいしくサラダを楽しむ機会を創出する「あいちみんなのサラダプロジェクト」イベント開催 ・西尾市拠点のスーパーとのタイアップによる地元野菜啓発活動と地産地消の推進
2019年2月	キューピー	> 山形県	<p>地域の活性化と市民の生活の質向上を目的とした地域創生の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内小学校にてマヨネーズ教室を実施 ・地域スーパー惣菜部と連動し、「減塩・ベジアップ」企画を実施
2018年3月	キューピー	> 広島県広島市	<p>地域の活性化と市民の生活の質向上を目的とした地域創生の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島県、広島市、JA全農ひろしまと連携し、地元食材×たんぱく質を組み合わせた「ひろしまサラダ」を提案
2016年12月	キューピー	> 東京都渋谷区	<p>地域社会の課題解決を目的とし、新たな取り組みを推進することで、社会・地域とのより良い共生を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渋谷区民の野菜の摂取量や、フレイル予防に効果的な卵などのたんぱく質の摂取量の調査を東京都健康長寿医療センターと共同で実施 ・令和5年度 渋谷区総合防災訓練「渋谷防災キャラバン」に協賛 ・令和5年度「しぶや・もったいないマーケット」でワークショップを開催
2013年3月	アラハタ	> 広島県 〇	<p>県民サービスの向上や地域経済の活性化を図り、広島県産オリジナル商品の開発や観光振興、県民サービスの向上や地域経済活性化の推進、健康増進・食育に関すること、地域の安全・安心に関することなど、多岐にわたる取り組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のボランティアが主体となり、小学校の子どもたちが始業前に集まり、朝ごはんを食べる広島県「朝ごはん推進モデル事業」に対し、商品を提供 ・広島ならではの給食メニューのレシピを公募し、その中から選ばれたメニューを給食で提供する「ひろしま給食推進プロジェクト」の広島県の取り組みに対し、メニュー審査や商品を提供

その他自治体との取り組み

連携自治体名	主な取り組み
福島県	「福島の食卓に笑顔を！」をテーマに掲げ、従来の「マヨネーズ教室」の枠を超え、福島県産野菜の地産地消サイクルの構築と、その先にある「新たな食シーンの創出」までを見据えた社会貢献プログラムを実施
愛知県	地元行政や有識者と連携して「あいち みんなのサラダ」プロジェクトを立ち上げ、2018年8月に実行委員会を設置し、県民が好む「うま味」「食べごたえ」「意外性」を備えた「あいちサラダめし」を考案し、県内の飲食店へ提案(2024年1月時点:賛同店約170店、提供店約50店)

全国47都道府県「ご当地ペイザンヌサラダ^{*}」の取り組みを始動

2023年にキュービーと全国農業協同組合連合会との共同で、全国各地の食材で作る「ご当地ペイザンヌサラダ」の取り組みを始動しました。地域ごとにキュービーの支店・営業所と全農の都府県本部が協力し、ご当地ペイザンヌサラダと、サラダに使用のご当地食材の販促活動を、地域の量販店や自治体と連携しながら実施します。この取り組みを通して、地元野菜の新しい食べ方を提案し、野菜の消費を後押しするとともに、地産地消による地域の活性化に貢献していきます。



※ペイザンヌサラダとは？
ペイザンヌサラダとは、「田舎風サラダ」という意味で、フランスで親しまれている、野菜と卵などを盛り合わせたカジュアルなサラダです。いつもの食材で簡単に作れて、食べ応えがあるのが特徴です。

清掃活動

各事業所では、環境美化活動の一環として敷地周辺の自主的な清掃活動を実施しています。また、地域で行われている周辺の河川や商店街の定期的な清掃に参加しています。こうした取り組みは「キュービーグループ オフィシャルブログ」でも紹介しています。

[> キュービーグループ オフィシャルブログ](#)



アヲハタ アダプト活動

アヲハタ アダプト活動

アヲハタは広島県と包括連携協定を締結しており、連携して取り組む項目の一つに「環境対策・リサイクルに関すること」があります。その一つとして県道のアダプト活動[※]への参画があり、2013年に広島県からアダプト活動認定団体として認定され、活動を続けています。

アヲハタ本社のあるJR忠海駅前の道路（県道東広島本郷忠海線）を年5～6回清掃活動などを行っておりその道路には「アヲハタ株式会社」と記載のある看板が設置されています。

毎回ゴミの量はさほどありませんが、種類としては空き缶、ビニール袋、たばこの吸い殻などが見られます。また、ゴミを拾う以外にも歩道に生えている雑草なども取り除いています。

地域の方から挨拶やお礼を言われるなど、活動を通じて地域とのつながりを感じることができます。従業員はもちろん地域の方々も気持ちよく過ごせるよう今後もアダプト活動を続けていきます。

※ アダプトとは英語で「〇〇を養子にする」の意味から、一定区画の公共の場所を養子にみ立て、市民がわが子のように愛情をもって面倒（清掃や草刈りなど）をみていく活動。



海外における地域貢献活動

キューピータイランド (KEWPIE (THAILAND) CO., LTD.) では、「環境」「地域貢献」「子ども支援」の3つのテーマに沿った活動を、利益の2%を予算計上して実施しています。これは現地合弁先であるサハグループの企業方針にも沿ったものです。

主な取り組み

ソーラーシステムの運用、水のリサイクル、バイオマス燃料の使用推進

水源保持の為に植林活動(2023年20,000本)

廃棄物残さを堆肥に活用し近隣住民への配布

従業員子女への就学支援

近隣小学校の図書室や遊具改装支援

飲み水衛生設備などの導入・メンテナンス



図書室改装支援



改修した小学校遊具

その他の社会貢献活動

文化貢献

歌やダンスなどの芸術文化活動を通じて、あらゆる世代の健康で笑顔あふれる生活を応援していきます。

おかあさんコーラス

キューピーは、「全日本おかあさんコーラス大会(全日本合唱連盟・朝日新聞社主催)」と「全沖縄おかあさんコーラス大会(全沖縄おかあさんコーラス連盟・琉球新報社主催)」に協賛しています。

これらの大会は日頃、家事や仕事などで忙しいおかあさんに、コーラスの楽しさを存分に味わっていただく場です。

ご家族の笑顔と健康を支えているおかあさんたちを、私たちは応援しています。



全日本おかあさんコーラス大会

毎年全国各地で支部大会が行われ、およそ700団体が参加する大規模な催しになっています。その中から選ばれた約60団体が、全国の主要都市で行われる全国大会に出場。日頃の練習の成果を発表しています。主婦コーラスの愛好家にとっては、欠かせない発表の場になっています。

[公式ホームページ](#)



全日本おかあさんコーラス大会のあゆみ

全日本おかあさんコーラス大会は、当時の石井歓全日本合唱連盟理事長の「おかあさん方に芸術を知っていただくことが、健康な家庭を作るために必要だ」という信念のもと、1978年に全日本合唱連盟と朝日新聞社の主催で「全日本ママさんコーラス大会」として始まりました。

第1回大会は全国で232団体・約1万人が参加し、全国大会は虎ノ門ホール(東京)で25団体が出場して盛大に開催されました。その後、参加団体は順調に増え、現在、毎年3月から7月に行なわれる各地の支部大会におよそ700団体が参加する大規模な催しになっています。

開催実績

開催年 (回数)	開催地	会場	あゆみ
2023年 (第46回)	兵庫県	アクリエひめじ	—
2022年 (第45回)	東京都	昭和女子大学人見記念講堂	—
2021年 (第44回)	静岡県	アクトシティ浜松大ホール	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため 開催中止 オンラインイベント「おかあさんコーラス オンラインフェスティバル2021」を実施
2020年 (第43回)	宮崎県	メディキット県民文化センター	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため 開催中止 オンラインで「バーチャルおかあさんコーラス」を実施
2019年 (第42回)	石川県	金沢歌劇座	—
2018年 (第41回)	愛媛県	ひめぎんホール	—

2017年 (第40回)	岡山県	岡山シンフォニーホール	—
2016年 (第39回)	青森県	リンクステーションホール 青森	—
2015年 (第38回)	北海道	札幌コンサートホールKitar a	—
2014年 (第37回)	新潟県	りゅーとびあ新潟市民芸術 文化会館	—
2013年 (第36回)	大阪府	フェスティバルホール	—
2012年 (第35回)	東京都	文京シビックホール 大ホ ール	35回記念大会として、全国大会を 3日間開催。
2011年 (第34回)	福岡県	アクロス福岡	—
2010年 (第33回)	長野県	長野県県民文化会館 ホク ト文化ホール	—
2009年 (第32回)	愛媛県	ひめぎんホール	—
2008年 (第31回)	福島県	郡山市民文化センター 大ホ ール	—
2007年 (第30回)	鳥取県	鳥取県立県民文化会館 梨花 ホール	—
2006年 (第29回)	北海道	札幌コンサートホール Kita ra	—
2005年 (第28回)	長崎県	長崎ブリックホール大ホー ル	—
2004年 (第27回)	神奈川県	よこすか芸術劇場	—
2003年 (第26回)	滋賀県	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホ ール	—
2002年 (第25回)	東京都	東京文化会館 大ホール	25回記念大会として、「ひびけ お かさん in Tokyo!」をサブタイ トルに全国大会を3日間開催。
2001年 (第24回)	富山県	富山市芸術文化ホール オー バード・ホール	—
2000年 (第23回)	香川県	香川県県民ホール グランド ホール	—
1999年 (第22回)	岩手県	岩手県民会館	—
1998年 (第21回)	岡山県	倉敷市民会館	連盟創立50周年記念事業として、 全国大会1日目の夜に「コーラス ジャンボリー」を倉敷チボリ公園 で開催。

1997年 (第20回)	北海道	札幌コンサートホール Kitara	—
1996年 (第19回)	熊本県	熊本県立劇場コンサートホール	—
1995年 (第18回)	群馬県	群馬音楽センター	—
1994年 (第17回)	京都府	京都会館 第1ホール	—
1993年 (第16回)	石川県	金沢市観光会館	この年から全国大会を2日間開催。
1992年 (第15回)	東京都	東京芸術劇場 大ホール	—
1991年 (第14回)	愛媛県	愛媛県立県民文化会館 メインホール	—
1990年 (第13回)	福島県	郡山市民文化センター 大ホール	—
1989年 (第12回)	広島県	広島厚生年金会館ホール	—
1988年 (第11回)	北海道	北海道厚生年金会館ホール	—
1987年 (第10回)	福岡県	福岡サンパレス 大ホール	少年少女合唱祭(第1回)を併催。もう一つのおかあさんコーラス大会と銘打った「おかあさんコンサート」を始める。
1986年 (第9回)	神奈川県	神奈川県県民ホール	少年少女合唱団大集合を前日に併催。この年から開催地は全国持ち回りとなる。
1985年 (第8回)	大阪府	フェスティバルホール	—
1984年 (第7回)	東京都	ゆうぼうと簡易保険ホール	—
1983年 (第6回)	愛知県	名古屋市民会館 大ホール	初めて東京・関西以外で全国大会を開催。
1982年 (第5回)	兵庫県	神戸文化ホール 大ホール	—
1981年 (第4回)	東京都	普門館	—
1980年 (第3回)	京都府	京都会館 第1ホール	名称を「全日本おかあさんコーラス大会」と変更。
1979年 (第2回)	東京都	東京文化会館 大ホール	—
1978年 (第1回)	東京都	虎ノ門ホール	「全日本ママさんコーラス」を開催し、継続行事として意義のある第一歩をしるした。

全沖縄おかあさんコーラス大会

全沖縄おかあさんコーラス大会は「楽しく歌う」を原点到に1979年にスタートしました。最初は舞台上に立って歌い終わると、そこから客席に行き、次の団体の歌を聴くというような発表会規模の小さな催しでした。回を重ねるごとに各市町村へと広がり、歌を愛する人が集まるすばらしい文化活動へと成長しました。今ではコーラスのレベルも上がり、沖縄の歌も多く歌われ、その普及にも貢献しています。



全沖縄おかあさんコーラス大会のあゆみ

「ママさんバレーがあるのに、ママさんコーラスもあってしかるべき」との発想から、全沖縄おかあさんコーラス連盟初代理事長の故仲里朝太郎氏、前相談役の鳩間用吉氏、前理事長の新島ユキさん、兵庫県在住の柴田民子さんを中心に1979年2月14日、5団体による「親睦演奏会」が那覇中央公民館で開かれ、これが今日の「全沖縄おかあさんコーラス大会」の基礎となりました。翌1980年3月1日、当時全日本合唱連盟理事長の石井欽氏を招いて「第1回那覇ママさんコーラスまつり」を琉球新報ホールで開催し、継続行事として意義ある第一歩を歩きました。その後、参加団体の範囲が「那覇」から「全県」へ広がり、今では加盟団体への還元事業として合唱講習会や指導者講習会を定期的に関き、組織の結束力の強化、演奏技術の向上にも努めています。

開催実績	—
------	---

開催年 (回数)	会場	あゆみ
2023年 (第43回)	琉球新報ホール	—
2022年 (第42回)	琉球新報ホール	3年ぶりの開催。オンラインでの同時配信を実施。
2021年	琉球新報ホール	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施を延期
2020年 (第41回)	琉球新報ホール	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催中止
2019年 (第40回)	琉球新報ホール	—
2018年 (第39回)	豊見城市立中央公民館	—
2017年 (第38回)	豊見城市立中央公民館	—
2016年 (第37回)	浦添市てだこホール	—
2015年 (第36回)	浦添市てだこホール	—
2014年 (第35回)	宮古島市マティダ市民劇場	名称を「全沖縄おかあさんコーラス大会」と変更。

2013年 (第34回)	那覇市民会館 大ホール	—
2012年 (第33回)	浦添市てだこホール	—
2011年 (第32回)	浦添市てだこホール	—
2010年 (第31回)	那覇市民会館 大ホール	—
2009年 (第30回)	浦添市てだこホール	—
2008年 (第29回)	那覇市民会館 大ホール	—
2007年 (第28回)	那覇市民会館 大ホール	—
2006年 (第27回)	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	—
2005年 (第26回)	那覇市民会館 大ホール	—
2004年 (第25回)	沖縄市民会館 大ホール	—
2003年 (第24回)	名護市民会館 大ホール	—
2002年 (第23回)	那覇市民会館 大ホール	—
2001年 (第22回)	那覇市民会館 大ホール	初めて沖縄本島以外で開催。
2000年 (第21回)	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	—
1999年 (第20回)	那覇市民会館 大ホール	—
1998年 (第19回)	那覇市民会館 大ホール	—
1997年 (第18回)	那覇市民会館 大ホール	—
1996年 (第17回)	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	—
1995年 (第16回)	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	—
1994年 (第15回)	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	連盟歌、連盟旗を作成。
1993年 (第14回)	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	—

1992年 (第13回)	那覇市民会館 大ホール	—
1991年 (第12回)	沖縄市民会館 大ホール	—
1990年 (第11回)	那覇市民会館 大ホール	—
1989年 (第10回)	那覇市民会館 大ホール	10回参加した団体へ表彰を始める。
1988年 (第9回)	那覇市民会館 大ホール	—
1987年 (第8回)	那覇市民会館 大ホール	—
1986年 (第7回)	那覇市民会館 大ホール	—
1985年 (第6回)	那覇市民会館 大ホール	名称を「全沖縄おかあさんコーラス発表会」と変更。
1984年 (第5回)	労働福祉会館 大ホール	—
1983年 (第4回)	労働福祉会館 大ホール	—
1982年 (第3回)	労働福祉会館 大ホール	名称を「那覇おかあさんコーラス発表会」と変更。
1981年 (第2回)	琉球新報ホール	—
1980年 (第1回)	琉球新報ホール	「第1回那覇ママさんコーラスまつり」を開催し、継続行事として意義のある一歩をのしした。

全日本小中学生ダンスコンクール

キュービーは、「全日本小中学生ダンスコンクール(朝日新聞社主催)」に協賛しています。

リズムダンスは、小中学校の学校教育やクラブ活動にとり入れられており、基礎体力の向上はもちろん、リズム感や自己表現力、創造力、さらにはコミュニケーション力を養うツールとして、教育面でも非常に期待されています。キュービーは、今後も元気の源となる食を通じて、仲間と一緒にダンスをがんばる子どもたちの健やかな成長を応援していきます。



全日本小中学生ダンスコンクールのあゆみ

「小中学生が学校の授業やクラブ活動などで仲間と練習したりズムダンスのパフォーマンスを演じるハレの舞台をつくりたい」そして、「ダンスを通じて健やかな体と豊かな表現力、仲間とともにがんばる心を育みたい」という願いのもとで2013年に創設された大会です。

2023年に行われた第11回大会には、過去最多の327チーム、約3,800名が参加しました。そのうち、ブロック大会で特に優秀な成績を収めた52チーム、約800名の小中学生が全国大会に出場し、練習の成果を発揮しました。



[公式ホームページ](#)



開催実績

開催年 (回数)	会場	あゆみ
2023年 (第11回)	国立代々木競技場 第二体育館	—
2022年 (第10回)	国立代々木競技場 第二体育館	3年ぶりにブロック大会を開催
2021年 (第9回)	国立代々木競技場 第二体育館	新型コロナウイルス感染症拡大防止のためブロック大会が中止。11月に全国大会と、オンラインでの発表会を開催。
2020年 (第8回)	—	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全大会が中止。オンラインでの発表会「全日本小中学生DANCELIVE2020」を開催。
2019年 (第7回)	駒沢オリンピック公園 総合運動場 体育館	—
2018年 (第6回)	駒沢オリンピック公園 総合運動場 体育館	—
2017年 (第5回)	川崎市とどろきアリーナ	—
2016年 (第4回)	川崎市とどろきアリーナ	東海大会、九州大会を設立
2015年 (第3回)	国立代々木競技場 第二体育館	—
2014年 (第2回)	国立代々木競技場 第二体育館	西日本大会、東日本大会設立
2013年 (第1回)	渋谷公会堂	大会創設

教育支援活動

アヲハタでは、教育支援活動の一環として、高等学校、大学などで講義や講演、ジャム製造実習などを実施しているほか、インターンシップ(職場体験学習)の学生・生徒を受け入れ、働くことの大切さ・厳しさなどへの理解を深めていただいています。また、アヲハタからの寄付金をもとに本社のある広島県竹原市では「アヲハタ奨学金基金」が2001年に設立されています。給付型の奨学金制度で、2002年より毎年新たに2名の大学生に奨学金を給付しています。

キューピーとキューピータマゴでは、2017年から一般の消費者様向けにスーパーやスポーツジムなどで卵の栄養・健康機能の認知啓発活動「たまご勉強会」を行っています。また、卵に対する認識や食べ方、トレンドを分析した調査報告「たまご白書」を発行し、卵に関する正しい知識の啓発・卵料理の楽しみ方の提案につなげています。

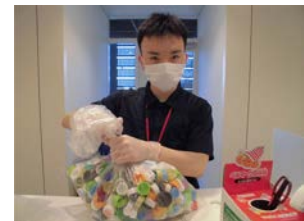
共同研究講座

大学と共同で卵のおいしさの解明を主テーマとした共同研究講座を設置しています。

[> キューピー・東京家政大学 タマゴのおいしさ研究所](#)

エコキャップ運動

2015年より東京都内のキューピーグループ各事業所で回収したペットボトルキャップをキューピーあいで回収し、エコキャップとしてNPOへお渡しして途上国でのワクチン接種の支援につなげています。



2023年度回収実績

重量	個数	預かり寄付金	ワクチン接種人数
266kg	114,232個	2,652円	133人

学生服リユース活動

2020年から、さまざまな事情で学生服や学用品が買えないご家庭、子どもたちのために「学生服のリユースShop さくらや」の学生服リユース活動に参加しています。

キューピーグループでは、期間限定で仙川キューポートと渋谷オフィスに回収ボックスを設置し、制服を回収しました。



サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 -
- ↳ 持続可能な調達の推進 >
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

持続可能な調達

私たちは「良い商品は良い原料からしか生まれない」という原料に対する強いこだわりを持っています。大切な原資材料は、今や品質だけではなく、環境や人権に与える影響にも配慮する必要があります。サプライチェーンにおける社会的配慮を行う持続可能な調達が必要と考え、持続可能な調達のための基本方針を定めています。私たちは製造・販売プロセスだけでなく、商品を作るための原資材の調達プロセスにおいても社会的責任を果たしていきます。



サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2030年度目標
持続可能な調達	持続可能な調達の推進	お取引先との協働によって「持続可能な調達のための基本方針」を推進	












● 持続可能な調達の推進

持続可能な調達のための基本方針とお取引先との協働による取り組みを紹介します。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 -
- 持続可能な調達の推進 >
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キユーピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

持続可能な調達の推進

- 持続可能な調達の推進に向けた考え方 
- 持続可能な調達のための基本方針 
- キユーピーグループ サプライヤーガイドライン 
- 持続可能な鶏卵の調達 
- 持続可能な野菜の調達 
- 持続可能なパーム油の調達 
- 持続可能な紙の調達 
- アラハタによる果実生産者との取り組み 
- アニマルウェルフェアに関する考え方と取り組み 

持続可能な調達の推進に向けた考え方

私たちは「良い商品は、良い原料からしか生まれたい」という原料に対する強いこだわりを持っています。しかし今や品質だけではなく、環境や人権に与える影響にも配慮する必要があります。このことをお取引先と一緒に取り組むことが、持続可能性を高め、良い原料を調達できることにつながると考えます。

持続可能な調達のための基本方針

- 1 法令を遵守し、国際的なルール・慣行にも配慮した取引を行うとともに、腐敗行為の防止を徹底する。
- 2 公正で誠実な取引を行うとともに、機密情報や知的財産を適切に管理する。
- 3 人権を擁護し、差別的な言動や非人道的な扱いを行わず、また人権侵害に加担しない。
- 4 従業員の労働者としての権利を尊重し、適切な労働慣行と安全で衛生的な職場環境を確保する。
- 5 地域と地球環境の汚染と破壊を防止するため、資源の持続可能な利用に努める。
- 6 安全で高品質な原料を持続的に利用できるように、生態系への影響やアニマルウェルフェアも考慮した管理を行う。
- 7 原料を生産する地域社会が持続可能になるよう、積極的に貢献する。
- 8 上記に関して、自社のお取引先にも同様の配慮をお願いする。
- 9 上記に関して、適時・適切な情報開示を行う。

2018年制定、2023年改訂

キユーピーグループ サプライヤーガイドライン

「キユーピーグループ 持続可能な調達のための基本方針」の実現に向けて、キユーピーグループの調達先である大切なお取引先(お取引先を含めたサプライヤー全体を指します)へお願いすることとして「キユーピーグループ サプライヤーガイドライン」を定めます。本ガイドラインをもって相互理解のもと、サプライチェーンにおけるさまざまな課題解決を行い、持続可能な調達およびお取引先との共存共栄をめざします。

 [キユーピーグループ サプライヤーガイドライン\(518KB\)](#)

持続可能な鶏卵の調達

基本的な考え方

キューピーグループにとって鶏卵は、マヨネーズをはじめタマゴ加工品の主要原料であり、グループのさまざまな商品に使用する大切な原料です。持続可能な鶏卵の調達を考えるうえで、鶏卵の品質や環境に及ぼす影響、人権への配慮や採卵鶏のアニマルウェルフェアは重要な課題と認識しています。

キューピーグループでは、国内各地の養鶏事業者への訪問などコミュニケーションを通じて生の声を聴くと同時に、私たちの商品をご使用いただいているお客様の声を伝え、相互の成長・発展につながる協働体制の構築に努めています。

また、タマゴのリーディングカンパニーとして、商品とサービスを通じてお客様をはじめとしたバリューチェーン全体で鶏卵の価値を高める活動に努めるとともに、鶏卵に関する環境負荷低減の取り組みを継続して進化させています。

養鶏事業者をはじめとしたサプライチェーンのパートナーに加え、行政や学識経験者・有識者などの関係者とのコミュニケーションや取り組みにも積極的に参画し、鶏卵に関わる産業全体の持続可能性を高めていく考えです。

取り組みについて

調達先である養鶏事業者には品質規格書を取り交わすとともに専門の担当者が計画的に訪問し、基本的な考え方を共有しながら、改善などに力を合わせて取り組んでいます。

また、鶏卵の優れた栄養バランスを生かしながら、さまざまな食品を支える加工適性などの食品機能に磨きをかけるとともに、「食と健康への貢献」や「卵アレルギーに向き合う研究」などで食にまつわる社会課題の解決につながる取り組みを進めています。

> [卵の研究](#)

> [卵アレルギーに向き合う研究で子どもたちを笑顔に！](#)

鶏卵を余すことなく有効活用することで地球環境への負荷を低減するなど、サステナビリティへの取り組みを進めています。また食育活動を通じ鶏卵の魅力を伝える活動も行っています。

> [卵の100%有効活用](#)

> [卵の有効活用](#)

持続可能な野菜の調達

キューピーグループでは、主に国産野菜を原料としてサラダ・惣菜を提供しています。そのため野菜の原料調達は事業継続において重要と認識しています。持続可能なキューピーグループの野菜調達と調達先の持続的成長・発展をめざすために生産者の皆様とコミュニケーションを図りながら進めていきます。

取り組みについて

循環型農業の構築

サラダクラブでは、パッケージサラダを製造する際に直営7工場が発生する野菜の外葉や芯などの未利用部を堆肥の原料や飼料として契約農家などで活用いただく取り組みを行っています。

契約農家にとっても、安価な国産堆肥が手に入るとともに、有機堆肥の使用は地球環境負荷を最低限にできるメリットもあります。野菜未利用部で作られた堆肥を使って野菜を栽培し、商品を製造することで資源を無駄にしない循環プロセスを構築することができ、「野菜廃棄物ゼロ化」につながっています。



契約産地での堆肥散布の様子

サラダクラブによる産地表彰式

サラダクラブで取り扱う野菜は、生産者との顔が見える関係を基本に、全国約400の契約産地との「契約取引」で調達しています。「契約取引」は、一定価格で安定した原料調達が行えるだけでなく、生産者にとっては、安定的な収入を基盤に戦略的投資が行えるというメリットがあります。

安全・安心な原料の調達の一環として、圃場に工場メンバーや原資材メンバーが定期的に訪問しています。また生産者には工場見学への参加、他には収穫応援や工場研修、バーベキューの開催など積極的に産地農家との交流を図っています。

毎年4月には、生産者の皆さまに感謝の想いを伝えることを目的に「Grower of Salad Club (グロワー・オブ・サラダクラブ)」として契約産地を表彰しています。主要原料を対象に品位の評価を行い、契約産地の中から「最優秀賞」「優秀賞」「特別賞」として表彰しています。

一方で生産者をパートナーとして循環型農業の構築も行っています。パッケージサラダの製造過程で発生する野菜未利用部を工場内で飼料や堆肥の原料にし、堆肥は農産地で使用してもらうなど、つながりを広げています。



持続可能なパーム油の調達

パーム油は熱帯地域で栽培されるアブラヤシから得られる植物油ですが、その農場を開発するための熱帯林の大規模な伐採や、農場労働者の人権などで課題があることが指摘されています。

こうした問題がある原料を使わないようにするために、また課題の解決に貢献するために、キユーピーグループは、2018年1月に策定した「キユーピーグループの持続可能な調達のための基本方針」に基づき、2018年7月、RSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)に加盟し、今後、弊社グループの持続可能なパーム油の調達に取り組んでいきます。

取り組みについて

2019年にキユーピーグループで調達するパーム油についてRSPOのブックアンドクレーム方式^{*1}による認証クレジットの購入を開始しました。2021年までにキユーピーグループで調達するパーム油100%である原料すべてにおいて認証クレジットの購入を完了させるという目標を完了し、2022年からはブックアンドクレーム方式とマスマランス方式^{*2}での認証油の調達に取り組んでいます。

^{*1} ブックアンドクレーム方式

RSPOにより認証された生産者が生産した認証油に、認証クレジット(証券)を発行。その認証クレジットを購入することで、認証パーム油の生産者を支援する仕組み。

※2 マスバランス方式
認証パーム油が製造・流通過程で他の非認証パーム油と混合される認証モデル。
物理的には非認証油も含んでいるが、認証農園から供給された認証パーム油の量は保証される。

> ESGデータ集

持続可能な紙の調達

キュービーは、2023年12月にキュービーグループ 紙調達ガイドラインを策定し、基準・目標を設定しました。原料調達過程で新規の森林破壊に関与せず、原木生産地の法令および国際的な人権基準を守り、適切な手続きによって生産された事業者より紙・紙製品を調達することに取り組みます。そのため、森林認証紙(FSC®認証※など)を基本に、再生紙、また取引先によって新規の森林破壊や人権侵害への関与がない原材料から作られていることを確認した紙・紙製品の調達をめざします。

※ 責任ある管理をされた森林と、限りある森林資源を将来にわたって使い続けられるよう適切に調達された林産物に対する国際森林認証制度。

 キュービーグループ 紙調達ガイドライン(217KB)

> サステナビリティ目標

> 生物多様性の保全

取り組みについて

FSC認証紙などの持続可能な紙の調達と使用

キュービーグループは、容器包材、印刷冊子、販促物、事務用品などで、FSC®などの森林認証を受けた紙をはじめとした持続可能な紙の調達と使用を推進しています。

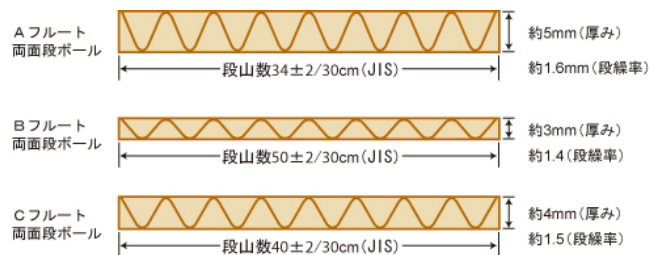
2025年度までにグループ全体で対象となる容器包材、印刷冊子、販促物、事務用品において、持続可能な紙の調達率100%をめざしています。



キュービー ベビーフード
にこにこボックスシリーズ
(FSC® N002978)

段ボール構造の工夫

段ボール構造を工夫し強度を維持しながら薄くすることで紙使用量の削減を進めています。



パレット積付け方式の工夫

主力のマヨネーズ商品において、輸送時のパレット積付け方式の変更を行いました。段ボールの特性を生かした積付け方式を採用することで材質低減を進め、古紙材料削減による環境負荷低減を実現しました。



パッケージの省資源の取り組み

アヲハタでは、55ジャムUD150シリーズ・カロリーーフシリーズに「シェルフレディーパッケージ」を採用し、年間約49トンのカートン削減に加え、2022年には、ヴェルデトーストスブレッドシリーズに使用するカートンのライナー[※]を変更し、従来の強度を保ったままカートンの軽量化とカートン製造時のCO₂排出量削減を実現しました。

2023年度年間使用枚数	182,000枚
軽減重量	3,300kg/年
カートン製造時CO ₂ 削減量	2,400kg/年

[※] ライナーとは、段ボールの表面・裏面に使用される段ボール原紙

カートン形状の工夫

「アヲハタ 55ジャム」(小容量)カートン[※]

カートンのフラップ寸法の変更を行い、省資源化を進めました。

[※] 2015年から開始



同時に、簡単に開封・陳列できる「パカッとカートン」を採用し、店頭での作業改善を行いました。



アヲハタによる果実生産者との取り組み

キュービーグループで使用する果実の原料産地は、時代とともに世界各地に広がっています。「農産加工品の美味しさは、その原料によって7割が決まる」という考え方にに基づき、生産者との信頼関係構築と、栽培技術の研究を進めながら高品質原料の安定確保に努めています。

[> アヲハタ 社会・環境への取り組み](#) 

アニマルウェルフェアに関する考え方と取り組み

基本的な考え方

キュービーグループは、品質や環境に及ぼす影響や人権への配慮とともに、採卵鶏のアニマルウェルフェアを持続可能な鶏卵の生産や調達における重要課題と認識しています。

キュービーグループは、国際獣疫事務局(WOAH)が示したアニマルウェルフェアの基本原則「5つの自由」[※]に賛同し、その原則に沿った採卵鶏の飼養が重要であると考えます。また、鶏卵をビジネスの源として利用しているからこそ、採卵鶏の命の尊厳についても適切な配慮をするべきであると考えます。

[※] アニマルウェルフェアの基本原則「5つの自由」

- ・ 飢え、渇きおよび栄養不良からの自由
- ・ 恐怖および苦悩からの自由
- ・ 物理的、熱の不快感からの自由
- ・ 苦痛、傷害および疾病からの自由
- ・ 正常な行動様式を発現する自由

取り組みについて

日本国内でキュービーグループが調達している鶏卵は、農林水産省が普及に努める『アニマルウェルフェアの考え方に対応した採卵鶏の飼養管理指針』^{※1}に即して飼養された鶏の卵であることを確認しています。また、農林水産省が制定した『採卵鶏の飼養管理に関する技術的な指針』^{※2}への準拠状況を確認していきます。

日本における持続可能な採卵鶏の飼養管理のあり方を行政や養鶏に関わるサプライチェーンのパートナー、ならびに学識経験者・有識者、NGO・NPOなどの関係者と議論・連携しながら、キュービーグループにおけるアニマルウェルフェア向上への取り組みを進めています。

また、ケージフリー飼養^{※3}による鶏卵を活用した商品を開発・製造販売しており、お客様のニーズや価格受容性を把握しながら商品の育成を進めています。

 [ケージフリー飼養への取り組みについて \(248KB\)](#)

 [取り組みの状況 \(171KB\)](#)

海外においては、各国・地域の基準や社会環境に即して飼養された鶏卵の調達を行っています。

> [米国での鶏卵調達の取り組み](#) 

> [欧州での鶏卵調達の取り組み](#) 

当社グループが調達する鶏卵以外の畜産物については、農林水産省が制定した畜種毎の『飼養管理等に関する技術的な指針』を参考にしながら、アニマルウェルフェアに配慮された飼養状況を確認していく考えです。

※1 公益社団法人 畜産技術協会による『アニマルウェルフェアの考え方に対応した採卵鶏の飼養管理指針』第5版(令和2年3月)

※2 農林水産省制定 令和5年7月26日付け5畜産第1066号『採卵鶏の飼養管理に関する技術的な指針』

※3 いわゆる平飼いなどの飼養方法

なお、『国際獣疫事務局の陸生動物衛生規約におけるアニマルウェルフェアの国際基準を踏まえた家畜の飼養管理の推進について』(農林水産省畜産局長通知 5畜産第1062号 令和5年7月26日)の『1.(2)アニマルウェルフェアの考え方に対応した飼養管理における一般原則』では、家畜の飼養者がアニマルウェルフェアの原則である「5つの自由」を理解し、日々の観察や記録、丁寧な取扱い、良質な飼料や水の給与等の適正な飼養管理により、弛まぬ努力と改善を行うことであり、特定の施設や設備を整備することのみで達成されるものではないことを関係者が十分認識し、その推進を図っていく必要がある、とされています。

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重

人権尊重への取り組み >

多様な人材の活躍 >

健康経営・労働安全衛生 >

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

グループ各社の
サステナビリティ活動 >

人権の尊重

私たちは、「楽業偕悦」の実践のために、キューピーグループに関わるすべての人の人権を尊重します。持続的成長を実現する体質への転換に向け、新たな事業の枠組みに合わせたグループ人材の流動化の促進や、学びの場の拡大、キャリア意識の醸成などを通して、一人ひとりの経験やスキルの向上を図り多様な人材が活躍できる仕組みづくりを進めています。また、それぞれの視点やノウハウを生かすことで、社会環境の変化やリスクへの対応力を高めるとともに、従業員が健康でやりがいを持って働けるよう、キューピーグループの総合力強化に取り組んでいきます。



サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2030年度目標
人権の尊重	人権の尊重	ビジネスに関わるすべての人の人権を尊重するために「キューピーグループ 人権方針」を推進	



① 人権尊重への取り組み

国際社会の一員として、差別やハラスメント行為を決して行わず人権を尊重しています。



② 多様な人材の活躍

多様な人材が、やりがいや誇りを持って活躍することを大切にし、ダイバーシティの推進をはじめとした取り組みを行っています。



③ 健康経営・労働安全衛生

キューピーグループで働く一人ひとりの健康と安全のため、さまざまな取り組みを推進しています。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重
 - 人権尊重への取り組み >
 - 多様な人材の活躍 >
 - 健康経営・労働安全衛生 >
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

人権尊重への取り組み

- [キューピーグループ 人権方針](#)


[人権マネジメント体制](#)
- [人権デューデリジェンスプロセスの実行](#)

[従業員への取り組み](#)
- [サプライヤーへの取り組み](#)

キューピーグループ 人権方針

私たちは、事業活動のすべての過程で、直接または間接的に人権に影響を及ぼす可能性があることを認識し、ビジネスに関わる全ての人の人権を尊重するために、「キューピーグループ人権方針」を定めます。

社である「**楽業偕悦**」の実践には、人権の尊重が不可欠です。キューピーグループで働く役員および従業員は、人権への負の影響を引き起こすことがないように、または間接的に加担することがないように責任を持って行動し、それぞれが働きがいを持って安心して働けるよう努めます。そして、サプライヤーなどビジネスパートナーに対しても本方針の遵守を期待し、働きかけます。

 [キューピーグループ人権方針 \(361KB\)](#)

2022年制定

人権マネジメント体制

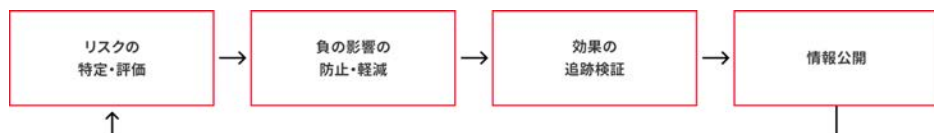
キューピーグループのバリューチェーンでの幅広い人権リスクに向き合うために、サステナビリティ重点課題に「人権の尊重」を掲げ取り組んでいます。

抽出された人権リスクについては、サステナビリティ委員会にて取り上げ、関連する委員会や部門と連携し、対応策の計画や実施を行っています。

また内部統制システムの中に違反行為の発見と是正のための通報・相談窓口「ヘルプライン」を設置しています。違反行為があれば担当部門との協議の上、再発防止策を実施します。

人権デューデリジェンスプロセスの実行

キューピーグループのバリューチェーンに関わる幅広い人権リスクに向き合うための実行プロセスとして、人権デューデリジェンスの枠組みに沿って取り組んでいます。



特定された人権リスクのうち、対象をグループ従業員やサプライヤーにおけるものを項目として、それぞれの是正に向けて取り組むこととしました。

2023年に実施した重要人権リスク評価のプロジェクト内で、人権に関する国際基準やヒアリングなどを通じて得られた情報に基づき、外部専門家により特に重要と判断されたリスクは以下のとおりです。なお、今回の評価結果をふまえて、引き続き状況確認や評価のアップデートを行っていく予定です。

キューピーグループの特に注意すべき重要人権リスクと防止・軽減に向けた対応

重要な人権リスク	対象				キューピーグループにおける対応
	自社従業員	一次サプライヤー	原材料生産者	顧客・消費者	
労働安全衛生	●	●			> 労働安全衛生への取り組み
強制労働	●	●	●		> 人権尊重への取り組み
児童労働	●	●	●		> 人権尊重への取り組み
ハラスメント	●	●			> 人権尊重への取り組み
長時間労働・過重労働	●				・ 日々の時間管理の徹底 ・ 注意喚起と啓蒙
製品の欠陥による健康・安全の侵害				●	> 製造工程の品質

従業員への取り組み

さまざまな方が働いている環境であることから、従業員一人ひとりが人権を尊重し、差別やハラスメント行わない職場環境の実現をめざしています。コンプライアンスに対する理解・意識状況の把握、働くことへの満足度および企業の社会的責任に関する考えの確認を目的とした全従業員を対象の「従業員意識調査」を2年毎に実施しています。アンケート結果を従業員にフィードバックするとともに、人権侵害の有無やコンプライアンスを浸透・徹底させる上での課題を把握し、従業員の啓発活動や研修などに反映させています。

2023

37

ヘルプラインの運用

- ・ 年度のヘルプラインへの通報・相談件数は 件でした。
- ・ 内容はハラスメントに関わる通報・相談が多く、他には職場の対応不備などに関するものがありました。
会計や品質などの不正に関するものはありませんでした。
- ・ 対応は、事実関係の調査を行い、違反行為があれば処分を行うとともに、再発防止策を担当部門と協議し、実施します。違反行為とは認められないものの、言動や対応に不適切な部分があると判断される場合は、注意指導などにより是正をはかり、職場の環境改善につなげます。
- ・ 通報者保護の観点では、通報者に対する詮索・追及・報復を禁止しています。通報者に一定期間後に報復確認を行ない、不利益が発生していないか確認し、適切な運用を進めています。

> ESGデータ集

サプライヤーへの取り組み

キュービーグループは「良い商品は、良い原料からしか生まれない」という原料に対する強いこだわりを持っています。しかし今や品質だけではなく、サプライチェーンでの環境や人権に配慮する必要があるとし、このことをお取引先と一緒に取り組むとしています。

「キュービーグループ 持続可能な調達のための基本方針」のもと、お取引先に向けたガイドラインとして、「キュービーグループ サプライヤーガイドライン」を策定しました。今後は、サプライヤーへのアンケート実施、引き続きのコミュニケーションを通じて、サプライチェーンでの人権リスク低減に努めます。




> [持続可能な調達の推進](#)

 [キュービーグループ サプライヤーガイドライン\(518KB\)](#)

サステナビリティ

サステナビリティトップ	>
トップメッセージ	>
サステナビリティ マネジメント	+
資源の有効活用・循環	+
気候変動への対応	+
生物多様性の保全	+
食と健康への貢献	+
持続可能な調達	+
人権の尊重	
人権尊重への取り組み	>
多様な人材の活躍	>
健康経営・労働安全衛生	>
ガバナンス	+
安全・安心	+
開示方針	>
各種報告書	>
対照表	>
ESGデータ集	>
各種方針	>
イニシアチブ・加盟団体	>
社会・環境活動の歴史	>
キューピーグループ オフィシャルブログ	>
グループ各社の サステナビリティ活動	>

多様な人材の活躍

- ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンへの取り組み  人材育成への取り組み 
- フレキシブルな働き方への取り組み 

ダイバーシティ、エクイティ & インクルージョンへの取り組み

キューピーグループにおけるダイバーシティ、エクイティ & インクルージョンの考え方

キューピーグループでは、ダイバーシティ、エクイティ & インクルージョン(以下、DE&I)を「成長戦略の土台」と位置付け、すべての従業員が多様な価値観を持つダイバーシティの担い手であることを前提に、属性と能力の多様性の双方を生かすことで、グループ全体の成長と、社会に対する価値の創出と貢献をめざしています。会社や従業員同士の理解や対話を大切にするとともに、DE&Iを理解し体感できる機会づくり、多様な従業員の活躍につながる場づくり、成長実感を持てるキャリアや学びの仕組みづくりなどを通して、世界で働く従業員一人ひとりの個性や成長する意欲と、個々の能力を最大限に発揮できる企業風土づくりに取り組んでいます。

新たな価値を創出する企業風土の醸成

従業員一人ひとりのさまざまな視点・能力・スキルが新たな価値を生み、グループ全体の総合力向上につながるようDE&Iを推進し、多様性を発揮できる仕組みづくりや、グループ人材の流動化に取り組んでいます。2023年からは、従来キューピー単体対象に行っていたダイバーシティ・アンケートを、グループ全体に展開しました。ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン、エンゲージメントのそれぞれの要素に対する意識や状況について調査を行い、結果をグループで共有するとともに、各社・組織にフィードバックすることで、人材の活躍と活躍を生む組織風土づくりに生かしています。

さまざまな取り組みを通じ、心理的安全性が高く、目標に向かってチャレンジできる企業風土づくりに努めています。

ダイバーシティ・セミナーや勉強会の実施

グループ従業員が参加できるダイバーシティ・セミナーや、部署や組織ごとに開催するダイバーシティ勉強会を実施しています。ダイバーシティ推進の方向性や目的を共有することで、従業員の意識を合わせ、推進の加速化を図っています。

多様な人材が重要な意思決定の場に参画

重要会議に参加するメンバーの20%以上を多様な人材(年代・性別・スキル・キャリア)から構成し、これまでと異なる視点から意見を引き出し、議論の活性化を図る取り組み「KEEP20」を展開しています。従来の参加メンバーにとっては新たな気づきが得られ、多様な参加メンバーにとっては、経営情報や事業判断に触れる学びの機会となっています。2023年は14の重要会議にて実施し、徐々にグループ内に展開しています。

多様なメンバーと経営層による意見交換を実施

業務や組織の枠を超えた多様なメンバーが、目的やテーマを共有して会話をする意見交換会を「シャッフル・ミーティング」として実施しています。取り組みは、2020年からスタートし、これまでに、グループの550名以上が参加しています。日頃、それぞれの場所でグループの業務に尽力する多様な仲間が、経営層も交えてオンラインで集い、異なる視点で意見を伝え合うことで、参加者全員が新鮮な気づきを得るとともに、従業員同士のネットワークを構築する場となっています。2023年は、入社10年目の従業員が参加し、共に入社したメンバーの成長を認め合う機会になりました。

グループ従業員一人ひとりの能力の発揮のために

女性従業員の活躍に向けて

2023年度のグループ女性管理職比率は11.4%、キュービー単体での女性管理職比率は14.5%です。グループの約半数を占める女性従業員が十分に活躍できるよう、女性総合職の育成や、転居を伴う異動のない総合職制度の導入、地域職から総合職への転換などを進めています。人事制度や労務制度に加えて、マネジメントや風土もあわせて変えていくことで、意欲ある女性従業員が働き続けられる会社をめざしています。

人材活躍の重要指数	2023年度実績	2024年度目標	2030年目標
女性管理職比率 (キュービー単体)	14.5%	18%	30%

グループ女性管理職勉強会の開催

グループの女性管理職自身が事務局を務め、経営層や外部識者による講義や必要な知識を学ぶ勉強会を開催しています。それぞれが管理職としてのありたい姿やステップ、自分なりのマネジメントを描き、行動することをめざしています。また、メンバー同士がディスカッションを重ねることで、グループにおける女性管理職のつながりも生まれています。2023年からは、プレ管理職の女性従業員を招待するなど、グループの女性従業員が先輩社員と交流する機会をつくり、これからのキャリアや成長について後押しする役割も持たせています。



障がい者雇用の考え方

キュービーグループでは、障がいのあるなしに関わらず、一人ひとりの能力や個性を大切に、働く喜びややりがいを実感できる環境づくりをめざしています。

こうした考え方のもと、障がい者雇用においてはグループ適用を行わず、キュービー単体、キュービーあい(特例子会社)を含むそれぞれが各地域で雇用を行うことで、地域社会での多様な雇用創出につなげています。

障がい者雇用率の推移(2023年12月1日現在)

2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
3.60%	3.67%	3.76%	3.73%	3.70%

グループ各社における取り組み

キュービーあい(特例子会社)では、館内物流をはじめ、清掃業務や販促物の作成・発送など多岐にわたる業務を担っており、障がい者雇用率は3.25%(キュービー単体+キュービーあい:2023年12月1日現在)となっています。

また、障がい者の雇用、定着支援に留まらず、地域や社会への貢献も積極的に取り組んでいます。具体的には、障がい者就労に向けた実習の受け入れや小学校のユニバーサルデザイン授業への講師派遣、特別支援学級での交流や会社見学を行っています。

グループ各社でも、工場を中心に積極的に障がい者雇用を行っており、グループ全体での障がい者雇用率は3.70%となっています。

人材育成への取り組み

人材育成の考え方

キューピーグループでは一人ひとりのキャリアに真剣に向き合い、ダイバーシティを実現していくため、専門研修や、自己啓発プログラムの充実に加え、以下のような各種キャリア支援制度を実施しています。

- 1.成長マイルストーン制度(対象:キューピー総合職)
- 2.キャリア自己申告制度
- 3.社内公募制度

従業員それぞれの「ありたい姿」や「成長の道筋」を明確にすることで、成長のための学びと、人事交流などの必要な経験を積むことを促進していきます。

具体的な仕組みとして、「成長マイルストーン制度」や「キャリア研修」を設け、これに加えて自らの異動希望を申告できる「キャリア自己申告制度」があります。

さらに、挑戦意欲の高い人をキューピーグループ内から幅広く募集する「Kewpie Startup Program」を実施し、これまで新規事業や強化したいテーマを対象として、強い想いを持った応募者の中から選出してきました。一人ひとりのポテンシャルの発揮や、想いを実現するこれらのキャリア支援の取り組みを通じて、適材適所はもとより、挑戦する風土を醸成し、多様な人材がさらに活躍できる状態をめざしていきます。



キューピーキャリア支援体系図

褒賞制度

キューピーグループでは従業員が積極的に挑戦し学習することの支援や会社の将来への提言を推奨することを目的に社長賞をはじめとする各種褒賞制度を設けています。

社長賞

グループの技術や一人ひとりの創意工夫により成果・社会貢献を果たした際に表彰する制度です。社長賞を通してキューピーグループならではの文化を作っていくことを目的としています。

発明賞

会社に大きく貢献した特許や社会貢献につながる特許を取得した際に表彰しています。

論文賞

従業員が世の中の変化や日頃感じている課題を通して会社の将来に対して提言するものです。

論文の執筆を通じた自己研鑽も目的としており、50年以上続く伝統ある制度です。

資格褒賞制度

自発的に学ぶ風土づくりや一人ひとりのキャリア支援の一つとして、資格褒賞制度を設けています。従業員の学びを支援するとともに、会社として特に力を入れて推奨していく資格を伝えることで、従業員と会社が共に成長することをめざしています。

新たな挑戦に向けた取り組み

キュービーグループは、マヨネーズやドレッシング、さらには卵や野菜まで、幅広い研究開発を推進するとともに、イノベーションを創出する制度を設けるなど、新たな挑戦に向けた取り組みを積極的に行っています。外部の力も活用しながらグループ協働で新たな価値を創造し、ステークホルダーの皆様の期待に応えています。

Kewpie Startup Program

従業員一人ひとりのアイデアの実現と新たな事業の創出に向け、社内公募制度「Kewpie Startup Program」を設けています。プログラム参加者は、部門の枠を超えたメンターとのネットワークを築くことができ、スキルアップ・キャリアアップへとつながっています。



「Kewpie Startup Program」発のアイデア

ビジネスモデル	内容
酢酸菌酵素を配合したサプリメント	ビジネスモデル公募制度の第一号商品。キュービーグループ独自の醸造技術により世界初の大量生産を実現した、酢酸菌由来の酵素(アルコール分解酵素、アルデヒド分解酵素)を配合したサプリメント。 ※ 商品名: よいときOne (2023年時点)
酢酸菌GK-1を配合した機能性表示食品	酢酸菌GK-1とGABAを配合したサプリメント。 酢酸菌GK-1は、「花粉、ホコリ、ハウスダストなどによる鼻の不快感の軽減」と「免疫機能の維持」という2つの機能が報告されています。 機能性表示食品として、この2つの機能が受理された日本初のサプリメント。 ※ 商品名: ディアレプラス (2023年時点)
GABAポテトサラダ	惣菜業界で初となる機能性表示食品の惣菜シリーズ「カラダ想いメニュー」。 血圧が高めの方の血圧を低下させる機能があることが報告されているGABAを配合し「血圧が高めの方に」と表示することで、血圧が高めで気にしている人はもちろん、健康意識の高い人のためのサラダです。
> 深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム 	埼玉県深谷市にて、「野菜にときめく、好きになる!みんなの笑顔を育むファーム」をコンセプトとする複合型施設を開業。



「Kewpie Startup Program」から生まれた商品



深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム 外観・レストラン

フレキシブルな働き方への取り組み

働き方についての考え方

キューピーグループでは、従業員がさまざまなライフステージや状況に合わせて働き続けるとともに、最適な形で一人ひとりがその能力を発揮できるように、フレキシブルな働き方を整えることで、個々の成長と活躍を積極的に支援しています。

フレキシブルな働き方についての取り組み

コアタイムのないフレックスタイム制度や、在宅勤務、サテライトオフィスを活用し、時間と場所に捉われず、個々の役割や仕事の特性に合わせて、働き方を柔軟に選択しながら生産性を追求できる就労環境を用意しています。

時短勤務者に対してもフレックス制度を利用可能とし、仕事と育児を両立しやすい環境を整えています。

出産・育児支援の取り組み

育児休業中の従業員に育児支援サイトを使って定期的に会社の情報を発信しています。また復帰前には上司との面談を実施し、復帰後の働き方やキャリア形成について共有するとともに、上司から活躍への期待を伝えるようにしています。

上司には、育児復帰に関する会社の各種制度やアンコンシャス・バイアスなどマネジメントに関する必要な知識をオンラインコンテンツを通して学習してもらい、復帰者のフォローが出来るようにサポートしています。

また、育児経験を通して視野を広げ、自己成長につなげるために、男性従業員の育児休業取得を促進しており、それぞれの状況に合わせて選択し、取得いただける制度を整えています。



育児休業のしおり



育児支援サイト

従業員パパのための離乳食教室

2022年に渋谷、仙川で勤務されているグループ従業員を対象に「パパのための離乳食教室」を開催しました。

離乳食「初期コース」と「中後期コース」から選べ、離乳食の基本知識を学ぶ座学、離乳食づくりの実践、試食、参加者同士の交流という内容となっています。参加者からは「家に持ち帰って活用できる情報が多かった」「父親の育児参加を促す後押しになる」などの声がありました。

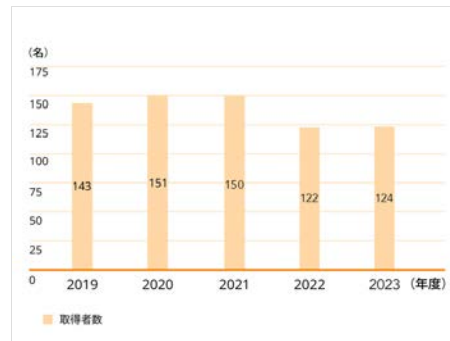


参加した従業員パパの様子

育児休業取得状況

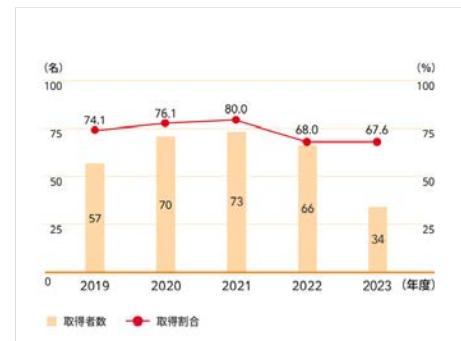
女性従業員

- ・ 当年に育児休業を取得している人数
(対象:キュービー単体)



男性従業員

- ・ 取得者数:子どもが生まれて2歳になるまでに取得した人数
- ・ 取得割合:子どもが生まれた年に育児休業を取得した比率
(対象:キュービー単体)



> ESGデータ集

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ
マネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重
- 人権尊重への取り組み >
- 多様な人材の活躍 >
- 健康経営・労働安全衛生 >**
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

健康経営・労働安全衛生

健康経営への取り組み ● 労働安全衛生への取り組み ●

健康経営への取り組み

キューピーグループ健康宣言

キューピーグループは、サラダとタマゴで一人ひとりの健康を応援し、社会から期待され必要とされるグループをめざします。グループで働く従業員が、心も体も健康にいきいきと企業活動が続けることが、事業の発展と社会への貢献につながると考えています。これからも食を通じて皆さまの健康に貢献するとともに、企業が従業員一人ひとりの健康に配慮することで、従業員とその家族の健康に真剣に向き合い支援し続けていきます。



> 社外からの評価

1. サラダとタマゴを通じた健康増進

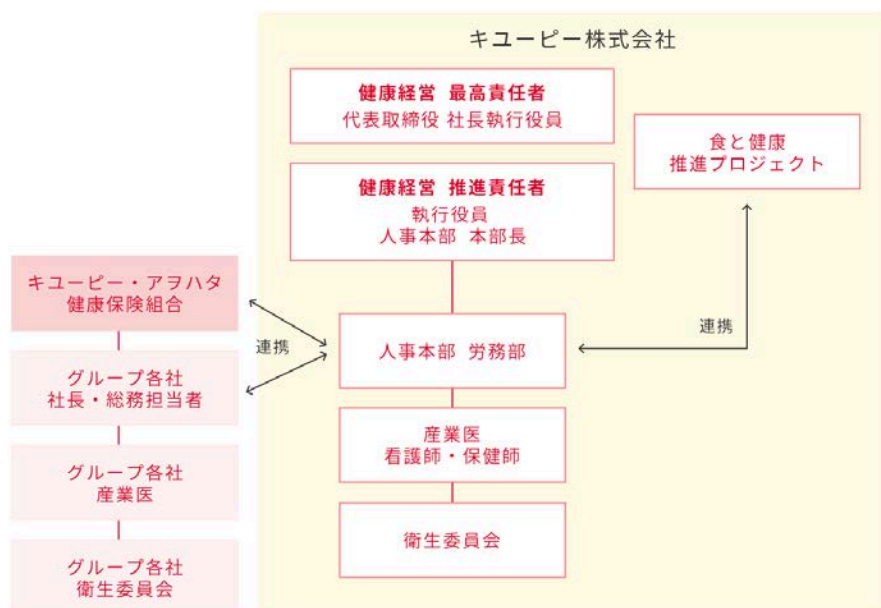
キューピーグループは、野菜をサラダで食べるという食文化の普及と、栄養価の高いタマゴメニューの拡大を通して培ってきた技術を生かし、おいしく、楽しく、健康維持に役立つ食生活を提案していきます。

> 食と健康への貢献

2. セルフケアを通じた従業員とその家族の健康増進

従業員とその家族が、自ら健康増進をはかれるよう支援するとともに、健康に対する意識の向上に努めます。

健康経営 推進体制



健康課題に対する重点施策

生活習慣の改善

生活習慣病の原因となる、食・運動などの生活習慣の改善をめざします。

食・・・「サラダファースト」、「適塩」について社内食堂で取り組み実施および情報発信。

運動・・・ラジオ体操および歩行についての取り組み実施および情報発信。

がん検診受診率向上

がんは「早期発見・早期受診」が重要なことから、職域におけるがん検診の受診率向上を推進します。

メンタル対策

働く従業員が心の健康を保ち、いきいきと働ける職場環境をめざして、メンタルヘルス対策に取り組みます。

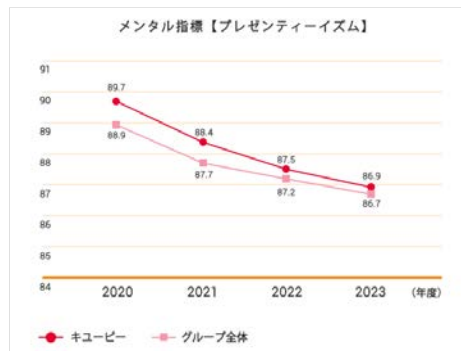
グループ共通健康指標「心と体の総合指標」

従業員や会社の「心と体」の健康状態を独自の共通指標によって「見える化」することで、健康に対して意識改革を促す取り組みを進めています。具体的には、「メンタル指標(プレゼンティーズム)」「健康年齢」について、組織の状態を上長にもフィードバックすることで、生活習慣・働き方や職場環境をより良くしていく活動につなげています。

メンタル指標(プレゼンティーズム・アブセンティーズム)

ストレスチェックの結果から職場のストレスの状態を4段階(良好・要注意・高ストレス・スーパーレッド)に分け配点、各段階の人数比を掛け合わせて点数化しています。(キュービーグループ独自のプレゼンティーズム指標:全員が良好であれば100)

プレゼンティーズム



※ キュービーグループ

中董グループ(中島董商店、トウ・ソリューションズ、nakato)およびキュービー単体の海外駐在員、外部出向、キュービー・アヲハタ健康保険組合を除く

アブセンティーズム

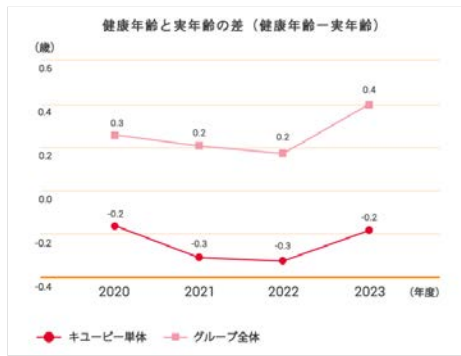
傷病休職制度利用日数の期末人員平均です。

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
0.89	1.38	0.68	0.65	1.03

※ キュービー社員

健康年齢

健康診断の結果から算出される年齢と実際の年齢との差を表します。(健康年齢は株式会社 J M D C の登録商標)



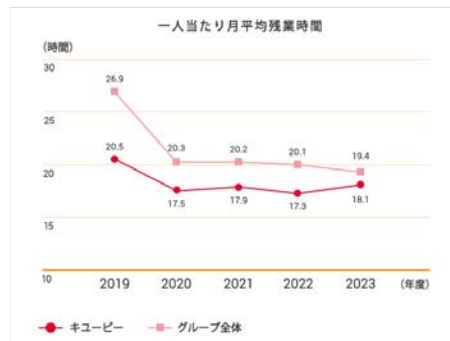
※集計年度は、4月～3月

※キユービーグループ

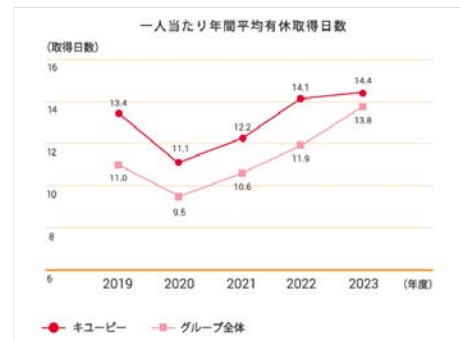
中董グループ(中島董商店、トウ・ソリューションズ、n a k a t o)およびキユービー単体の海外駐在員、外部出向、キユービー・アラハタ健康保険組合を除く

グループ一般指標

働き方の指標

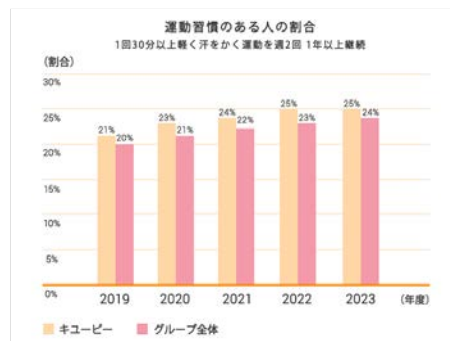


※キユービーグループ(国内食品事業のみ)



※キユービーグループ(国内食品事業のみ)

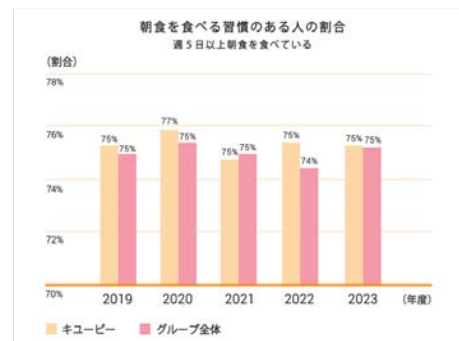
生活習慣の指標



※集計年度は、4月～3月

※キユービーグループ

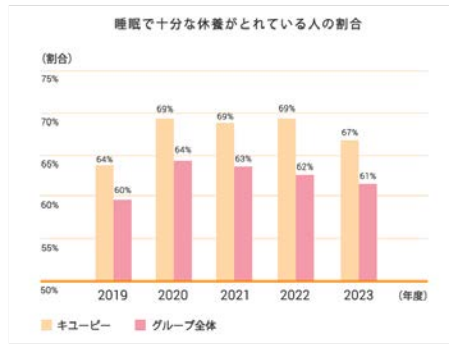
中董グループ(中島董商店、トウ・ソリューションズ、n a k a t o)およびキユービー単体の海外駐在員、外部出向、キユービー・アラハタ健康保険組合を除く



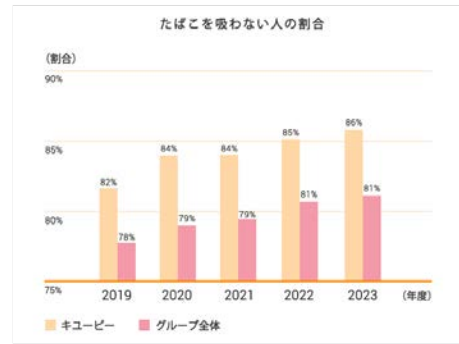
※集計年度は、4月～3月

※キユービーグループ

中董グループ(中島董商店、トウ・ソリューションズ、n a k a t o)およびキユービー単体の海外駐在員、外部出向、キユービー・アラハタ健康保険組合を除く

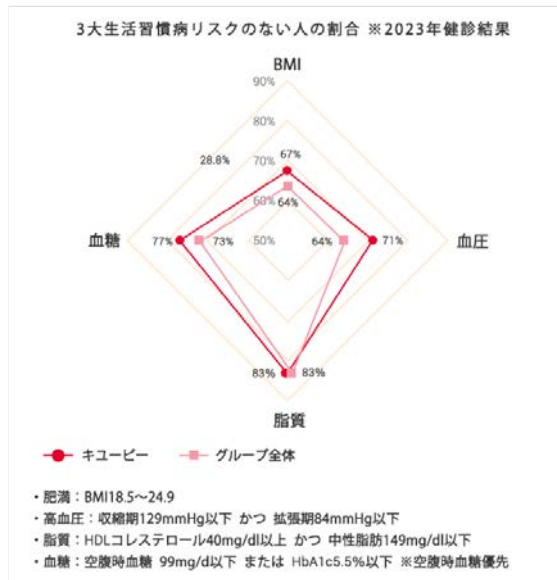


※ 集計年度は、4月～3月
 ※ キュービーグループ
 中董グループ(中島董商店、トウ・ソリューションズ、n a k a t o)およびキュービー単体の海外駐在員、外部出向、キュービー・アラハタ健康保険組合を除く



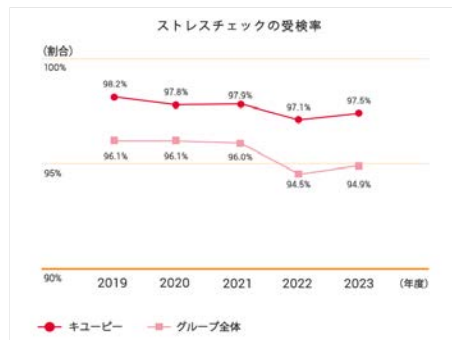
※ 集計年度は、4月～3月
 ※ キュービーグループ
 中董グループ(中島董商店、トウ・ソリューションズ、n a k a t o)およびキュービー単体の海外駐在員、外部出向、キュービー・アラハタ健康保険組合を除く

生活習慣病にかかわる指標

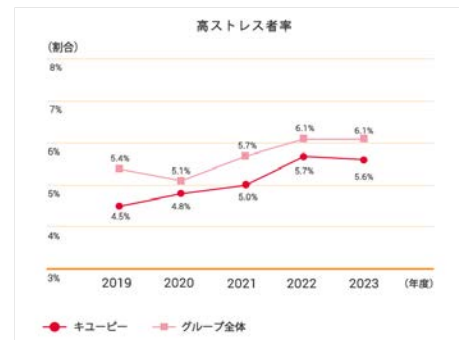


※ 集計年度は、4月～3月
 ※ キュービーグループ
 中董グループ(中島董商店、トウ・ソリューションズ、n a k a t o)およびキュービー単体の海外駐在員、外部出向、キュービー・アラハタ健康保険組合を除く

メンタルにかかわる指標



※ 集計年度は、4月～3月
 ※ キュービーグループ
 中董グループ(中島董商店、トウ・ソリューションズ、n a k a t o)およびキュービー単体の海外駐在員、外部出向、キュービー・アラハタ健康保険組合を除く



※ 集計年度は、4月～3月
 ※ キュービーグループ
 中董グループ(中島董商店、トウ・ソリューションズ、n a k a t o)およびキュービー単体の海外駐在員、外部出向、キュービー・アラハタ健康保険組合を除く

健康経営に向けた具体的な取り組み

私の健康目標

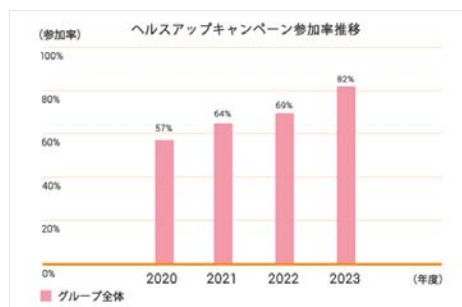
キュービーグループでは、従業員が1年を健康で過ごすための「私の健康」を掲げて取り組んでいます。事業所内に掲示していた個人の目標は、2023年度より環境負荷軽減(紙やマグネットの削減)の観点から、イントラネット上に掲載していますが、生産現場などでイントラネットの閲覧環境が整っていない一部の事業所では、事業所内の掲示を継続しています。

 [健康応援BOOK\(6.11MB\)](#)

ヘルスアップキャンペーン

キュービー・アラハタ健康保健組合では生活習慣改善を呼びかける「ヘルスアップキャンペーン」を年1回実施し、従業員が生活習慣を見直すきっかけづくりをしています。

コロナ禍には、参加率が60%を切った時期もありましたが、2023年度にはグループ全体で82%と過去最多の参加率となりました。



※ 集計年度は、4月～3月

※ キュービーグループ

中董グループ(中島董商店、トウ・ソリューションズ、nakato)およびキュービー単体の海外駐在員、外部出向、キュービー・アラハタ健康保険組合を除く

健康に配慮した食事の提案

社員食堂のある事業所では、社員食堂とタイアップし、定期的に健康に配慮したメニューを提案しています。また、「サラダファースト」や「おいしく適塩」などテーマを設けたフェアやイベントを実施、従業員の食生活向上を意識した取り組みを実施しています。



イベントの様子

禁煙対策

グループ従業員の健康維持・増進を目的に、2020年4月1日より東京都の2拠点の事業所(渋谷区、調布市)において敷地内喫煙所を撤廃し、敷地内全面禁煙をスタートさせました。同時に、グループを含めた全事業所でも、受動喫煙のない職場環境づくりを実現しています。

また、2017年から従業員の卒煙支援を強化し、禁煙外来、卒煙補助薬の自己負担額の補助や、自助努力での卒煙成功者に記念品を用意するなど、卒煙チャレンジを継続して促しています。

がん検診休暇・職域がん検診

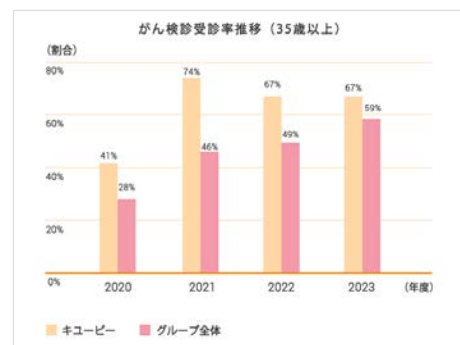
キューピーグループでは、従業員全員の定期健康診断に加え、35歳以上の従業員を対象に人間ドックやキューピーグループ独自の3点セット検診(胃がん・大腸がん・腹部超音波検査)、20歳以上の女性従業員には婦人科検診(乳がん・子宮頸がん)を推奨しています。この検診はキューピー・アヲハタ健康保険組合が補助を行っています。

さらに、従業員が受診しやすい環境づくりを強化するために「がん検診特別休暇」の付与、移動検診車による職域集団がん検診や、大腸がん検診の職域実施など、キューピーグループ受診率目標80%に向けさまざまな取り組みを進めています。

2019年～ 首都圏で婦人科がん職域集団検診実施

2021年～ 首都圏で3点セット職域集団検診実施
がん検診休暇付与開始

2022年～ 全国で大腸がん職域集団検診実施
順次エリア拡大中



※ 集計年度は、4月～3月

※ キューピーグループ

中重グループ(中島重商店、トウ・ソリューションズ、n a k a t o)およびキューピー単体の海外駐在員、外部出向、キューピー・アヲハタ健康保険組合を除く

※ 3点セット検診のうち1つ以上受診でカウント

海外駐在員の健康管理

海外事業の拡大に伴い、駐在員の人数も年々増加しています。

海外駐在員にも、国内同様の健康管理体制を行えるよう、年1回人間ドックを受診してもらい、必要に応じて保健師からのアドバイスを行っています。また、メンタル面においても、赴任3カ月後のヒアリング、ストレスチェックの実施、WEBによる産業医面談などを行い、安心して海外生活が送れるように支援しています。

労働安全衛生への取り組み

労働安全衛生に関する考え方

キュービーグループの生産事業所では、キュービー生産本部基盤向上推進部安全チームが中心となり、従業員が健康で安全な職場生活を送ることができる快適な職場環境づくりに努めています。主な活動として、次の3つを実施し、災害の未然防止と安全意識向上に努めています。

- 1.全生産工場の安全監査(国内69カ所)
- 2.グループ安全会議
- 3.災害情報の水平展開

グループ一体となった予防安全の取り組み

キュービーグループでは、2004年より予防型安全活動を推進しています。次の3つを実施することにより、リスクを許容可能なレベルまで下げ、安全第一の風土構築をめざしています。

- 1.リスクアセスメントの実施
- 2.安全教育手順書による教育
- 3.QBSS(キュービー・アラハタ安全基準)点検と是正

休業災害発生件数の推移(各年度4月末集計)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
休業災害件数	13	12	17	9	13
度数率 ^{※1}	0.62	0.60	0.90	0.46	0.69
強度率 ^{※2}	0.038	0.020	0.031	0.027	0.036

対象:キュービーグループ国内工場

※1 度数率=労働災害による死傷者数/延べ実労働時間×1,000,000

※2 強度率=労働損失日数/延べ実労働時間×1,000

[> ESGデータ集](#)

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス
- ↳ 倫理規範 >
- ↳ コーポレート・ガバナンス >
- ↳ リスクマネジメント >
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キユーピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

ガバナンス

キユーピーグループは、グループの理念に基づく事業活動を通じて世界の人々の食生活と健康に貢献し、持続的な成長と企業価値の向上を実現するため、経営上の組織体制や仕組み・制度などを整備し、必要な施策を適宜実施していくこと、また経営の成果をお客様や従業員、お取引先、株主・投資家、地域社会などのステークホルダーの皆様に適切に配分すること、これらを経営上の最も重要な課題の一つに位置づけています。

コーポレート・ガバナンスについては、透明・公正かつ迅速・果断な意思決定を行うための仕組みと定義し、「グループ規範」を遵守するとともに、基本方針に沿って、適切で効果的な体制の整備および充実に継続的に取り組んでいきます。



↳ 倫理規範

理念に基づく倫理規範によってステークホルダーの皆様に信頼していただける企業活動を行います。



↳ コーポレート・ガバナンス

透明・公正かつ迅速・果断な意思決定を行うための仕組みをご案内します。




↳ リスクマネジメント

リスクによる経営への損失を低減し中長期目標の実現性を高めることに注力します。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ
マネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス
- └ 倫理規範 >
- └ コーポレート・ガバナ
ンス >
- └ リスクマネジメント >
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

倫理規範

- 倫理規範に基づく取り組み 
- 法令の遵守 
- 人権の尊重 
- 公正・健全な企業活動 
- 情報セキュリティの徹底 
- 反社会的勢力への対応 

倫理規範に基づく取り組み

キューピーグループは、社是・社訓を基本としたグループの理念の考えのもと、私たちの活動を支えていただいているステークホルダーの皆様から、最も信頼していただけるように、私たちの姿勢を「グループ規範」として表しています。

その中で、より良い企業市民として守っていくことを倫理規範として定めています。

役員をはじめ、一人ひとりの従業員がグループ規範の心を理解して誠実に遵守していくことが、企業としての一層の透明性とお客様からの信頼につながるものと考えています。

- > 理念
- > キューピーの約束

法令の遵守

企業の持続的な発展には、法令遵守はもとより、すべての役員および従業員が高い倫理感を持って事業活動を行う必要があります。また、持続的な企業運営を支えるのは従業員であることから、一人ひとりの行動の基本となる考え方をグループ内外に浸透させ、お客様からの信頼と従業員相互の自浄作用につなげることも重要です。この考えのもと、キューピーグループはコンプライアンス推進体制を構築し、すべてのグループ従業員に徹底する取り組みを推進しています。

- > コーポレート・ガバナンス
- > キューピーグループ反贈賄基本方針制定

コンプライアンスの推進

2004年1月に「グループ倫理行動規範」を制定するとともに、コンプライアンス委員会を設置し、全社横断的コンプライアンス体制を整備しました。同委員会ではコンプライアンスに関する規定の整備や問題点の抽出、従業員に向けたマインドアッププログラムなどを実施しています。

- 従業員意識調査アンケート
全従業員に意識調査アンケートを隔年で実施し、コンプライアンス意識の確認と意見の聴取を行い、透明性が高く働きやすい職場の実現に努めています。
- ヘルプライン
公益通報者保護法に対応した内部通報体制として、ヘルプラインを設置しています。
社外の弁護士、第三者機関、監査役などが受けた通報・相談はコンプライアンス調査会が調査し、違反行為は処分を行い、社内に公表し、再発防止策を実施します。

人権の尊重

役員・従業員一人ひとりが人権を尊重し、差別やハラスメント行為のない職場環境を実現します。従業員意識調査のアンケートを通じて、人権侵害の有無を調査する取り組みなどを進めています。また、事業展開を進める上で、さまざまな人権課題を把握し、それに配慮し適切に行動することが求められている中、バリューチェーン全体での人権の配慮にさらに取り組んでいきます。

▶ [人権尊重への取り組み](#)

 [キュービーグループ人権方針\(361KB\)](#)

公正・健全な企業活動

全てのステークホルダーの皆様の信頼を得るために企業活動に伴う法令を遵守するとともに良識的な行動を行います。また公正・自由な競争を行い透明で健全な関係を築きます。原材料の調達についても同様の考えのもと、品質第一主義という考えを大切にしながら、サプライチェーンにおける環境や人権にも配慮した取り組みを進めています。

▶ [持続可能な調達のための基本方針](#)

▶ [調達への取り組み](#)

競争法(独占禁止法・下請法)遵守に向けた体制づくり

キュービーグループは、公正・健全な企業活動を実践する取り組みとして、競争法(独占禁止法・下請法)の遵守に取り組んでいます。

独占禁止法への対応

- ・ 「独占禁止法遵守マニュアル」、「事例問題・Q&A集」の制定
- ・ eラーニングや社内勉強会による、独占禁止法に関する教育・研修の実施
- ・ 海外の主要なグループ会社において、弁護士による社内研修の実施

下請法への対応

- ・ 下請法に対応した発注・支払システムの構築・運用
- ・ eラーニングや社内勉強会による、下請法に関する教育・研修の定期実施
- ・ 「下請法対応マニュアル」、発注書など必要書類の各種フォーマット、下請法セルフチェックリストの整備
- ・ 関係部門での下請法担当者選任、セルフチェックおよび自主改善活動の推進

情報セキュリティの徹底

会社情報取扱規程、個人情報保護基本規程などに関する各管理マニュアルを制定し、情報推進委員会を中心に情報管理に係る従業員教育や各規程などの運用状況の検証、規程の見直しなどを行っています。

また、海外拠点においても、各国の制約やIT環境に合わせて規程の整備や従業員への周知を進めています。

▶ [プライバシーポリシー](#)

▶ [コーポレート・ガバナンス](#)

▶ [個人情報の取り扱いについて](#)

反社会的勢力への対応

社会の一員として社会秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは一切関係を持たず、不当要求に対しては毅然として対応します。

グループ従業員への教育を行うとともに、警察などの関係機関への相談や情報収集などに努めています。

また、お取引先との契約書に反社会的勢力排除に関する条項を設けています。

反社会的勢力排除の推進体制

反社会的勢力への対応マニュアルの作成、階層別研修やeラーニングなどのコンプライアンス活動による従業員の指導・啓発、さらには必要に応じて警察などの関係機関への相談や情報収集などに努めています。

契約書の反社会的勢力排除条項

お取引先との契約書において、反社会的勢力排除に関する条項を設け、お取引先が反社会的勢力ではなく、また当該勢力との関係も有しないことを保証していただくとともに、もしそれに反することが判明した場合には直ちに契約を解除できる旨を定めています。

企業情報

- 企業情報トップ >
- トップメッセージ >
- 基本方針 +
- キューピーの約束 -
- コーポレート・ガバナンス >
- 反贈賄基本方針制定について >
- 消費者志向自主宣言 >
- プライバシーポリシー >
- 個人情報のお取り扱いについて >
- 匿名加工情報のお取り扱いについて >
- 会社概要 +

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方 ● コーポレートガバナンス体制 ●

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

当社は、当社グループのコーポレート・ガバナンスを、グループの理念を实践し、お客様、従業員、お取引先、株主・投資家、地域社会等のさまざまなステークホルダーの立場等を踏まえうえて、持続的な成長と企業価値の向上を実現するために、経営の透明性・公正性を高め、かつ迅速・果断な意思決定と実行を確保するための仕組みと定義しています。

当社は、当社グループのユニークさを活かしたコーポレート・ガバナンスを構築することが重要であると認識しており、コーポレート・ガバナンスポリシーにしたがって、さまざまなステークホルダーとの対話を大事にしながら、その在り方を不断に検討し、一層の充実に取り組んでいきます。

[📄 コーポレート・ガバナンスポリシー \(314KB\)](#)

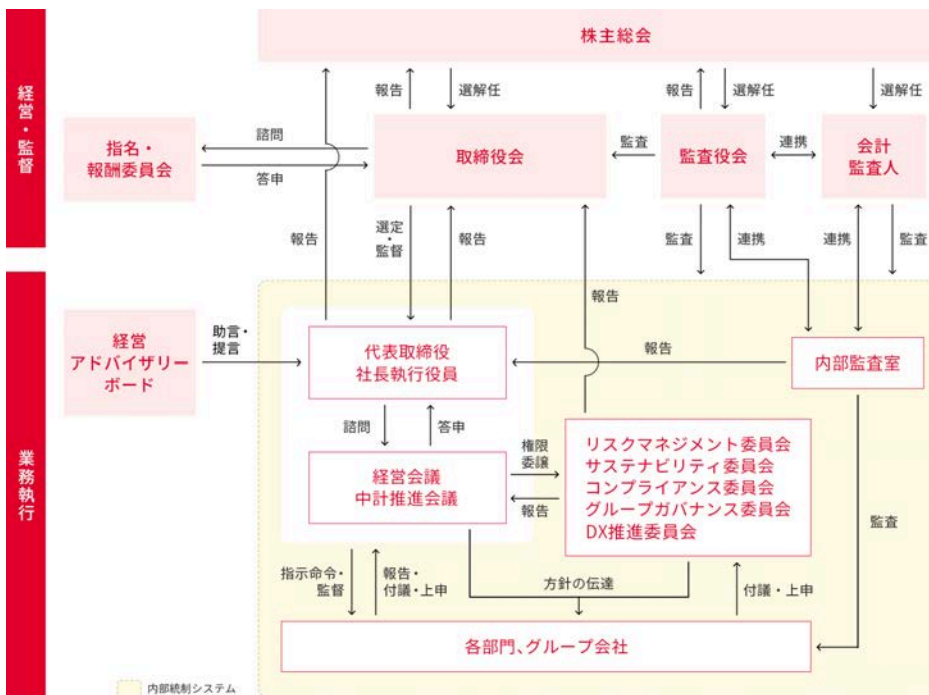
[📄 コーポレート・ガバナンスに関する報告書 \(283KB\)](#)

コーポレートガバナンス体制

当社は、監査役会設置会社です。その機関設計のもと、取締役会の監督機能の強化を進めています。

また、業務執行を適切かつ機動的に進めるために、執行役員制度を採用しています。

取締役および執行役員任期を1年とすることで、事業年度ごとの経営責任をより明確にするとともに、経営環境の変化に迅速に対応した経営体制を構築しています。



取締役会

取締役会は、グループ全体を俯瞰できる執行役員を中心とした常勤取締役6名と社外取締役4名の体制です。当社グループとしての方針・戦略(中期経営計画等)をはじめとする経営における重要な事項について意思決定を行うとともに、取締役および執行役員の職務執行を監督しています。

[📄 取締役会の実効性評価\(348KB\)](#)

監査役会

監査役会は、常勤監査役2名、社外監査役3名の体制です。代表取締役社長執行役員との意見交換、重要会議・重要委員会への出席、担当役員や各部門の責任者からの報告、事業所往査などを通じて、内部統制システムの整備・運用状況を監視しています。また、会計監査人や内部監査部門と定期的な情報共有含め連携を図っています。

※社外取締役および社外監査役の7名は、株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員です。

※詳細は役員一覧をご覧ください。

[> 役員一覧](#)

[📄 取締役会が経営陣幹部の選解任と取締役・監査役候補の指名を行うにあたっての方針と手続き\(198KB\)](#)

[📄 役員\(取締役・監査役\)、執行役員の報酬の考え方について\(110KB\)](#)

指名・報酬委員会

取締役会の構成や取締役等の指名・報酬のあり方などに関する客観性、妥当性および透明性を高めることを目的に、取締役会の諮問機関として指名・報酬委員会を設置しています。

5名以上の委員で構成され、委員の半数以上は独立性基準を満たした社外役員と定めています。

委員長は、社外取締役の委員の中から、指名・報酬委員会の決議により選定しており、委員会の議長を務めています。

構成(2024年2月29日時点)

委員長	社外取締役 柏木 育
委員	社外取締役 福島 敦子
	社外取締役 西川久仁子
	社外取締役 ハロルド・ジョージ・メイ
	社外監査役 寺脇 一峰
	取締役会長 中島 周
	代表取締役社長執行役員 高宮 満
	取締役 上席執行役員 山本信一郎

業務執行

重要会議・委員会

グループの全体方針および最重要事項は、当社の取締役会または経営会議(または中計推進会議)での審議を経て、決定します。グループ横断の重要かつ専門的な課題については、経営会議から権限を委譲された特定の重要会議・委員会が方針の策定・取り組みの推進を担うことで、迅速かつ適切な決裁と実行につなげています。特に内部統制に関する機能は、主に下記の重要会議・委員会が分担しています。

会議体	主催者・委員長	主な役割
経営会議	代表取締役 社長執行役員	グループ経営に関わる重要な事項(事業リスク含む)について審議し、モニタリングを行う重要会議です。社内取締役と執行役員が主な参加メンバーです。
中計推進会議	代表取締役 社長執行役員	上記のうち、特に中期経営計画の推進に関わる重要な事項について、業務執行取締役中心のメンバーで審議する重要会議です。
リスク マネジメント 委員会	リスク マネジメント 担当執行役員	グループ全体のリスクマネジメント方針の策定、重点課題の決定、取り組みの推進を主な役割とする重要委員会です。全社的なリスクに関して、情報を集約し、そのリスクの評価、優先順位および対応策などを統括しています。
サステナビリティ 委員会	サステナビリティ 担当取締役	グループ規範に沿ってサステナビリティの実現に向けた方針の策定、重点課題の決定と取り組みの推進を主な役割とする重要委員会です。サステナビリティ基本方針を策定し、それに基づく社会・環境面の重点課題に取り組んでいます。
コンプライアンス 委員会	コンプライアンス 担当執行役員	グループ全体のコンプライアンスに関する体制の整備、重点課題の決定、取り組みの推進を主な役割とする重要委員会です。 コンプライアンスに関わる問題点の把握に努めるとともに、コンプライアンス推進に関する企画、啓発および教育などを行っています。
グループ ガバナンス 委員会	グループ ガバナンス 担当執行役員	適切なグループガバナンス構築に関する方針の策定、重点課題の決定、取り組みの推進を主な役割とする重要委員会です。 適切な意思決定・グループ会社管理体制の整備等の施策の推進を行っています。
DX推進委員会	執行役員 デジタル推進室長	グループ全体のデジタル戦略方針の策定、資源投入(コスト・体制など)の適正化、DX人材育成の方針の策定・推進を主な役割とする重要委員会です。直轄組織である情報推進委員会を通じ、グループ全体の情報セキュリティの維持、IT環境の整備、ITリテラシー教育およびIT活用の推進も行っていきます。

 [内部統制システム構築の基本方針\(476KB\)](#)

経営アドバイザーボード

経営の健全性、公正性、透明性を高め、より良く社会とお客様に貢献できるように助言・提言を得ることを目的に、代表取締役 社長執行役員の諮問機関として、社外の有識者により構成する経営アドバイザーボードを設置しています。なお、経営アドバイザーボードミーティングは、定例会を年間で2回開催しているほか、必要に応じて随時開催しています。

内部監査室

合法性と合理性の観点から、自主監査などを行う品質・環境・安全・労務などの各スタッフとも連携し、当社グループの経営活動全般にわたる管理・運営の制度および業務の遂行状況について、内部監査を行っています。また、当社代表取締役 社長執行役員の指名に基づき財務報告に係る内部統制の有効性評価を行っています。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ
マネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス
- ↳ 倫理規範 >
- ↳ コーポレート・ガバナ
ンス >
- ↳ リスクマネジメント >
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キュービーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

リスクマネジメント

リスクの評価・選定 ▼ リスクマネジメント体制 ▼ 主なリスクマネジメント活動 ▼

リスクの評価・選定

社内外の経営環境の変化からリスクとなりうることを「各リスクの経営への影響の大きさ」と、「マネジメントコントロール度」の2軸で評価し、対応すべきリスクを選定しています。社内・社外両面からモニタリングを行い、状況変化に応じたリスクの重要性を適時評価し、機敏にリスクに向き合うように努めています。

全社主要リスク

経営への影響度が大きいにも関わらずマネジメントコントロールが不十分なリスクは、全社横断的なプロジェクトにより、最優先でリスク低減に努めています。

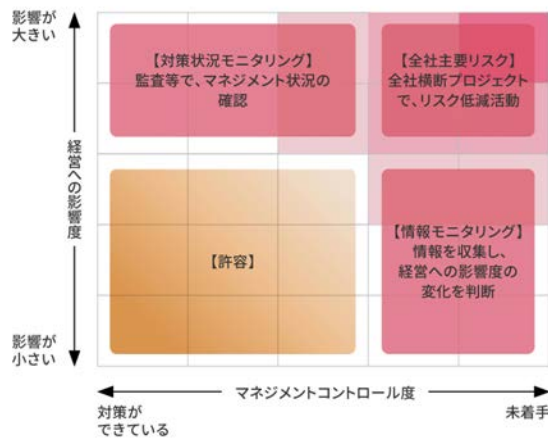
対策状況モニタリング

活動を通じて対策が効果を上げマネジメントコントロールが高まったとしても依然として経営の影響度が大きい場合は、その後の対策状況を監査などにより確認しています。

社外情報モニタリング

その時点では経営への影響度が小さく経営課題とならないリスクにおいても、対策ができていないリスクは感度高く社外情報の収集、モニタリングに努めています。

リスクの評価



リスクマネジメント体制

キュービーグループでは、経営の継続的、安定的発展に影響しかねない事象をリスクと認識し、リスクマネジメントの実践を通じ、内部統制システムの充実に取り組んでいます。個々のリスクを各担当部門が継続的に監視するとともに、全社的なリスクはリスクマネジメント委員会*で情報を共有し、そのリスクを評価、優先順位および対応策の効果などを総括的に管理し、特に下記の8つを主要なリスクに位置づけて抑制・回避に努めています。

キュービーグループのリスクマネジメントの体制と全社主要リスク



これら全社的なリスクの評価や対応の方針・状況などについては、リスクマネジメント担当執行役員が定期的に取り締役に報告しています。

※ リスクマネジメント委員会は、キュービー(株)経営会議メンバーおよび主要本部・主要子会社の代表者より構成しており、キュービーグループのリスクマネジメントに関する最高意思決定機関であり、委員会を年3回開催しています。

※ 地球環境問題、気候変動については、サステナビリティ委員会で対応しています。

主なリスクマネジメント活動

海外展開のリスク低減活動 海外グループ会社の「内部統制推進プロジェクト」

キュービーグループでは、海外拠点の従業員が安心して業務を遂行できる環境を整え、グループの成長・発展につなげる活動に取り組んでいます。

その活動の中心として、経営基盤の強化につながる内部統制システム(ガバナンス、コンプライアンスおよびリスクマネジメント)の整備を推進するための法務・財務・人事・IT・知財・危機管理・内部監査・海外事業などの部署により構成している「内部統制推進プロジェクト」を組織し、さまざまな取り組みを行っています。

内部統制推進プロジェクトでは、これまでに、参加している専門部署ごとに考えられる海外リスクマネジメントのためのチェックリストの作成や海外各社とのやり取りを通じて、双方向型での内部統制システムの整備を推進してきました。

具体的な取り組み

- ・ 反贈収賄プログラムの展開
- ・ 国内外で統一した危機発生時の事業継続計画(BCP)の策定
- ・ 情報セキュリティ対策の推進
- ・ 人事労務体制の強化(規程類・制度の整備と見直し、理念研修など)
- ・ 海外グループ会社のメンバーを対象とした研修

今後も、海外グループ会社とプロジェクトの取り組みの到達点、スケジュールを共有し、連携しながら、海外の内部統制システムの整備を更に進めていきます。



「内部統制推進プロジェクト」オンラインミーティングの様子

自然災害など不測の事態への対応 事業継続計画 (BCP)

過去の災害や感染症蔓延などの危機の経験を生かして、キューピーグループ横断で危機発生時の事業継続計画を整備し対策に取り組んでいます。
主に下記について備えています。

- ・ 東京の本社機能を関西で代替するための体制の維持
- ・ 非常時の通信ネットワークの整備や物資の備蓄
- ・ 生産設備や物流設備の耐震補強
- ・ 生産設備の状態を確認するシステムの整備
- ・ 主要商品の生産拠点や原資材の調達の実拠点化、受注機能の実拠点化
- ・ 全国規模で在宅勤務へ移行できる体制の維持



対策本部会議の様子

危機発生の種類ごとにマニュアルを整備し、それらを確実に運用できるようにするために大規模災害対応訓練（初動対応訓練や商品供給訓練、安否確認訓練）を行っています。

これらの活動により、発災した場合には適切な初動対応を行い、速やかに復旧活動につなげて平時の事業活動の状態に回復を促し、不測の事態から受けるダメージを最小限にできるように備えています。

ランサムウェア※リスクへの対応

国内外でランサムウェアによる企業への攻撃が増加しており、キューピーグループでもリスクの認識を高め、対応を講じています。

緊急時を想定し、攻撃を受けた際に対応できる環境構築を進めています。ハード面の強化策として、全パソコン、全サーバに対しマルウェア対策を進めるとともに、ソフト面の強化策では、全従業員に対し継続的な社内教育プログラムの実施、および攻撃メールの模擬訓練を実施するなど、従業員へのセキュリティ認識向上にも取り組んでいます。

※ 感染すると端末などに保存されているデータを暗号化して使用できない状態にしたうえで、搾取データ開示の脅しだけでなく、復号する対価として金銭を要求する不正プログラム

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 -
- 品質への想い >
- 原料の品質 >
- 製造工程の品質 >
- 容器包装の品質 >
- 食の安全性評価 >
- お客様に安心していただくために >
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

安全・安心

健やかな生活には、安全・安心でおいしい食が欠かせません。私たちは、「良い商品は良い原料からしか生まれない」という信念をもっています。バリューチェーンの各段階において、従業員一人ひとりが日々の仕事の質を高めることで、お客様をはじめとするさまざまなステークホルダーの皆様の期待に応えていきます。



品質への想い
人・仕組み・技術の3つの取り組みによって品質を追求し続けています。



原料の品質
品質を追求するため、原料の管理・提供元であるサプライチェーンとの取り組みを強化しています。



製造工程の品質
製造現場においては徹底したルールの遵守と、安全のための仕組みづくりを行っています。



容器包装の品質
品質とおいしさを守るため容器の改良を重ねてきました。



食の安全性評価
商品や原料について理化学分析・微生物検査などを行っています。



お客様に安心していただくために
お客様の声を生かす仕組みと、商品の表示の見方をご紹介します。

サステナビリティ

品質への想い

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
 マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 -

品質への想い >

原料の品質 >

製造工程の品質 >

容器包装の品質 >

食の安全性評価 >

お客様に安心していただくために >

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >


各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >


社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
 オフィシャルブログ >

グループ各社の
 サステナビリティ活動 >

品質を確かにする人づくり 

品質を裏付ける仕組みづくり 

品質を高める技術の追求 

品質を確かにする人づくり

品質を確かなものにするのは、人です。そこで私たちは、学びの場や発表の場を設け、品質の向上をめざしています。

ものづくり学校

商品の製造に関わるすべての部門の担当者を対象にした学びの場「ものづくり学校 品質コース」を設けています。ものづくり学校では、商品の品質管理の入門から、高度な応用まで学んでいます。ものづくり学校を修了したメンバーが、各部署で教える側になり、知識や技術を伝えていきます。私たちの「ものづくり学校」は、核になる人を養成し、その人を中心にして仲間を増やして、グループ全体の品質を高めていくことをめざしています。

ものづくり学校で学ぶこと

安全の原理

微生物、分析など、品質の技術と知識を学びます。

安心の原則

法令、自社の取り決めなど、品質のルールを理解します。

安心の原点

過去の事例などに学び、品質の礎となる考え方を身につけます。



わくわくアワード

わくわくアワードとは

キューピーグループでは「お客様と従業員の笑顔につながる品質向上活動」として「わくわく活動」を行っています。

「グローバル」「協働と創造」「共感(賞賛)」を合言葉に「わくわくアワード」を開催して、国内外のグループ全社より選抜されたチームの「わくわく活動」を共有、水平展開することで、私たちキューピーグループのめざす姿である「世界の食と健康に貢献する」ことにつなげています。



品質を裏付ける仕組みづくり

国際的な第三者の認証を取得することで、グループの品質レベルを維持・向上する仕組みを導入しています。

食品安全に関する第三者認証の導入

私たちは、グループ全生産拠点でGFSI認証と呼ばれる食品安全に関する国際的な第三者認証を取得しています。

外部機関の審査を定期的に行うことによって、品質保証の取り組みについて、客観的に見つけ、改善することで、継続的な品質レベルの維持・向上を実現しています。

GFSI認証とは

GFSI認証とは、2000年5月に設立された非営利財団 世界食品安全イニシアチブ(GFSI)が、安全な食品を提供するために構築した認証です。オランダで作られたFSSC22000、アメリカで作られたSQFも、GFSI認証の一部です。

品質を高める技術の追求

私たちは、最新の生産技術を学び、導入し、品質を高める努力をしています。

生産技術

マヨネーズの外袋の印字

マヨネーズの外袋の賞味期限は、従来はインクジェットによって印字をしていましたが、現在はレーザーを使って印字しています。

二層になっているフィルム間に特殊なインキを塗布しており、ここにレーザーを照射することでインキを黒色に発色させる方法です。直接印字する方法と比べて、印字部分に物が接触などしても印字が消えることはありません。



分析技術

食品に含まれる微生物の同定[※]に関する技術は、近年急速に進歩しています。

※ 微生物の種類を特定すること。

食品に含まれる微生物の同定

かつては微生物を食品から分離・培養した後、顕微鏡で観察し特性を調べ、1週間から10日かけて同定していました。それが、遺伝子を使った手法が登場して1～2日になり、今ではその微生物に特徴的なたんぱく質を調べることで30分に短縮できています。

私たちはこうした技術の変化に対して、有効なものは積極的に導入するとともに、外部の機関と共同で新技術構築にも取り組んでいます。




微生物同定の進歩



サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ
マネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 -
- 品質への想い >
- 原料の品質 >**
- 製造工程の品質 >
- 容器包装の品質 >
- 食の安全性評価 >
- お客様に安心していただくために >
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キユーピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

原料の品質

良い商品は良い原料からしか生まれない  マヨネーズの原料  ベビーフードの原料 

良い商品は良い原料からしか生まれない

キユーピーグループは、「良い商品は良い原料からしか生まれない」というキユーピー創始者である中島董一郎の想いを大切に、原料の調達から商品の製造、容器包装、販売、安全性の評価まで、全段階で品質第一主義を徹底しています。

すべてのプロセスにおいて、自社およびグループ会社が直接関わることで、品質への責任を自身がいしっかりと持つことを基本姿勢としています。

その根底にあるのが、創業からこだわり続けてきた、「良い商品をお届けする」という想いです。

良い原料を入手するために大切にしていること

調達先には専門の担当者が定期訪問し、ものづくりの基本的な考え方を共有しながら、改善などに力を合わせて取り組んでいます。

新規のお取引の場合には、私たちの品質への想い、考え方をお伝えし、製造環境なども確認します。

異物混入を防ぐ手立ては実施されているか、良い原料を供給できるかを確認し、信頼でき、一緒に取り組むことができる調達先とお取引しています。

マヨネーズの原料

赤い網目と赤いキャップでお馴染みのキユーピー マヨネーズの主要原料は卵黄、植物油、酢。

卵

卵で特に大切なのが鮮度。新鮮な卵でなければ割卵機で卵黄と卵白をきれいに分けられないからです。そこで、卵が工場についたらすぐに鮮度チェックを行い、基準に適合していることを確認しています。卵は傷みやよく衛生的に管理する必要があります。



卵の鮮度チェック

植物油

キュービー マヨネーズには、菜種油や大豆油などを使っており、その精製工程は調達先と細かいところまで確認し合っています。こうして設けた「キュービースペック」と呼ばれる独自の基準は、安全でおいしい商品づくりを支えています。また、「事前サンプル制度」という仕組みは、調達先からあらかじめサンプルを取り寄せ、検査を行って、合格した原料だけを受け入れるものです。さらにその合格した植物油は、私たちのグループの車両で調達先まで受け取りに行っています。植物油の基準づくり、製造、品質確認、輸送まで、すべてに私たちは関わっています。



事前サンプル制度で届けられた植物油の品質をチェック



輸送した植物油の受取。輸送担当者と工場の担当者が確認しながら行う

酢

かつて、日本で製造されている酢は米などを原料にした和風の酢が主体で、洋風調味料であるマヨネーズに合う酢の入手は困難でした。そこで私たちは、1962年に専門会社を作りました。マヨネーズに使っているのは、リンゴ果汁やモルトなどを原料にして作った専用酢。野菜やパンだけでなく、ご飯や和食などにもよく合うようにしています。



マヨネーズ専用酢を作っているキュービー醸造株式会社



発酵タンク

ベビーフードの原料

ベビーフードは品質の集大成

ベビーフードは、赤ちゃんが食べるもの。だから、私たちが使用する原料には公的基準に加えて、ベビーフード協議会の自主規格をもとにしたキュービー独自の基準も設定しています。

産地や調達先を直接訪問してベビーフードに使う原料であることを伝え、品質を確認し合っています。たとえば、私たちの原料検査で気になることがあれば、それを持って調達先を訪問し、対応について一緒に考えます。

ベビーフードには着色料、香料は使っていません。安全かどうかという尺度ではありません。赤ちゃんの食はどうあるべきかを考えたとき、素材を大切にすべきと思うからです。



[> 心を込めて、一つ、ひとつ。\(ベビーフード紹介サイト\)](#) 

異物探知機と人で原料を確認

農産物などの原料は、その状態、特性に応じて、X線を使った異物探知機や目視検査で確認しています。特に大切にしているのが、目で見て、匂いをかいで、手の感覚を働かせての選別です。

たとえば、家庭で使っている米には、割れたもの、一部が黒ずんだものも含まれています。

でも、それがベビーフードに含まれていると、子育て中の皆さんは心配になってしまいます。そこで、米粒も人が確認し、こうしたものを取り除いて使っています。にんじんは小さく角切りにされたものが入荷されてきます。これも確認し、変色したもの、大きなものなどを人の手で除去しています。



サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 -
- 品質への想い >
- 原料の品質 >
- 製造工程の品質 >**
- 容器包装の品質 >
- 食の安全性評価 >
- お客様に安心していただくために >
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

製造工程の品質

- ルールの徹底とミス防止の仕組み 
- マヨネーズの製造品質 
- ベビーフードの製造品質 

ルールの徹底とミス防止の仕組み

私たちの工場では、作業者からの異物混入を防ぐため、決められた服装にし、決められた手順で製造現場に入る規定があります。また、意図的な異物混入を防ぐフードディフェンスの仕組みを導入しています。原料の配合工程においても、独自の仕組みを利用し、配合事故未然防止を徹底しています。

意図的な異物混入防止の方針

1. 製造現場内には決められた者しか入れない
 2. 意図的な悪戯をさせない
 3. 問題ないことを後から証明できる
- +従業員との対話を大切に

安全な商品を作るためのルール >



配合事故の未然防止

私たちの工場では、働く人のミスと不安をなくし、品質を守るため、自社開発で「配合事故未然防止システム」を構築しました。原料の入荷や計量、配合などの各工程において、二次元コードを読み込むことで、その都度原料の種類や使用量、賞味期限などについて照合と記録を行うことができる仕組みです。

さらに、この記録をたどることで、「その商品に使った原料は何か」「同じ原料を使った商品は何か」などを特定することができます。私たちのトレーサビリティシステムの根幹にあるのが、この「配合事故未然防止システム」です。



マヨネーズの製造品質

おいしくて、安全で安心なマヨネーズをお届けするため、細部にまでこだわってマヨネーズを作っています。この根底にあるのが、1925年の発売以来こだわり続けてきた「良い商品をお届けする」という想いです。

マヨネーズの製造工程



1 割卵

キュービー独自の割卵機で1分間に600個の卵を割り、卵黄と卵白に分けます。卵を衛生的に扱うために、定期的に割卵機を止めて洗っています。卵黄は61°C×3.5分以上の条件で加熱殺菌します。乳化力などの卵黄の機能は保持したまま、サルモネラ、鳥インフルエンザウイルスについては安心な状態になります。



2 調合

マヨネーズの大敵は酸素。酸化しないように、真空状態で乳化します。油の粒は1000分の2～4mm。手作りよりもキュービー マヨネーズがまろやかな風味なのは、この油の粒が細かくて、均質だからです。



3 ボトルの口部をカット

マヨネーズのボトルは、密封状態で入荷され、充てんの直前に逆さにして口部をカットします。切りくずが内部に入らないようにするためです。口部をカットしたらキャップ締めまで製造ラインに覆いをし、異物が混入しないようにしています。



4 充てん

マヨネーズをろ過した後、ボトルに充てんします。



5 キャップじめ・印字

マヨネーズを充てんしたらすぐにキャップをします。このとき口部の空気を窒素で置換し酸化を防止しています。その後キャップに賞味期限と、充てん時刻を意味する記号を印字します。これにより製造年月日と充てん時刻がわかり、その商品を作ったときの製造状況などを調べることができます。



6 包装・箱詰め

できあがった商品を袋に入れ、箱に詰めます。このとき重量を量り、箱に決められた本数が入っているか、全数確認します。



7 出荷

グループのトラックを使って工場から出荷します。

ベビーフードの製造品質

発売以来「品質第一」を信条とし、ベビーフードの品質を守っています。大切にしているのは、赤ちゃんを育てている皆さんの気持ちになること。ベビーフード作りで培ったノウハウが、他の商品作りにも生かされています。

レトルトパウチタイプの製造工程一例



1 選別

注意深く見て、原料を選別します。



2 調理

大きな釜に原料を入れて調理します。おいしく仕上げるために、かき混ぜ方などにひと工夫しています。



3 金属異物確認

調理したものの中に金属異物が含まれていないことを確認するため、強力なマグネットを使用します。



4 充てん密封

袋の中に一定量を充てんします。直後に袋の上部を熱を使って 接着し、異物などが内部に入らないようにします。



5 重量確認

定められた重量が充てんされていることを0.1g単位で全数確認します。



6 加熱殺菌

レトルトパウチの場合、120℃、4分相当以上の加熱殺菌をします。そのため、保存料などは不要です。



7 異物確認

X線を使って内部を透過撮影し、異物が入っていないか、全数確認します。



8 密封検査包装

密封されていることを全数確認し、包装します。



9 最終検査

風味・状態などを最終チェックし、問題ないことを確認します。



10 出荷

グループのトラックを使って工場から出荷します。

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
 マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 -

品質への想い >

原料の品質 >

製造工程の品質 >

容器包装の品質 >

食の安全性評価 >

お客様に安心していただくために >

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
 オフィシャルブログ >

グループ各社の
 サステナビリティ活動 >

安全な商品を作るためのルール

安全・安心な商品を製造するため、工場では、服装・入室に関するルールだけでなく、意図的な異物混入を防ぐ対策もしています。

服装規定

製造現場に入るときは、必ず決められた清潔な作業服に着替えます。帽子は二重になっていて、裾は作業服の中に入っています。作業服の袖部分、胸部分、裾部分にはそれぞれ二重に絞りを設けているので、万が一、毛髪が落ちても作業服内に留まります。



入室規定



1. 粘着ローラーで頭から足元まで40秒以上かけて毛髪などを取り除きます。



2. 30秒以上手を洗い、乾燥します。



3. アルコール消毒をします。



4. 空気のシャワーでほこりなどを吹き飛ばしてから、製造現場に入室します。

フードディフェンス

私たちは以下の基本方針に基づいて、意図的な異物混入を防ぐ対策をとっています。

1. 製造現場内には決められた者しか入れない
2. 意図的な悪戯をさせない
3. 問題ないことを後から証明できる

+従業員との対話を大切にする

意図的な異物混入防止対策 一例



1. 製造現場への入室管理
静脈認証や暗証番号などで管理し、関係者以外は入室できないようになっています。



2. 薬品庫、屋外タンクの鍵管理
社員証がなければキーボックスを開錠できません。さらに、鍵は誰がいつ持ち出し、いつ返却したかも記録されます。



3. 安心カメラ
万が一の不測の事態の際に、当時の製造状況を確認し、安全・安心が証明できるようにしています。

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 -

品質への想い >

原料の品質 >

製造工程の品質 >

容器包装の品質 >

食の安全性評価 >

お客様に安心していただくために >

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

グループ各社の
サステナビリティ活動 >

容器包装の品質

品質評価

マヨネーズの酸化防止

品質評価

食品の容器包装は、時には何カ月も内容物を守り、品質を保持するという大切な役割を果たしています。同時に、使いやすさも容器包装の重要な要素です。

内容物の配合や特性に加え、輸送や店頭での陳列、ご家庭での使用場面などを想定して容器の設計を行います。設計通りに作られているか、実際の使い勝手に問題ないかなど、さまざまな方法で容器の品質を確認しています。

また、機能性評価や安全性評価は容器包装メーカーと連携しながら、課題解決と品質の維持向上に努めています。

おいしさを守る



容器の肉厚を精密に測り、品質を守るために必要な厚みがあるか、部位ごとの厚みのばらつきは問題ないかなどを評価します。

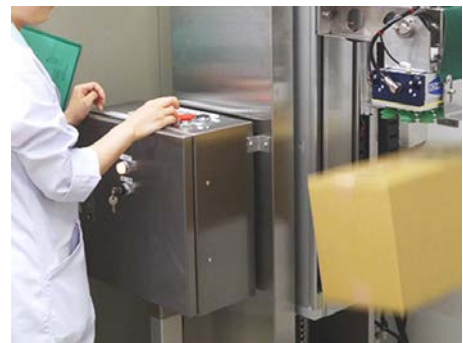


赤い浸透液を使って微細なシール不良がないかなど、「容器の密封性が保たれているか」を評価します。

商品の中身を守る



上から圧力を加え、どの程度の荷重に耐えられるかなどを評価します。



流通での荷扱いや店頭での陳列を想定した高さから商品を落下させ、変形や破損がないかなどを評価します。



マヨネーズのアルミシールの開封しやすさを評価します。



ドレッシングのプルリングを引っ張り、同様に、開封しやすさを評価します。

マヨネーズの酸化防止

酸素はマヨネーズの植物油を酸化させ、風味を劣化させてしまいます。キューピー マヨネーズでは酸化を防ぐために、容器包装にもさまざまな工夫をしています。



口部はアルミシールで酸素を遮断しています(1988年から)。



ポリエチレン層の間に酸素を通しにくい層を挟み込み、酸素を遮断しています(1972年から)。さらにキューピーハーフでは酸素吸収層も挟み込んでいます(2005年から)。

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 -

品質への想い >

原料の品質 >

製造工程の品質 >

容器包装の品質 >

食の安全性評価 >

お客様に安心していただくために >

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >


社会・環境活動の歴史 >


キューピーグループ
オフィシャルブログ >


グループ各社の
サステナビリティ活動 >

食の安全性評価

食の安全評価への取り組み 

理化学的評価 

微生物学的評価 

放射性物質検査 

食の安全評価への取り組み

キューピーグループには、科学的データに基づいて食の安全を支える「食品安全科学センター」という部門があります。

お客様に安全・安心な商品をお届けするために、各工場の品質保証部門と連携し、日々商品や原料について理化学分析・微生物検査などを行っています。また、食の安全に関する情報を集め、審議、評価を行って、リスク低減にも努めています。

理化学的評価

化学的有害物質の分析

原料や商品の安全性を確認するために、残留農薬や動物用医薬などの定期検査を行っています。使用する機器は、ガスクロマトグラフ質量分析計や液体クロマトグラフ質量分析計などの最新の分析機器です。



1.成分の抽出・調製



2.分析機器による測定



3.分析結果の解析

食物アレルギー検査

ベビーフードなどの商品は、国で定められた方法で定期検査を行い、商品に表示していない特定原材料(アレルゲン)が混入していないことを確認しています。



1.サンプルの分注



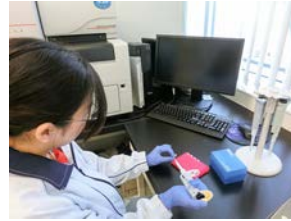
2.サンプルの測定

微生物学的評価

マヨネーズは保存料などは使わず、食塩と酢の力で日持ちさせています。また、加熱殺菌して日持ちさせている商品もあります。原料にはどのような微生物がいるかを評価し、どのような配合にすれば安全か、どのくらいの温度と時間で加熱殺菌すれば良いか、などを調べます。常に最新の情報を確認しながら新規技術開発にも取り組み、より迅速な検査ができるようにしています。



1.一般的な微生物検査



2.遺伝子検査



3.それぞれに特有なたんぱく質検出による微生物同定*

※ 微生物の種類を特定すること。

放射性物質検査

私たちの商品には、原料の産地を確認するなどの徹底した管理体制のもと、安全性が確保された原料を使用しています。さらに、私たちは、ゲルマニウム半導体検出器やNaIスペクトロサーベイメーターを用い、放射性物質を定期的に検査して問題ないことを確認しています。また、行政などの情報も随時確認することで、お客様に安全な商品をお届けしています。



1.サンプルの調製



2.放射性物質測定器にセッティング



3.データ解析

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ
マネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 -
- 品質への想い >
- 原料の品質 >
- 製造工程の品質 >
- 容器包装の品質 >
- 食の安全性評価 >
- お客様に安心していただくために >
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

お客様に安心していただくために

消費者志向自主宣言 ▼ お客様相談室での対応 ▼ 商品の表示への取り組み ▼

消費者志向自主宣言

キューピーでは、お客様をはじめとしたステークホルダーの皆様から最も信頼していただけるよう努めています。

> 消費者志向自主宣言

お客様相談室での対応

お客様からのご意見やご要望はとても貴重です。お客様相談室ではそうしたご意見に迅速に、的確に、そして誠意を持って対応することをめざし、一人ひとりのお客様にご満足いただけるよう心がけています。

さらに、ご意見の内容を把握して社内で共有し、商品やサービスの改善を推進していくこともお客様相談室の役割です。

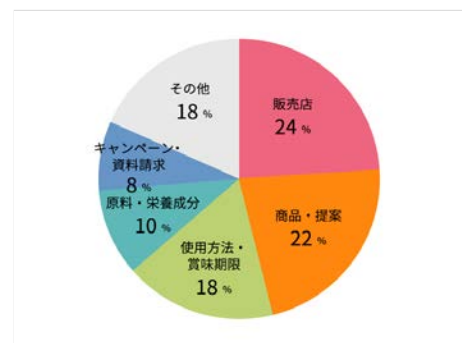
お客様相談室におけるお問合せ・ご指摘数の推移

お問い合わせ・ご指摘数の推移



※ 2019年度のアレレンジプラス、2020年度の pasta ソースカ
ルポナラ 自主回収実施件数は除く

2023年度 お問い合わせ内容



お客様の声の活用

お客様からは、商品の見直しなどの参考になるご指摘、ご要望を日々いただいています。そうしたお申し出を社内で共有し、商品やサービスの改善に繋げています。



1 お客様の声のデータベース化

お客様からいただいたお申し出を、その内容により、「お問い合わせ」と「ご指摘」に区分けし、データベース化します。



2 全件の聴き取り・分析

ご意見を全件聴き取り、その内容を分析し、関連部門に情報を共有します。改善の必要な内容を議案として提出します。



3 お客様の声委員会で審議

定期的に行われる「お客様の声委員会」は、品質保証本部長を委員長として、お客様相談室をはじめ、さまざまな部門の責任者が参加して開催される会議です。ここで改善に必要な案件を審議決裁します。



4 開発部門で検討

改善を行う商品について、さまざまな角度から方向性や設計などを研究開発部門・商品開発部門で検討します。



5 研究部門で試作

専門家や容器メーカー様などの協力のもと、試作・テストを繰り返し、商品づくりを進めます。進捗は都度「お客様の声委員会」に報告し、お客様のご意見と照らし合わせながら内容を確認します。



6 商品化

商品の使いやすさや表示のわかりやすさなど厳しいチェックを経て、お客様の声を生かした新しい商品が完成します。

商品の表示への取り組み

食品の表示は、お客様が商品を選択し、安心してお使いいただく上で、なくてはならない情報です。その中には、法令で義務付けられている義務表示と、任意表示の2種類があります。

義務表示

義務表示については、法令に則った間違いのない表示にするため、食品法令に関する専門部署を設けています。

任意表示

お客様によりわかりやすい情報を提供するために、私たちが独自に表示しています。

表示の見方

商品ごとの各表示の掲載項目についてご紹介します。



➤ マヨネーズの表示の見方



➤ ベビーフードの表示の見方



➤ ドレッシングの表示の見方

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 -

品質への想い >

原料の品質 >

製造工程の品質 >

容器包装の品質 >

食の安全性評価 >

お客様に安心していただくために >

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

グループ各社の
サステナビリティ活動 >

マヨネーズの表示の見方

マヨネーズの裏面表示

裏面の各部を選択すると、拡大画像および各部の説明をご覧いただけます。

※ ご不明な点は、お客様相談室までお問い合わせください。

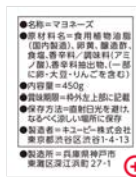
※ パッケージの変更により、お客様のお手元にある商品表示と異なる場合があります。

実際の商品

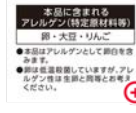


裏面表示

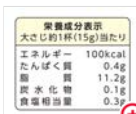
一括表示



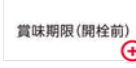
アレルギー
アイコン



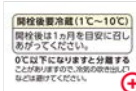
お客様相談室の
フリーダイヤル



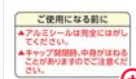
栄養成分表示



賞味期限



ご使用中の
注意事項



ご使用になる
前に



リサイクル表示

JASマーク



公正マーク



ベルマーク



ベビーフードの表示の見方 >

ドレッシングの表示の見方 >

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 -
- 品質への想い >
- 原料の品質 >
- 製造工程の品質 >
- 容器包装の品質 >
- 食の安全性評価 >
- お客様に安心していただくために >
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

ベビーフードの表示の見方

ベビーフードの表示

裏面の各部を選択すると、拡大画像および各部の説明をご覧いただけます。
※ ご不明な点は、お客様相談室までお問い合わせください。
※ パッケージの変更により、お客様のお手元にある商品表示と異なる場合があります。



表面表示

アレルゲン
アイコン



対象月齢

裏面表示

栄養成分表示

栄養成分表示 1袋(130g)当たり/エネルギー
74kcal/たんぱく質1.7g/脂肪0.7g/炭水化物
15.1g/食塩相当量0.4g/鉄1.7mg

乳児用規格
適用食品

●乳児用規格適用食品です。

召しあがり方



ご使用中の注意事項
(特に気を付けて
いただきたいこと)



ご使用中の注意事項



一括表示



賞味期限



WFP

レトルトパウチ
食品

●この商品が1ヶ月以内にて賞味期限しています。

お客様相談室の
フリーダイヤル



リサイクル表示

マヨネーズの表示の見方 >

ドレッシングの表示の見方 >

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 -
- 品質への想い >
- 原料の品質 >
- 製造工程の品質 >
- 容器包装の品質 >
- 食の安全性評価 >
- お客様に安心していただくために >
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

ドレッシングの表示の見方

ドレッシングの裏面表示

裏面の各部を選択すると、拡大画像および各部の説明をご覧いただけます。
 ※ ご不明な点は、お客様相談室までお問い合わせください。
 ※ パッケージの変更により、お客様のお手元にある商品表示と異なる場合があります。

実際の商品



裏面表示



一括表示

●名称=乳化解凍ドレッシング
 ●原材料名=食用植物油(国内産)、しょうゆ、砂糖、醸造酢、たまご(卵黄)、食塩、調味料(香辛料抽出物、調味料(アミノ酸)、増粘剤(キサンタンガム)、甘味料(ステビア)、(一部に卵・小麦・ごま・大豆・りんごを含有))
 ●内容量=150g
 ●賞味期限=種別右下部に記載
 ●製造者=キューピー株式会社
 [東京都港区浜松町1-4-13]
 ●製造所=茨城県鹿嶋市五鹿町小手指1E

栄養成分表示

栄養成分表(大さじ1杯(15ml当たり))
 エネルギー40kcal(167kJ)・たんぱく質0.5g
 炭水化物2.1g・食塩相当量0.0g

その他

●上部と下部に分類が異なる場合がありますが、品質と関係ありません。

アレルギー

アレルギー(特定原材料) 卵・小麦・ごま・大豆・りんご
 ●本品はアレルギーとして表示されています。

お客様相談室の

フリーダイヤル
 0120-14-1122
 ホームページ www.kewpie.co.jp

あけ方
 キャップを回すと
 中栓が開きます

キャップのあけ方
 キャップを回す
 ズマミ X

中栓の開け方

ご使用後の分別方法
 ラベルをはがし、
 プラを分別回収箱が
 付きます。さらに
 プラを引上げて、
 プラを分別回収箱に
 投入します。

中栓の
分別方法

リサイクル表示

リサイクル表示

キャップをしっかり閉めて
 左右によく揺る

ドレッシングの
振り方

賞味期限(開栓前)

賞味期限

開栓後要冷蔵(10℃~10℃)
 開栓後の保存目安は1ヵ月です

ご使用中の
注意事項

マヨネーズの表示の見方 >

ベビーフードの表示の見方 >

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ
マネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

開示方針

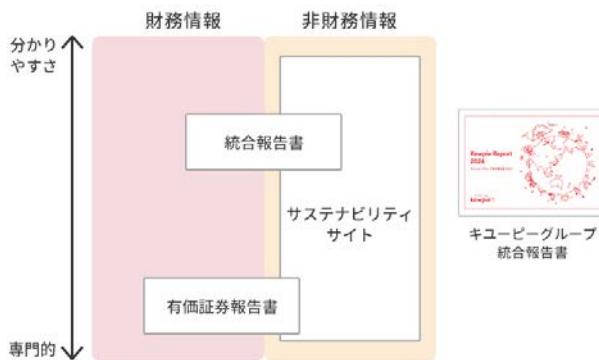
基本的な考え方 **▼** 開示情報 **▼** お問い合わせ **▼** 報告書の変遷 **▼**

基本的な考え方

キューピーグループでは、サステナビリティの考え方と取り組みをウェブサイトに網羅的に報告して、ステークホルダーの皆様にお伝えしています。この報告は、GRIサステナビリティ・レポート・スタンダードを参照して構成しています。

その他、株主・投資家を含むすべてのステークホルダーの皆様に向けて財務・非財務情報を統合し企業価値創造のための中長期戦略と各施策をご報告する「キューピーグループ統合報告書」を作成しています。

サステナビリティ情報のコミュニケーションツール



開示情報

対象組織：キューピー株式会社および連結子会社・持分法適用会社合計83社

対象期間：2023年度（2022年12月1日から2023年11月30日）

※一部の情報には対象期間以外の活動を含みます。

報告サイクル：年次報告として毎年更新

公開：2024年5月

参照ガイドライン：

GRIサステナビリティ・レポート・ガイドライン スタンダード

環境省 環境報告ガイドライン

国連グローバル・コンパクト

ISO26000

SASB スタンダード

お問い合わせ

当社のサステナビリティ情報に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。
キュービー株式会社 経営推進本部 サステナビリティ推進部 環境チーム
東京都渋谷区渋谷1-4-13 Tel:03-3486-3331

報告書の変遷

2022年度～	サステナビリティサイト、統合報告書
2020年度～	サステナビリティサイト、統合報告書、コミュニケーションブック
2019年度	CSRサイト、統合報告書、コミュニケーションブック
2006年度～	社会・環境報告書、ウェブサイト
2005年度	環境・社会報告書
2001年度～	環境報告書

サステナビリティ

- [サステナビリティトップ](#) >
- [トップメッセージ](#) >
- [サステナビリティ
マネジメント](#) +
- [資源の有効活用・循環](#) +
- [気候変動への対応](#) +
- [生物多様性の保全](#) +
- [食と健康への貢献](#) +
- [持続可能な調達](#) +
- [人権の尊重](#) +
- [ガバナンス](#) +
- [安全・安心](#) +
- [開示方針](#) >
- [各種報告書](#) >
- [対照表](#) >
- [ESGデータ集](#) >
- [各種方針](#) >
- [イニシアチブ・加盟団体](#) >
- [社会・環境活動の歴史](#) >
- [キューピーグループ
オフィシャルブログ](#) >
- [グループ各社の
サステナビリティ活動](#) >

各種報告書

[報告書ダウンロード](#)

[報告書バックナンバー](#)

キューピーグループ統合報告書 2024

株主・投資家をはじめとした全てのステークホルダーの皆様に対して、当社グループの中長期的な価値創造について、より一層の理解を深めていただくことを目的に、ビジネスの全体像、企業価値創造に向けた戦略や計画、具体的な取り組み内容などを総合的にご報告します。

[統合報告書](#) >



サステナビリティ

- [サステナビリティトップ](#) >
- [トップメッセージ](#) >
- [サステナビリティマネジメント](#) +
- [資源の有効活用・循環](#) +
- [気候変動への対応](#) +
- [生物多様性の保全](#) +
- [食と健康への貢献](#) +
- [持続可能な調達](#) +
- [人権の尊重](#) +
- [ガバナンス](#) +
- [安全・安心](#) +
- [開示方針](#) >
- [各種報告書](#) >
- [対照表](#) >
- [ESGデータ集](#) >
- [各種方針](#) >
- [イニシアチブ・加盟団体](#) >
- [社会・環境活動の歴史](#) >
- [キユーピーグループ
オフィシャルブログ](#) >
- [グループ各社の
サステナビリティ活動](#) >

各種報告書

[報告書ダウンロード](#)

[報告書バックナンバー](#)

本サイトPDFは以下よりご覧いただけます。




キユーピーサステナビリティサイトPDF	
2023年	 キユーピーサステナビリティサイト2023 (19.9MB)
2022年	 キユーピーサステナビリティサイト2022 (26MB)
2021年	 キユーピーサステナビリティサイト2021 (17.9MB)
2020年	 キユーピーサステナビリティサイト2020 (24.9MB)
2019年	 キユーピーサステナビリティサイト (旧CSRサイト)2019 (7.98MB)

コミュニケーションブックは以下よりご覧いただけます。

コミュニケーションブック	
2021年	 コミュニケーションブック2021 (5.28MB)
2020年	 コミュニケーションブック2020 (4.2MB)
2019年	 コミュニケーションブック2019 (6.9MB)

社会・環境報告書は以下よりご覧いただけます。

社会・環境報告書		
2018年	 ダイジェスト版 (3.80MB)	 フルレポート (7.12MB)
2017年		 フルレポート (7.61MB)
2016年	 ダイジェスト版 (4.84MB)	 フルレポート (7.31MB)
2015年	 ハイライト (2.52MB)	 フルレポート (3.73MB)
2014年	 ハイライト (4.25MB)	 フルレポート (2.88MB)
2013年	 ハイライト (7.60MB)	 フルレポート (4.14MB)
2012年	 ハイライト (1.06MB)	 フルレポート (4.75MB)
2011年	 ハイライト (3.31MB)	 フルレポート (4.20MB)
2010年	 ハイライト (5.82MB)	 フルレポート (8.44MB)

2009年	 ハイライト(7.87MB)	 フルレポート(5.71MB)
2008年	 ハイライト(6.73MB)	 フルレポート(6.14MB)
2007年	 ハイライト(3.83MB)	 フルレポート(3.88MB)
2006年	 冊子版(5.15MB)	 ウェブ版(3.31MB)
2005年	 冊子版(2.30MB)	
2004年	 冊子版(1.19MB)	
2003年	 冊子版(1.19MB)	
2002年	 冊子版(1.19MB)	
2001年	 冊子版(1.19MB)	

サステナビリティ


- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ
マネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >








対照表






GRIスタンダード対照表	SASB対照表
--------------	---------

GRIスタンダード対照表

当ウェブサイトは、「GRIサステナビリティ・レポーティング・スタンダード」を参照して制作しています。



番号	タイトル	記載ページ	ISO26000(中核主題)	
共通スタンダード				
102:一般開示事項				
組織のプロフィール				
102 -1	組織の名称	> 会社概要	6.3.10 6.4.1 -6.4.2 6.4.3 6.4.4 6.4.5 6.8.5	課題8:労働における基本的原則および権利 労働慣行の概要、原則および考慮点 雇用および雇用関係 労働条件および社会的保護 課題3:社会対話 課題3:雇用創出および技能開発
102 -2	活動、ブランド、製品、サービス	> グループの事業		同上
102 -3	本社の所在地	> 会社概要		同上
102 -4	事業所の所在地	> 事業所 > グループ会社		同上
102 -5	所有形態および法人格	> グループの事業		同上
102 -6	参入市場	 有価証券報告書 > 主要な設備の状況 > 会社概要 > ステークホルダーとの対話		同上
102 -7	組織の規模	> 会社概要		同上

102-8	従業員およびその他の労働者に関する情報	> 多様な人材の活躍		同上
102-9	サプライチェーン	> 重点課題と推進体制 > 原料の品質 > 持続可能な調達の推進 > 持続可能な調達のための基本方針		同上
102-10	組織およびそのサプライチェーンに関する重大な変化	当該期間については該当なし		同上
102-11	予防原則または予防的アプローチ	> 事業等のリスク  有価証券報告書 > コーポレート・ガバナンスの状況等  統合報告書 > コーポレート・ガバナンス		同上
102-12	外部イニシアティブ	> 社外からの評価 > イニシアティブ・加盟団体 > 加盟団体		同上
102-13	団体の会員資格	> イニシアティブ・加盟団体 > 加盟団体 > 公益財団法人 キューピーみらいたまご財  団		同上
戦略				
102-14	上級意思決定者の声明	 統合報告書 > トップメッセージ > トップメッセージ	4.7 6.2	国際行動規範の尊重 組織統治
102-15	重要なインパクト、リスク、機会	> 事業等のリスク > 重点課題と推進体制 > リスクマネジメント  統合報告書 > リスクマネジメント		同上
倫理と誠実性				
102-16	価値観、理念、行動基準・規範	> 理念 > キューピーの約束 > 重点課題と推進体制 > 各種方針	4.4 6.6.3	倫理的な行動 汚職防止
102-17	倫理に関する助言および懸念のための制度	> コーポレート・ガバナンス  統合報告書 > コーポレート・ガバナンス		同上
ガバナンス				
102-18	ガバナンス構造	> コーポレート・ガバナンス > 重点課題と推進体制 > 環境マネジメント > 人権尊重への取り組み	6.2	組織統治
102-19	権限移譲	 有価証券報告書 > 企業統治の体制の概要 > 重点課題と推進体制		同上

		<ul style="list-style-type: none"> > 環境マネジメント > 人権尊重への取り組み 		
102-20	経済、環境、社会項目に関する役員レベルの責任	<ul style="list-style-type: none">  有価証券報告書 > 企業統治の体制の概要 > 重点課題と推進体制 > 役員一覧 		同上
102-21	経済、環境、社会項目に関するステークホルダーとの協議	<ul style="list-style-type: none"> > 重点課題と推進体制 > ステークホルダーとの対話  統合報告書 > 経営アドバイザーボード 		同上
102-22	最高ガバナンス機関およびその委員会の構成	<ul style="list-style-type: none"> > コーポレート・ガバナンス 		同上
102-23	最高ガバナンス機関の議長	<ul style="list-style-type: none"> > コーポレート・ガバナンス 		同上
102-24	最高ガバナンス機関の指名と選出	<ul style="list-style-type: none"> > コーポレート・ガバナンス 		同上
102-25	利益相反	<ul style="list-style-type: none"> > コーポレート・ガバナンス 		同上
102-26	目的、価値観、戦略の設定における最高ガバナンス機関の役割	<ul style="list-style-type: none"> > サステナビリティマネジメント 		同上
102-27	最高ガバナンス機関の集合的知見	<ul style="list-style-type: none"> > コーポレート・ガバナンス 		同上
102-28	最高ガバナンス機関のパフォーマンスの評価	<ul style="list-style-type: none"> > コーポレート・ガバナンス 		同上
102-29	経済、環境、社会へのインパクトの特定とマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> > サステナビリティマネジメント > ステークホルダーとの対話  統合報告書 > 経営アドバイザーボード 		同上
102-30	リスクマネジメント・プロセスの有効性	<ul style="list-style-type: none"> > コーポレート・ガバナンス 		同上
102-31	経済、環境、社会項目のレビュー	<ul style="list-style-type: none"> > サステナビリティマネジメント  統合報告書 > 価値創造プロセス  統合報告書 > 価値創造ストーリー 		同上
102-32	サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	<ul style="list-style-type: none"> > 重点課題と推進体制 		同上
102-33	重大な懸念事項の伝達	<ul style="list-style-type: none"> > コーポレート・ガバナンス 		同上
102-34	伝達された重大な懸念事項の性質と総数	<ul style="list-style-type: none"> > コーポレート・ガバナンス 		同上

102-35	報酬方針	<ul style="list-style-type: none"> > コーポレート・ガバナンス PDF 第111回定時株主総会 議案・事業報告等 > 取締役および監査役の報酬等の額 PDF 統合報告書 > 役員報酬の考え方、算定方法 > ESGデータ集 		同上
102-36	報酬の決定プロセス	<ul style="list-style-type: none"> > コーポレート・ガバナンス PDF 統合報告書 > 役員報酬の考え方、算定方法 		同上
102-37	報酬に関するステークホルダーの関与	<ul style="list-style-type: none"> PDF 第111回定時株主総会 議案・事業報告等 > 取締役および監査役の報酬等の額 PDF 統合報告書 > 役員報酬の考え方、算定方法 		同上
102-38	年間報酬総額の比率			同上
102-39	年間報酬総額比率の増加率			同上
ステークホルダー・エンゲージメント				
102-40	ステークホルダー・グループのリスト	<ul style="list-style-type: none"> > ステークホルダーとの対話 > キュービーみらいたまご財団 > 事業内容 PDF 	5.3	ステークホルダーの特定およびステークホルダーエンゲージメント
102-41	団体交渉協定	<ul style="list-style-type: none"> > 多様な人材の活躍 	6.3.10 6.4.1 -6.4.2 6.4.3 6.4.4 6.4.5 6.8.5	課題8:労働における基本的原則および権利 労働慣行の概要、原則および考慮点 雇用および雇用関係 労働条件および社会的保護 課題3:社会対話 課題3:雇用創出および技能開発
102-42	ステークホルダーの特定および選定	<ul style="list-style-type: none"> > ステークホルダーとの対話 > キュービーみらいたまご財団 > 助成募集 PDF について 	5.3	ステークホルダーの特定およびステークホルダーエンゲージメント



102-43	ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ方法	<ul style="list-style-type: none"> > ステークホルダーとの対話 > キューピーみらいたまご財団 > 助成募集  について > 消費者志向自主宣言 	5.3 4.6 6.7.6	ステークホルダーの特定およびステークホルダーエンゲージメント法の支配の尊重 課題4:消費者に対するサービス、支援、並びに苦情および紛争の解決
102-44	提起された重要な項目および懸念	<ul style="list-style-type: none"> > ステークホルダーとの対話 	5.3	ステークホルダーの特定およびステークホルダーエンゲージメント
報告実務				
102-45	連結財務諸表の対象になっている事業体	 有価証券報告書 > 関係会社の状況	5.2	社会的責任の認識
102-46	報告書の内容および項目の該当範囲の確定	> 重点課題と推進体制		同上
102-47	マテリアルな項目のリスト	> 重点課題と推進体制		同上
102-48	情報の再記述	当該期間については該当なし		同上
102-49	報告における変更	当該期間については該当なし		同上
102-50	報告期間	> 開示方針		
102-51	前回発行した報告書の日付	2024年5月30日		
102-52	報告サイクル	年1回発行		
102-53	報告書に関する質問の窓口	> 開示方針		
102-54	GRIスタンダードに準拠した報告であることの主張	当ウェブサイトはGRIスタンダードを参照して制作しています。		
102-55	内容索引	> 対照表		
102-56	外部保証			
103:マネジメント手法				
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	<ul style="list-style-type: none"> > 重点課題と推進体制 > 事業等のリスク 	5.2	社会的責任の認識

103 -2	マネジメント手法とその要素	<ul style="list-style-type: none"> > 重点課題と推進体制 > 食と健康への貢献 > 環境マネジメント > 人権の尊重 		
103 -3	マネジメント手法の評価方法	<ul style="list-style-type: none">  統合報告書 > 価値創造プロセス  統合報告書 > 価値創造ストーリー 		

項目別のスタンダード

経済

201:経済パフォーマンス

201 -1	創出、分配した直接的経済価値	 有価証券報告書 > 企業情報	6.8.1 -6.8.2 6.8.3 6.8.7 6.8.9	コミュニティへの参画およびコミュニティの発展、原則および考慮点 課題1:コミュニティへの参画 課題5:富および所得の創出 課題7:社会的投資
201 -2	気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	<ul style="list-style-type: none"> > 事業等のリスク > リスクマネジメント 	6.5.5	課題3:気候変動の緩和および気候変動への適応
201 -3	確定給付型年金制度の負担、その他の退職金制度	 有価証券報告書 > 退職給付関係	6.8.7	課題5:富および所得の創出
201 -4	政府から受けた資金援助			

202:地域経済での存在感

202 -1	地域最低賃金に対する標準新人給与の比率(男女別)	当該期間については該当なし	6.3.7 6.3.10 6.4.3 6.4.4 6.8.1 -6.8.2	課題5:差別および社会的弱者 課題8:労働における基本的原則および権利 課題1:雇用および雇用関係 課題2:労働条件および社会的保護 コミュニティへの参画およびコミュニティの発展、原則および考慮点
202 -2	地域コミュニティから採用した上級管理職の割合	> 多様な人材の活躍	6.4.3 6.8.1 -6.8.2 6.8.5 6.8.7	課題1:雇用および雇用関係 コミュニティへの参画およびコミュニティの発展、原則および考慮点 課題3:雇用創出

				および技能開発 課題5:富および 所得の創出
203:間接的な経済的インパクト				
203 -1	インフラ投資および支援 サービス	> 食と健康への貢献 > キュービーみらいた まご財団 > 事業内容 	6.5.9 6.8.1 -6.8.2 6.8.7 6.8.9	課題7:経済的、 社会的および 文化的権利 コミュニティ への参画およ びコミュニテ ィの発展、原則 および考慮点 課題5:富および 所得の創出 課題7:社会的投 資
203 -2	著しい間接的な経済的イ ンパクト	当該期間については該当 なし	6.3.9 6.6.6 6.6.7 6.7.8 6.8.1 -6.8.2 6.8.5 6.8.7 6.8.9	課題7:経済的、 社会的および 文化的権利 課題4:バリュー チェーンにお ける社会的責 任の推進 課題5:財産権の 尊重 課題6:必要不可 欠なサービス へのアクセス コミュニティ への参画およ びコミュニテ ィの発展、原則 および考慮点 課題3:雇用創出 および技能開 発 課題5:富および 所得の創出 課題7:社会的投 資
204:調達慣行				
204 -1	地元サプライヤーへの支 出の割合		6.4.3 6.6.6 6.8.1 -6.8.2 6.8.7	課題1:雇用およ び雇用関係 課題4:バリュー チェーンにお ける社会的責 任の推進 コミュニティ への参画およ びコミュニテ ィの発展、原則 および考慮点 課題5:富および 所得の創出
205:腐敗防止				

205 -1	腐敗に関するリスク評価を行っている事業所	 内部統制システム構築の基本方針  有価証券報告書 > 内部統制システムの運用状況	6.6.1 -6.6.2 6.6.3	公正な事業慣行の概要、原則 および考慮点 課題1:汚職防止
205 -2	腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	> 倫理規範 > 反贈賄基本方針制定について	6.6.1 -6.6.2 6.6.3 6.6.6	公正な事業慣行の概要、原則 および考慮点 課題1:汚職防止 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進
205 -3	確定した腐敗事例と実施した措置	当該期間については該当なし	6.6.1 -6.6.2 6.6.3	公正な事業慣行の概要、原則 および考慮点 課題1:汚職防止
206:反競争的行為				
206 -1	反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により受けた法的措置	当該期間については該当なし	6.6.1 -6.6.2 6.6.5 6.6.7	公正な事業慣行の概要、原則 および考慮点 課題3:公正な競争 課題5:財産権の尊重
環境				
301:原材料				
301 -1	使用原材料の重量または体積	> 環境マネジメント	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
301 -2	使用したリサイクル材料	> プラスチックの削減・再利用	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
301 -3	再生利用された製品と梱包材	> プラスチックの削減・再利用	6.5.3 6.5.4 6.7.5	課題1:汚染の予防 課題2:持続可能な資源の利用 課題3:持続可能な消費
302:エネルギー				
302 -1	組織内のエネルギー消費量	> 環境マネジメント > 気候変動への対応	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
302 -2	組織外のエネルギー消費量	> 気候変動への対応	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
302 -3	エネルギー原単位	> 気候変動への対応	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
302 -4	エネルギー消費量の削減	> 気候変動への対応	6.5.4 6.5.5	課題2:持続可能な資源の利用 課題3:気候変動の緩和および気候変動への適応

302 -5	製品およびサービスのエネルギー必要量の削減	<ul style="list-style-type: none"> > 環境マネジメント > 気候変動への対応 > ESGデータ集 	6.5.4 6.5.5	課題2:持続可能な資源の利用 課題3:気候変動の緩和および気候変動への適応
303:水				
303 -1	水源別の取水量	<ul style="list-style-type: none"> > 環境マネジメント > 水資源の持続的利用 > ESGデータ集 	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
303 -2	取水によって著しい影響を受ける水源	<ul style="list-style-type: none"> > 水資源の持続的利用 	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
303 -3	リサイクル・リユースした水	<ul style="list-style-type: none"> > 水資源の持続的利用 	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
304:生物多様性				
304 -1	保護地域および保護地域ではないが生物多様性価値の高い地域、もしくはそれらの隣接地域に所有、賃借、管理している事業サイト	<ul style="list-style-type: none"> > 生物多様性の保全 	6.5.6	課題4:自然環境の保護および回復
304 -2	活動、製品、サービスが生物多様性に与える著しいインパクト	当該期間については該当なし	6.5.6	課題4:自然環境の保護および回復
304 -3	生息地の保護・復元	<ul style="list-style-type: none"> > 生物多様性の保全 	6.5.6	課題4:自然環境の保護および回復
304 -4	事業の影響を受ける地域に生息するIUCNレッドリストならびに国内保全種リスト対象の生物種	当該期間については該当なし	6.5.6	課題4:自然環境の保護および回復
305:大気への排出				
305 -1	直接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ1)	<ul style="list-style-type: none"> > 気候変動への対応 > ESGデータ集 	6.5.5	課題3:気候変動の緩和および気候変動への適応
305 -2	間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ2)	<ul style="list-style-type: none"> > 気候変動への対応 > ESGデータ集 	6.5.5	課題3:気候変動の緩和および気候変動への適応
305 -3	その他の間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ3)	<ul style="list-style-type: none"> > 気候変動への対応 > ESGデータ集 	6.5.5	課題3:気候変動の緩和および気候変動への適応
305 -4	温室効果ガス(GHG)排出原単位	<ul style="list-style-type: none"> > 気候変動への対応 	6.5.5	課題3:気候変動の緩和および気候変動への適応

305 -5	温室効果ガス(GHG)排出量の削減	> 気候変動への対応	6.5.5	課題3:気候変動の緩和および気候変動への適応
305 -6	オゾン層破壊物質(ODS)の排出量		6.5.3 6.5.5	課題1:汚染の予防 課題3:気候変動の緩和および気候変動への適応
305 -7	窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)、およびその他の重大な大気排出物	> 環境マネジメント > ESGデータ集	6.5.3	課題1:汚染の予防
306:排水および廃棄物				
306 -1	排水の水質および排出先	> 環境マネジメント	6.5.3 6.5.4	課題1:汚染の予防 課題2:持続可能な資源の利用
306 -2	種類別および処分方法別の廃棄物	> 食品ロスの削減・有効活用	6.5.3	課題1:汚染の予防
306 -3	重大な漏出	当該期間については該当なし	6.5.3	課題1:汚染の予防
306 -4	有害廃棄物の輸送	当該期間については該当なし	6.5.3	課題1:汚染の予防
306 -5	排水や表面流水によって影響を受ける水域	> 環境マネジメント > 水資源の持続的利用	6.5.3 6.5.4 6.5.6	課題1:汚染の予防 課題2:持続可能な資源の利用 課題4:自然環境の保護および回復
307:環境コンプライアンス				
307 -1	環境法規制の違反	当該期間については該当なし > 環境マネジメント > ESGデータ集	4.6	法の支配の尊重
308:サプライヤーの環境面のアセスメント				
308 -1	環境基準により選定した新規サプライヤー	> 環境マネジメント > 持続可能な調達への推進	6.3.5 6.6.6	課題3:加担の回避 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進
308 -2	サプライチェーンにおけるマイナスの環境インパクトと実施した措置	> 重点課題と推進体制 > 環境マネジメント > 持続可能な調達への推進 > 食品ロスの削減・有効活用 > プラスチックの削減・再利用 > 水資源の持続的利用	6.3.5 6.6.6	課題3:加担の回避 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進

		> 事業等のリスク		
社会				
401:雇用				
401-1	従業員の新規雇用と離職	> 多様な人材の活躍 > ESGデータ集	6.4.3	課題1:雇用および雇用関係
401-2	正社員には支給され、非正規社員には支給されない手当	> 多様な人材の活躍 > 健康経営・労働安全衛生	6.4.4 6.8.7	課題2:労働条件および社会的保護 課題5:富および所得の創出
401-3	育児休暇	> 多様な人材の活躍 > ESGデータ集	6.4.4	課題2:労働条件および社会的保護
402:労使関係				
402-1	事業上の変更に関する最低通知期間		6.4.3 6.4.5	課題1:雇用および雇用関係 課題3:社会対話
403:労働安全衛生				
403-1	正式な労使合同安全衛生委員会への労働者代表の参加	> 健康経営・労働安全衛生	6.4.6	課題4:労働における安全衛生
403-2	傷害の種類、業務上傷害・業務上疾病・休業日数・欠勤および業務上の死亡者数	> 健康経営・労働安全衛生	6.4.6 6.8.8	課題4:労働における安全衛生 課題6:健康
403-3	疾病の発症率あるいはリスクが高い業務に従事している労働者	> 健康経営・労働安全衛生	6.4.6 6.8.8	課題4:労働における安全衛生 課題6:健康
403-4	労働組合との正式協定に含まれている安全衛生条項	> 健康経営・労働安全衛生	6.4.6	課題4:労働における安全衛生
404:研修と教育				
404-1	従業員一人あたりの年間平均研修時間	> 多様な人材の活躍 > ESGデータ集	6.4.7	課題5:職場における人材育成および訓練
404-2	従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	> 多様な人材の活躍	6.4.7 6.8.5	課題5:職場における人材育成および訓練 課題3:雇用創出および技能開発
404-3	業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の割合	> 多様な人材の活躍	6.4.7	課題5:職場における人材育成および訓練
405:ダイバーシティと機会均等				

405 -1	ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	> 多様な人材の活躍 > 人権尊重への取り組み	6.2.3 6.3.7 6.3.10 6.4.3	意思決定のプロセスおよび構造 課題5:差別および社会的弱者 課題8:労働における基本的原則および権利 課題1:雇用および雇用関係
405 -2	基本給と報酬総額の男女比	> ESGデータ集	6.3.7 6.3.10 6.4.3 6.4.4	課題5:差別および社会的弱者 課題8:労働における基本的原則および権利 課題1:雇用および雇用関係 課題2:労働条件および社会的保護
406:非差別				
406 -1	差別事例と実施した救済措置	> 倫理規範 > 人権尊重への取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.6 6.3.7 6.3.10 6.4.3	人権の概要 原則および考慮点 課題4:苦情解決 課題5:差別および社会的弱者 課題8:労働における基本的原則および権利 課題1:雇用および雇用関係
407:結社の自由と団体交渉				
407 -1	結社の自由や団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性のある事業所およびサプライヤー	> 人権尊重への取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5 6.3.8 6.3.10 6.4.5 6.6.6	人権の概要 原則および考慮点 課題1:デューデリジェンス 課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回避 課題6:市民および政治的権利 課題8:労働における基本的原則および権利 課題3:社会対話 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進
408:児童労働				
408 -1	児童労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	> 倫理規範 > 持続可能な調達の推進 > 人権尊重への取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4	人権の概要 原則および考慮点 課題1:デューデ

			6.3.5 6.3.7 6.3.10 6.6.6 6.8.4	イリジェンス 課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回避 課題5:差別および社会的弱者 課題8:労働における基本的原則および権利 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進 課題2:教育および文化
409:強制労働				
409 -1	強制労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	> 倫理規範 > 持続可能な調達の推進 > 人権尊重への取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5 6.3.10 6.6.6	人権の概要 原則および考慮点 課題1:デューデ イリジェンス 課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回避 課題8:労働における基本的原則および権利 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進
410:保安慣行				
410 -1	人権方針や手順について研修を受けた保安要員	> 倫理規範 > 人権尊重への取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.4 6.3.5 6.6.6	人権の概要 原則および考慮点 課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回避 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進
411:先住民族の権利				
411 -1	先住民族の権利を侵害した事例	当該期間については該当なし	6.3.1 6.3.2 6.3.4 6.3.6 6.3.7 6.3.8 6.6.7 6.8.3	人権の概要 原則および考慮点 課題2:人権に関する危機的状況 課題4:苦情解決 課題5:差別および社会的弱者 課題6:市民のおよび政治的権利

				課題5:財産権の尊重 課題1:コミュニティへの参画
412:人権アセスメント				
412-1	人権レビューやインパクト評価の対象とした事業所	> 倫理規範 > 人権尊重への取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5	人権の概要 原則および考慮点 課題1:デュージェン 課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回避
412-2	人権方針や手順に関する従業員研修	> 倫理規範 > 人権尊重への取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.5	人権の概要 原則および考慮点 課題3:加担の回避
412-3	人権条項を含むもしくは人権スクリーニングを受けた重要な投資協定および契約		6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.5 6.6.6	人権の概要 原則および考慮点 課題1:デュージェン 課題3:加担の回避 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進
413:地域コミュニティ				
413-1	地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	> 食と健康への貢献 > 社会貢献活動	6.3.9 6.5.1 -6.5.2 6.5.3 6.8	課題7:経済的、社会的および文化的権利 環境の概要、原則および考慮点 課題1:汚染の予防 コミュニティ参画および開発
413-2	地域コミュニティに著しいマイナスのインパクト(顕在的、潜在的)を及ぼす事業所		6.3.9 6.5.3 6.8	課題7:経済的、社会的および文化的権利 課題1:汚染の予防 コミュニティ参画および開発
414:サプライヤーの社会面のアセスメント				
414-1	社会的基準により選定した新規サプライヤー	> 持続可能な調達の推進 > 持続可能な調達のための基本方針	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5	人権の概要 原則および考慮点 課題1:デュージェン

			6.4.3 6.6.1 -6.6.2 6.6.6 6.8.1 -6.8.2	課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回避 課題1:雇用および雇用関係 公正な事業慣行の概要、原則 および考慮点 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進 コミュニティへの参画およびコミュニティの発展、原則 および考慮点
414 -2	サプライチェーンにおけるマイナスの社会的インパクトと実施した措置	<ul style="list-style-type: none"> > 重点課題と推進体制 > 持続可能な調達の推進 > 人権尊重への取り組み > 事業等のリスク 	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5 6.4.3 6.6.1 -6.6.2 6.6.6 6.8.1 -6.8.2	人権の概要 原則および考慮点 課題1:デューデュー イリジェンス 課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回避 課題1:雇用および雇用関係 公正な事業慣行の概要、原則 および考慮点 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進 コミュニティへの参画およびコミュニティの発展、原則 および考慮点
415:公共政策				
415 -1	政治献金		6.6.1 -6.6.2 6.6.4	公正な事業慣行の概要、原則 および考慮点 課題2:責任ある政治的関与
416:顧客の安全衛生				
416 -1	製品およびサービスのカテゴリーに対する安全衛生インパクトの評価	<ul style="list-style-type: none"> > 安全・安心 > 品質への想い 	6.7.1 -6.7.2 6.7.4 6.7.5 6.8.8	消費者課題の概要、原則および考慮点 課題2:消費者の安全衛生の保護 課題3:持続可能な消費 課題6:健康

416 -2	製品およびサービスの安全衛生インパクトに関する違反事例	当該期間については該当なし > お客様に安心していただくために > 消費者志向自主宣言	4.6 6.7.1 -6.7.2 6.7.4 6.7.5 6.8.8	法の支配の尊重 消費者課題の概要、原則および考慮点 課題2:消費者の安全衛生の保護 課題3:持続可能な消費 課題6:健康
417:マーケティングとラベリング				
417 -1	製品およびサービスの情報とラベリングに関する要求事項	> 商品の表示への取り組み > ユニバーサルデザインへの取り組み > 消費者志向自主宣言	6.7.1 -6.7.2 6.7.3 6.7.4 6.7.5 6.7.9	消費者課題の概要、原則および考慮点 公正なマーケティング、事業に即した偏りのない情報、および公正な契約慣行 課題2:消費者の安全衛生の保護 課題3:持続可能な消費 課題7:教育および意識向上
417 -2	製品およびサービスの情報とラベリングに関する違反事例	当該期間については該当なし > お客様に安心していただくために > 消費者志向自主宣言	4.6 6.7.1 -6.7.2 6.7.3 6.7.4 6.7.5 6.7.9	法の支配の尊重 消費者課題の概要、原則および考慮点 課題1:公正なマーケティング、事業に即した偏りのない情報、および公正な契約慣行 課題2:消費者の安全衛生の保護 課題3:持続可能な消費 課題7:教育および意識向上
417 -3	マーケティング・コミュニケーションに関する違反事例	当該期間については該当なし > お客様に安心していただくために > 消費者志向自主宣言	4.6 6.7.1 -6.7.2 6.7.3	法の支配の尊重 消費者課題の概要、原則および考慮点 課題1:公正なマーケティング、事業に即した偏りのない情報、および公正な契約慣行
418:顧客プライバシー				
418 -1	顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失	当該期間については該当なし	6.7.1 -6.7.2	消費者課題の概要、原則および考慮点

	に関して具体化した不服申立	<ul style="list-style-type: none"> > プライバシーポリシー > 個人情報のお取り扱いについて 	6.7.7	び考慮点 課題5:消費者データ保護およびプライバシー
419:社会経済面のコンプライアンス				
419-1	社会経済分野の法規制違反	当該期間については該当なし <ul style="list-style-type: none"> > お客様に安心していただくために 	4.6 6.7.1 -6.7.2 6.7.6	法の支配の尊重 消費者課題の概要、原則および考慮点 課題4:消費者に対するサービス、支援、並びに苦情および紛争の解決

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ
マネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >


対照表

GRIスタンダード対照表	SASB対照表
--------------	---------

SASB対照表

Sustainability Accounting Standards Board (SASB)は、投資家のニーズを満たすために重要な持続可能性情報の開示を促進する、独立した基準設定組織です。

下表は、SASBの持続可能な産業分類システム(SICS)で定義されている加工食品業界の基準を参照し、該当箇所を示すものです。

タイトル	SASBコード	指標	記載ページ	付記
エネルギー管理	FB-PF-130a.1	(1)エネルギーの総使用量(2)系統電力からの電気の割合(3)再生可能エネルギー割合	<ul style="list-style-type: none"> > 環境マネジメント > 気候変動への対応 > ESGデータ集 	
水管理	FB-PF-140a.1	(1)総取水量(2)水の総使用量、ベースライン水ストレスが高いまたは極端に高い地域におけるそれぞれの割合	<ul style="list-style-type: none"> > 環境マネジメント > 水資源の持続的利用 > ESGデータ集 	
	FB-PF-140a.2	水量および/または水質の許可、標準、規制に関連するコンプライアンス違反の件数	2023年度はコンプライアンス違反はありません	
	FB-PF-140a.3	水管理リスクの説明とリスクを軽減する戦略と実践の議論	<ul style="list-style-type: none"> > 水資源の持続的利用  2023年度TCFD報告 	
食品安全	FB-PF-250a.1	国際食品安全イニシアチブ(GFSI)監査における(1)非適合率、および(2)(a)メジャーおよび(b)マイナーな不適合に関連する是正措置率	> 品質への想い	
	FB-PF-250a.2	国際食品安全イニシアチブ(GFSI)に承認された食品安全認証プログラムによって認証されたティア1サブ	開示していません	

		ライヤー施設からの調達原料割合		
	FB-PF-250a.3	(1)受け取った食品安全違反の通知総数、(2)是正した割合	2023年度において食品安全違反通知はありません	
	FB-PF-250a.4	(1)発行されたリコール数および(2)リコールされた食品の合計量	> リスクマネジメント	
健康・栄養	FB-PF-260a.1	健康・栄養の属性を促進するためにラベルづけおよび/または販売された製品からの収益	> 食と健康への貢献	
	FB-PF-260a.2	栄養・健康に対する消費者の懸念に関連する製品と原料を特定、管理するプロセスの議論	> 食と健康への貢献 > 安全・安心	
製品ラベリングとマーケティング	FB-PF-270a.1	(1)子どもに対して行われた広告宣伝の割合、および(2)食事ガイドラインに適合した製品を宣伝する、子どもに対して行われた広告宣伝の割合	開示していません	
	FB-PF-270a.2	(1)遺伝子組み換え生物(GMO)を含む(2)非GMO、とラベルが付いた製品の収益	開示していません	
	FB-PF-270a.3	業界または規制によるラベルおよび/またはマーケティングコードの違反事例数	2023年度において違反事例はありません	
	FB-PF-270a.4	表示および/またはマーケティング慣行に関連する法的手続きの結果としての金銭的損失の総額	開示していません	
パッケージングライフサイクル管理	FB-PF-410a.1	(1)パッケージングの総重量(2)リサイクルおよび/または再生可能な材料から作られた割合、および(3)リサイクル可能、再利用可能、	> プラスチックの削減・再利用	

		および/または堆肥化可能な割合		
	FB-PF-410a.2	ライフサイクルを通じてパッケージングの環境への影響を減らす戦略の議論	<p>> 環境マネジメント</p> <p>> プラスチックの削減・再利用</p>	
原料サプライチェーンの環境および社会的影響	FB-PF-430a.1	第三者機関の環境基準および/または社会基準に認証されている、調達された食品成分の割合、および基準別の割合	> 持続可能な調達の推進	
	FB-PF-430a.2	サプライヤーの社会的および環境的責任の監査における(1)不適合率および(2)(a)メジャーおよび(b)マイナーな不適合に関連する是正措置率	開示していません	
原料調達	FB-PF-440a.1	ベースライン水ストレスが高いまたは極端に高い地域から調達した食品原料の割合	 2023年度TCFD報告	
	FB-PF-440a.2	優先的な食品原料のリストと、環境および社会的配慮による調達リスクの議論	<p>> 持続可能な調達の推進</p>  2023年度TCFD報告	
活動指数	FB-PF-000.A	販売された製品の重量	開示していません	
	FB-PF-000.B	生産施設の数	<p>> 事業所・グループ会社</p>  統合報告書 > 会社情報	

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >



キューピーグループ
オフィシャルブログ >

グループ各社の
サステナビリティ活動 >

ESGデータ集

事業活動におけるESG(環境・社会・ガバナンス)データ集は以下よりご覧いただけます。

 [キューピーESGデータ集 2024\(702KB\)](#)

 がついている資料をご覧いただくには [Adobe Reader](#)  が必要です。

キューピーグループ ESGデータ 一覧

環境

更新日：2024年5月30日

環境関連投資							
	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	備考
環境保全コスト（投資）	百万円	233	177	172	404	85	キューピー単体
環境保全コスト（費用）	百万円	632	622	611	682	636	キューピー単体
環境保全対策に伴う経済効果	百万円	1,199*	589*	811*	821*	1,163*	キューピーグループ 国内生産工場
環境マネジメント							
	単位	2023年度					備考
第三者認証 (ISO14001)	取得事業所	-	24事業所/71事業所				キューピーグループ 国内生産工場
	取得率	%	33.8				キューピーグループ 国内生産工場
環境関連法規制違反件数	件	0	0	0	0	0	キューピーグループ 国内生産工場
環境法令違反による罰金件数	件	0	0	0	0	0	キューピーグループ 国内生産工場
重大環境事故件数	件	0	0	0	0	0	キューピーグループ 国内生産工場
資源の有効活用・循環							
	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	備考
食品残さ削減率（2015年度比）	%	18.2	30.9	39.0	46.6	59.6	キューピーグループ 国内生産工場
野菜未利用部有効活用率 主要野菜：キャベツなど（当年）	%	21.2	40.0	62.1	77.5	82.7	キューピーグループ 国内生産工場
商品廃棄量削減率（2015年度比）	%	29.9	11.6	61.3	74.8	75.5	キューピー・アヲハタ営業部門
プラスチック排出量削減率（2018年度比）	%	-	-	10.8	13.8	20.9	国内キューピーグループ ※2023年度に基準年実績を見直し
廃棄物排出量	総量	千トン	50.8	45.9	41.6	39.8	キューピーグループ 国内生産工場
	原単位	kg/ 生産数量トン	62.8	59.4	54.0	52.4	
廃棄物等総排出量	千トン	72.4	69.2	66.4	65.1	57.2	キューピーグループ 国内生産工場
廃棄物最終処分量（単純埋立）	千トン	2.4	2.0	1.7	1.6	1.6	キューピーグループ 国内生産工場
再資源化率	%	97.0	97.0	97.4	97.5	97.2	キューピーグループ 国内生産工場

環境データは、特に記載のない限りキューピー株式会社および連結子会社を対象とし、実績はキューピー年度（12月から翌年11月）を対象とする。

「*」マークは、算定定義見直しなどによりデータの一部を修正しています。

キユーピーグループ ESGデータ 一覧

環境

更新日：2024年5月30日

水資源の持続的利用		単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	備考	
エリア別 取水量	グローバル	千m ³	826	1,042	661	675	694	10月-9月の年間実績	
	グローバル原単位	m ³ / 生産数量トン	4.4	5.4	3.7	3.8	4.0	10月-9月の年間実績	
	日本	千m ³	8,509	8,301	8,091	8,075	7,367	12月-11月の年間実績	
	日本原単位	m ³ / 生産数量トン	10.5	10.8	10.5	10.6	10.6	12月-11月の年間実績	
	中国	千m ³	205	225	237	190	185	10月-9月の年間実績	
	アジア(中国以外)	千m ³	386	422	383	458	464	10月-9月の年間実績	
	北米・欧州	千m ³	235	395	41	42	44	10月-9月の年間実績	
取水源別 取水量	淡水合計	千m ³	9,335	9,343	8,542	8,765	8,061		
		%	100	100	100	100	100		
	上水	千m ³	1,501	1,369	1,258	1,288	1,110		
		%	16.1	14.7	14.7	14.7	13.8		
	工業用水	千m ³	848	1,161	921	912	822		
		%	9.1	12.4	10.8	10.4	10.0		
	河川	千m ³	328	354	95	366	366		
		%	3.5	3.8	1.1	4.2	4.6		
	地下水	千m ³	6,659	6,459	6,268	6,199	5,763		
		%	71.3	69.1	73.4	70.7	71.7		
	雨水	千m ³	0	0	0	0	0		
		%	0	0	0	0	0		
	水使用量(原単位)削減率 (2020年度比)		%	-	-	2.5	1.7	2.1	キユーピーグループ 国内生産工場
	持続可能な調達		単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	備考
持続可能なパーム油 の調達	調達率	%	37	60	95	100	100	RSPOブックアンドクレーン方式への切り替えを完了し、あわせてマスマランスの切り替えに取り組み中	
生物多様性									
生物多様性保護政策の有無		有：キユーピーグループ 生物多様性方針(2022年12月策定)							
所有、賃貸、管理している土地で、生物多様性の保護地域内部、もしくは保護地域に隣接している場所の有無		無							

環境データは、特に記載のない限りキユーピー株式会社および連結子会社を対象とし、実績はキユーピー年度（12月から翌年11月）を対象とする。

キューピーグループ ESGデータ 一覧

環境

更新日：2024年5月30日

CO ₂ 排出削減			単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	備考
CO ₂ 排出量	国内	Scope 1	千トン-CO ₂	68.4	65.5	64.5	63.6	7月開示予定	キューピーグループ 生産工場・オフィス
		Scope 2	千トン-CO ₂	106.5	100.3	97.5	93.6	7月開示予定	
		Scope 1+2	千トン-CO ₂	174.9	165.8	162.0	157.2	7月開示予定	
		原単位	Kg-CO ₂ ／ 生産数量トン	211.5	210.2	205.2	206.7	7月開示予定	
	海外	Scope 1	千トン-CO ₂	12.9	14.1	1.3	5.0	7月開示予定	キューピーグループ 生産工場
		Scope 2	千トン-CO ₂	31.7	32.3	29.6	30.8	7月開示予定	
		Scope 1+2	千トン-CO ₂	44.6	46.4	30.9	35.8	7月開示予定	
		原単位	Kg-CO ₂ ／ 生産数量トン	236.3	241.5	167.6	201.9	7月開示予定	
	国内	Scope 3 合計	千トン-CO ₂	392.7	314.3	293.9	1,229.1	7月開示予定	2019年～2021年：キ ューピー単体 2022年：国内主要グ ループ会社（キューピー、 アヲハタ、キューピータマ ゴ、サラダクラブ、キュー ピー醸造、デリア食品、ケ イバック、コブ食品）
		1. 購入した製品・サービス	千トン-CO ₂	234.4	215.4	167.8	987.2	7月開示予定	
		2. 資本財	千トン-CO ₂	28.1	20.3	22.4	96.7	7月開示予定	
		3. Scope1, 2に含まれない燃料 及びエネルギー関連活動	千トン-CO ₂	6.0	4.4	8.1	5.8	7月開示予定	
		4. 輸送、配送（上流）	千トン-CO ₂	40.8	37.8	33.4	45.1	7月開示予定	
		5. 事業活動から出る廃棄物	千トン-CO ₂	2.6	2.3	0.5	10.2	7月開示予定	
		6. 出張	千トン-CO ₂	0.3	0.3	0.3	1.4	7月開示予定	
		7. 雇用者の通勤	千トン-CO ₂	1.2	1.1	1.1	4.9	7月開示予定	
		8. リース資産（上流）	千トン-CO ₂	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	
		9. 輸送、配送（下流）	千トン-CO ₂	4.0	4.2	9.9	20.7	7月開示予定	
		10. 販売した製品の加工	千トン-CO ₂	2.6	1.7	0.0	35.8	7月開示予定	
11. 販売した製品の使用		千トン-CO ₂	8.8	9.8	1.8	該当なし	該当なし		
12. 販売した製品の廃棄		千トン-CO ₂	17.2	16.8	14.0	21.2	7月開示予定		
13. リース資産（下流）		千トン-CO ₂	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし		
14. フランチャイズ		千トン-CO ₂	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし		
15. 投資	千トン-CO ₂	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし			
電力購入量	国内	Mwh	228,618	226,292	221,861	219,987	210,105	キューピーグループ 生産工場・オフィス	
	海外	Mwh	40,662	40,342	33,668	31,404	28,410	キューピーグループ 生産工場	
再生可能エネルギー量	国内	Mwh	4,361	4,155	4,461	4,749	6,445	キューピーグループ 生産工場・オフィス	
	海外	Mwh	1,362	2,362	2,668	3,539	5,515	キューピーグループ 生産工場	
NOx排出量	国内	トン	43.0	40.9	39.8	37.9*	33.6	キューピーグループ 生産工場	
SOx排出量	国内	トン	8.9	8.5	8.3	8.1	6.7	キューピーグループ 生産工場	

環境データは、特に記載のない限りキューピー株式会社および連結子会社を対象とし、実績はキューピー年度（12月から翌年11月）を対象とする。
[*]マークは、算定定義見直しなどによりデータの一部を修正しています。

キューピーグループ ESGデータ 一覧

環境

更新日：2024年5月30日

Scope3の算定方法		
カテゴリ	算出方法	対象排出原単位等
1. 購入した製品・サービス	重量あたり原単位	原材料・資材購入重量
2. 資本財	投資金額あたり原単位	設備投資額
3. Scope1, 2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	CFP-DB、SC-DB	エネルギー種別の使用量
4. 輸送、配送（上流）	トンキロ法/輸送時の排出原単位	荷主輸送/調達物ごとの輸送シナリオ活動量
5. 事業活動から出る廃棄物	重量あたり原単位	排出物重量
6. 出張	従業員数あたり原単位	従業員数
7. 雇用者の通勤	従業員数・勤務日数あたり原単位	従業員数・営業日数
8. リース資産（上流）	Scope1,2に算入済	Scope1,2に算入済
9. 輸送、配送（下流）	輸送時の排出原単位	出荷重量、製品輸送はシナリオ
10. 販売した製品の加工	製品ごとの間接消費エネルギー	製品群ごとの販売数量
11. 販売した製品の使用	製品ごとの間接消費エネルギー	製品群ごとの販売数量
12. 販売した製品の廃棄	重量あたり原単位	製品に使用した包材重量
13. リース資産（下流）	該当なし	該当なし
14. フランチャイズ	該当なし	該当なし
15. 投資	該当なし	該当なし

キューピーグループ ESGデータ 一覧

社会

更新日：2024年5月30日

人材		単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	備考
グループ従業員数		人	24,856	25,271	15,885	15,785	15,453	キューピーグループ ※2021年度より「キューソー物流システム」は持分法適用関連会社へ移行
グループ常時雇用者数	合計	人	15,452	16,003	10,719	10,696	10,642	キューピーグループ
	男	人	9,549	9,838	5,348	5,280	5,299	
	女	人	5,903	6,165	5,371	5,416	5,343	
グループ平均臨時雇用者数		人	9,404	9,268	5,166	5,089	4,811	キューピーグループ
キューピー従業員数	合計	人	3,185	2,995	2,931	2,946	2,831	キューピー単体社員
キューピー常時雇用者数	合計	人	2,447	2,426	2,394	2,408	2,332	キューピー単体
	男	人	1,335	1,308	1,296	1,271	1,232	
	女	人	1,112	1,118	1,098	1,137	1,100	
キューピー平均臨時雇用者数	合計	人	738	569	537	538	499	キューピー単体
	男	人	233	179	169	176	182	
	女	人	505	390	368	362	317	
キューピー新入社員数	合計	人	50	53	24	24	34	キューピー籍新卒総合職のみ
	男	人	24	35	13	14	21	
	女	人	26	18	11	10	13	
キューピー平均勤続年数	男女平均	年	15.1	15.3	16.0	16.2	16.2	キューピー単体社員
	男	年	17.8	18.0	18.6	18.8	18.4	
	女	年	11.9	12.2	13.0	13.4	13.7	
キューピー平均年齢	男女平均	年	40.3	40.5	41.2	41.6	41.7	キューピー社員
	男	歳	43.3	43.3	43.9	44.3	44.1	
	女	歳	36.6	37.1	38.0	38.6	39.1	
キューピー中途採用比率		%	30.7	24.6	30.6	35.7	42.4	キューピー単体
キューピー離職率 (新卒者の3年未満の離職率)		%	7.3	20.4	10.2	6.0	15.1	キューピー単体新卒総合職のみ
キューピー定年再雇用希望者		人	25	25	27	36	33	キューピー籍社員 ※2016年定年延長（60歳⇒63歳） 2017年度の2名は60歳時点で定年退職を 選択しシニア社員を希望した社員
キューピー定年再雇用率		% (%)	83 (100)	78 (100)	73 (100)	86 (100)	72 (100)	キューピー籍社員 ()内は希望者の再雇用率 ※2016年定年延長（60歳⇒63歳） 希望者以外の定年退職無し
女性役員比率		%	13.3	18.8	21.4	28.6	21.4	キューピー単体 社外役員、社外監査役、監査役含む
女性管理職比率		% (%)	9.2 (7.9)	10.2 (8.5)	10.9 (9.1)	12.5 (10.0)	14.5 (11.4)	キューピー単体 ()内は国内食品事業全体
女性リーダー数		人 (人)	59 (111)	65 (121)	72 (132)	82 (145)	94 (164)	上記比率の管理職人数 ()内は国内食品事業全体
社員研修費用		百万円	211	189	172	144	82	キューピーグループ従業員含む 人材育成センターで行われた研修費等
人権研修参加者		人	9,010	7,964	14,463	14,793	14,913	キューピーグループ従業員含む 研修の名目のためアンケート数は除く
総研修時間		時間	-	-	-	-	18,662	キューピーグループ従業員含む
障がい者雇用率		%	3.60	3.67	3.76	3.73	3.70	国内食品事業全体 ※2023年12月1日現在

「社会」に関するデータは、特に記載のない限りキューピー株式会社を対象とする。

キューピーグループ ESGデータ 一覧

社会

更新日：2024年5月30日

労働								
	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	備考	
平均残業時間（従業員一人当たり）	時間/月	20.5 (26.2)	16.1 (18.9)	16.6 (18.7)	16.2 (18.7)	16.9 (17.9)	キューピー単体一般職のみ （）内は国内食品事業一般職のみ	
年次有給休暇取得日数	日	13.4 (11.0)	11.1 (9.5)	12.2 (10.6)	14.1 (11.9)	14.4 (13.8)	キューピー単体 （）内は国内食品事業社員のみのみ ※平均取得日数を記載	
育児休業取得者	合計	人	200	221	223	188	158	キューピー単体 社員
	男	人	57	70	73	66	34	
	女	人	143	151	150	122	124	
育児短時間勤務者	合計	人	165	187	195	192	213	キューピー単体 社員
	男	人	0	0	1	0	1	
	女	人	165	187	194	192	212	
育児休業復職率	%	100	100	100	100	100	キューピー単体	
介護休暇利用者	人	48	78	87	118	112	キューピーグループ	
介護休業利用者	人	15	13	11	12	7	キューピーグループ	
ボランティア休暇取得者	人	7	0	1	0	25	キューピー単体	
休業災害件数	件	13	12	17	9	13	キューピーグループ国内71事業所 ※2024年4月30日集計	
休業災害度数率	%	0.62	0.60	0.90	0.46	0.69	キューピーグループ国内71事業所 ※度数率=労働災害による死傷者数/延べ 実労働時間×1,000,000 ※2024年4月30日集計	
休業災害強度率	%	0.038	0.020	0.031	0.027	0.036	キューピーグループ国内71事業所 ※強度率=労働損失日数/延べ実労働時 間×1,000 ※2024年4月30日集計	
社会								
	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	備考	
食育活動	開催数	回	315	62	39	56	106	マヨネーズ教室、SDGs 教室 オンライン含む
	参加者数	人	14,125	2,938	1,972	4,588	5,617	
講演会	開催数	回	179	56	58	99	100	
	参加者数	人	8,315	3,000	2,013	4,013	4,635	
工場見学・見学施設来場者数	人	88,147	21,016	24,857	25,417	44,266	五箇・富士吉田（2020年まで）・孝・鳥栖 ・神戸・マヨネーズ・中河原・泉佐野・陸上 オンライン含む	
マッチングギフトQPeace	支援団体数	団体	14	12	10	11	10	n a k a t o / イシカリデリカ/キタミデリカ/キューピー/キ ューピータマゴ/キューピー緑豆/グリーンメッセジ/ケイ・エ スエス/ケイ・システム/ケイ/バック/コブ/食品/カラダクラブ/ セトデリカ/ディスベン/バック/デリア食品/トワ・アドキュー ピー/トワ・キューピー/トワ・ソリューションズ/トスデリカ/ハ ンシンデリカ/陸上キューピー/三菜食品販売/旬菜デリ/中島製 菓/鳥栖キューピー/麗花・富士吉田キューピー（2021年まで）
	支援総額	万円	652	650	649	667	662	
キューピーみらいたまご財団	助成団体数	団体	70	132	102	131	150	
	助成総額	万円	2,651	3,981	3,800	4,052	4,614	

「社会」に関するデータは、特に記載のない限りキューピー株式会社を対象とする。

キューピーグループ ESGデータ 一覧

ガバナンス

更新日：2024年5月30日

取締役会の独立性			単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	備考
取締役	社内取締役	男性	人	9	6	6	7	6	2024年2月22日現在
		女性		0	0	0	0	0	
		合計		9	6	6	7	6	
	独立社外取締役	男性		1	2	1	1	2	
		女性		1	1	2	2	2	
		合計		2	3	3	3	4	
	合計				11	9	9	10	10
独立社外取締役比率			%	18.2	33.3	33.3	30.0	40.0	
開催回数			回	11	12	12	12	2025年2月 開示予定	
監査役会			単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	備考
監査役	社内監査役	男性	人	2	2	2	2	2	2023年2月22日現在
		女性		0	0	0	0	0	
		合計		2	2	2	2	2	
	独立社外監査役	男性		1	1	1	2	2	
		女性		2	2	2	1	1	
		合計		3	3	3	3	3	
	合計				5	5	5	5	5
開催回数			回	12	13	13	13	2025年2月 開示予定	

キューピーグループ ESGデータ 一覧

ガバナンス

更新日：2024年5月30日

指名・報酬委員会							
	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	備考
指名・報酬委員会	人	6	7	7	7	8	2024年2月22日現在
社内取締役		3	3	3	3	3	
社外取締役・監査役		2	4	4	4	5	
役員報酬							
		2024年度				備考	
		支給人数 (人)	支給額 (百万円)	賞与 (百万円)	総支給額 (百万円)		
取締役	取締役（社外取締役を除く）	8	185	74	259	2024年2月22日現在	
	社外取締役	3	37	-	37		
	合計	11	222	74	296		
監査役	監査役（社外監査役を除く）	3	42	-	42		
	社外監査役	4	30	-	30		
	合計	7	73	-	73		
合計		18	295	74	369		
株主権							
		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	備考
買収防衛策の有無		有	有	有	無	無	
株主・投資家・アナリスト向けの説明会の開催							
	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	備考
定時株主総会	回/年	1	1	1	1	1	
アナリスト向け決算説明会	回/年	2	2	2	2	2025年2月 開示予定	
コンプライアンス							
	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	備考
ヘルプライン（内部通報制度）への通報・相談件数	件	38	20	28	37	2025年2月 開示予定	
全従業員の意識調査アンケート回答率	%	89.3	-	84.5	-	2024年5月 アンケート結果後 開示	2年おきに実施
支払法人税額							
	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	備考
連結会計総額	百万円	8,664	8,329	6,774	5,851	2025年2月 開示予定	

サステナビリティ






各種方針

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >**
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

> グループ規範(倫理規範・行動規範)

> キューピーグループ 経営の基本方針

> キューピーグループ サステナビリティ基本方針

サステナビリティに関連する方針 (基本原則・ガイドライン・宣言含む)		サステナビリティ重点課題					
		食と健康への貢献	資源の有効活用・循環	気候変動への対応	生物多様性の保全	持続可能な調達	人権の尊重
環境	> キューピーグループ 環境方針		●	●		●	
	 キューピーグループ 容器包装選定の基本方針(152KB)		●	●	●	●	
	> キューピーグループ プラスチック方針		●	●	●	●	
	> キューピーグループ 生物多様性方針		●	●	●	●	
調達	> 持続可能な調達のための基本方針		●		●	●	●
	 キューピーグループ サプライヤーガイドライン(518KB)				●	●	●
	 キューピーグループ グリーン購入基本原則(760KB)		●			●	
	 キューピーグループ 紙調達ガイドライン(217KB)			●	●	●	●
人権	 キューピーグループ 人権方針(260KB)						●
安全・安心	> キューピーグループユニバーサルデザイン原則	●					
ガバナンス	> キューピーグループ 反贈賄基本方針					●	

	> キュービーグループ プライバシーポリシー					●	
	 マルチステークホルダー方針 (361KB)						●
宣言	> 消費者志向自主宣言	●					
	> キュービーグループ 健康宣言	●					
	 パートナーシップ構築宣言 (152KB)	●		●		●	●

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キユーピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

イニシアチブ・加盟団体

イニシアチブへの賛同・参加 ▼ 加盟団体 ▼

イニシアチブへの賛同・参加

TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)

キユーピーグループは「TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)」に2021年から賛同し、あわせて「TCFDコンソーシアム」に参画しています。
TCFDは、G20からの要請を受け、金融安定理事会(FSB)が2015年に設立したタスクフォースです。これに賛同する企業や金融機関などが連携する場がTCFDコンソーシアムです。



- > [TCFD](#) □
- > [TCFD コンソーシアム](#) □

TNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)フォーラム

キユーピーグループは「TNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)フォーラム」に2024年4月に参画しました。
TNFDは、民間企業や金融機関が自然資本および生物多様性に関するリスクや機会を適切に評価し、開示するためのフレームワークを構築する機関として発足しました。TNFDフォーラムとは、TNFDのビジョンとその取り組みに賛同し、TNFDフレームワークの開発作業を支援することを目的とした、TNFDをサポートする有志連合です。



- > [TNFDフォーラム](#) □

経団連生物多様性宣言イニシアチブ

キユーピーは「経団連生物多様性宣言イニシアチブ」に2024年から賛同しています。
経団連生物多様性宣言イニシアチブは、「経団連生物多様性宣言・行動指針(改定版)」が掲げる7項目のうち複数の項目に取り組む、または全体の趣旨に賛同する企業・団体の活動方針や活動事例を、特設ウェブサイトで内外に向けて、発信・紹介するものです。



- > [経団連生物多様性宣言イニシアチブ](#) □

GPN(グリーン購入ネットワーク)

キユーピーは「GPN(グリーン購入ネットワーク)」に1996年から加盟しています。
GPNは、環境負荷の小さい製品やサービスの市場形成を促し、持続可能な社会経済の構築に寄与するため、グリーン購入活動を促進し、グリーン購入に関する普及啓発や情報提供、調査研究などを行っているネットワークです。



- > [GPN](#) □

RSPO (持続可能なパーム油のための円卓会議)

キュービーグループは「RSPO (持続可能なパーム油のための円卓会議)」に2018年から加盟しています。RSPOは、世界的に信頼される認証基準の策定と、ステークホルダー(利害関係者)の参加を通じ、持続可能なパーム油の生産と利用を促進することを目的として、WWFを含む7つの関係団体が中心となり2004年に設立した非営利団体です。

[> RSPO](#)

JaSPON (持続可能なパーム油のためのネットワーク)

キュービーグループは「JaSPON (持続可能なパーム油のためのネットワーク)」に2019年から加盟しています。JaSPONは、パーム油生産における社会や環境面のさまざまな問題を解決することをめざし、日本市場における持続可能なパーム油の調達と消費を加速させる目的で小売、消費財メーカー、NGOなどによって設立されたネットワークです。

[> JaSPON](#)

環境省 ウォータープロジェクト

キュービーは「環境省ウォータープロジェクト」に2022年から参加しています。

環境省ウォータープロジェクトは、2014年に「水循環基本法」に基づき発足した、健全な水循環の維持または回復を目的とした取り組みの促進などを推進する官民連携プロジェクトです。

[> 環境省ウォータープロジェクト](#)



環境省 プラスチック・スマートキャンペーン

キュービーは「環境省 プラスチック・スマートキャンペーン」に2020年から参加しています。

プラスチック・スマートとは、環境省が実施している海洋プラスチックごみの削減に向けたキャンペーンの名称です。個人・自治体・NGO・企業・研究機関などのさまざまな主体が連携・協働して取り組んでいる「プラスチックとの賢い付き合い方」を全国的に推進し、発信しています。

[> 環境省 プラスチック・スマートキャンペーン](#)



CLOMA (クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス)

キュービーは「CLOMA (クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス)」に2020年から参加しています。

CLOMAは、地球環境の新たな課題である海洋プラスチックごみの問題解決に向けて、プラスチック製品のより持続可能な使用並びにプラスチック廃棄物の削減につながる革新的な代替品の開発および導入普及を図り、業種を超えた幅広い関係者の連携を強めてイノベーションを加速するため2019年1月に設立されたプラットフォームです。

[> CLOMA](#)



あふの環2030プロジェクト ～食と農林水産業のサステナビリティを考える～

キューピーは「あふの環2030プロジェクト」に2020年から参加しています。

「あふの環2030プロジェクト」は、2030年のSDGs達成をめざし、今だけでなく次の世代も豊かに暮らせる未来を創るべく農林水産省が立ち上げたプロジェクトです。

[> あふの環プロジェクト](#)



食環境戦略イニシアチブ(健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ)

キューピーは「食環境戦略イニシアチブ(健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ)」に2021年3月から参画しています。

食環境戦略イニシアチブは、厚生労働省が立ち上げ、産学官などの連携による推進体制により、食塩の過剰摂取、若年女性のやせ、経済格差に伴う栄養格差などを重大な社会課題と捉え、活力ある持続可能な社会の実現をめざしています。

[> 食環境戦略イニシアチブ](#)

[> 食環境戦略イニシアチブにおけるキューピーの公開目標](#)

加盟団体

協会・団体名	役職
一般財団法人 食品産業センター	副会長
食品産業中央協議会	監事
全国マヨネーズ・ドレッシング類協会	会長
全国ドレッシング類公正取引協議会	会長
公益社団法人 日本缶詰びん詰レトルト食品協会	副会長
日本介護食品協議会	会長

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 資源の有効活用・循環 +
- 気候変動への対応 +
- 生物多様性の保全 +
- 食と健康への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- 対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- イニシアチブ・加盟団体 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キユーピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

社会・環境活動の歴史

対象:キユーピーグループ
 本年表は、当時の活動内容を掲載しています

西暦	社会活動	環境活動
2024年 ※5月末時点	キユーピーグループ 持続可能な調達のための基本方針およびキユーピーグループ サプライヤーガイドラインを改訂	
	「健康経営優良法人2024」認定	2023年度TCFD報告書を開示
	渋谷未来デザイン特別正会員として入会	業務用商品ほしえぬパスタソースパキッテシリーズ容器サイズ変更によりプラスチック使用量25%削減
		キユーピー あえるパスタソースシリーズ外装を紙パッケージに変更
		キユーピー3分クッキング 野菜をたべよう!スープの素外装を紙パッケージに変更
		キユーピーが第45回食品産業優良企業等表彰 環境部門において農林水産大臣賞を受賞(マヨネーズ残さをバイオガス発電に有効活用)
		キユーピーグループecoマーク運用開始
		CDP「気候変動」と「水セキュリティ」の2分野で「A-」の評価を獲得
		経団連生物多様性宣言イニシアチブ参画
		TNFDフォーラム参画
2023年	パートナーシップ構築宣言	
	マルチステークホルダー方針を策定	
	北京・杭州・広州の3工場が「食品科学普及教育基地」に認定	2022年度TCFD報告書を開示
	「サステナブルな食」の新ブランドGREEN KEWPIEを発表	業務用商品ニューエグスターボトルのプラスチック使用量を削減することで軽量化
	全国47都道府県「ご当地バイザンヌサラダ」の取り組みを始動	業務用商品キユーピー、ほしえぬブランド1000ml・500mlボトル容器入り商品軽量化によりキャップのプラスチック使用量を約9%削減
	「健康経営優良法人2023」認定	南通丘比、キユーピータマゴ三田工場・尾張工場、サラダクラブ遠州工場(第2

		期)、広州丘比、キューピーマレーシア、コープ東北で太陽光発電を開始
		Italiante バジルソースボトルタイプの賞味期間延長
		キューピー(五霞工場、中河原工場、泉佐野工場、神戸工場)とケイバックで食品残さによるバイオマス発電を実現
		ヴェルデ トーストスブレッドシリーズ環境配慮型容器の切り替えによりプラスチック使用量を約10.9%削減(シリーズすべてに採用)
		キューピー テイステイドレッシング、機能性表示食品ドレッシング再生プラスチックを100%使用したボトルを採用(国内調味料初:キューピー調べ)
		ヴェルデ パッケージシリーズ容器の一部(内容物が入っている部分)にバイオマスプラスチックを配合することで、石油由来プラスチック使用量を40%削減
		キューピーがSDGs・災害食大賞©2023 ローリングストック部門において最優秀賞受賞(キューピー やさしい献立シリーズ)
		キューピーが令和5年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰においてリデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞を受賞(マヨネーズ残さをバイオガス発電に有効活用)
		キューピーが第11回食品産業もったいない大賞において農林水産省大臣官房長賞を受賞(マヨネーズ残さをバイオガス発電に有効活用)
2022年	キューピーグループ サステナビリティ基本方針を策定	
	サステナビリティに向けた重点課題に持続可能な調達、人権の尊重を追加し、サステナビリティ目標を見直し	
	キューピーグループ3社(キューピータマゴ・デリア食品・キューピー醸造)の公式サイト内に「サステナビリティページ」を新設	
	キューピーグループ サステナビリティ基本方針を改訂、あわせてキューピーグループ生物多様性方針を策定	
	サステナビリティに向けた重点課題を見直し生物多様性の保全を追加	
	「健康経営優良法人2022」認定	TCFDフレームワークに基づく情報を開示
	ABC Cooking Studio×キューピー【サラダとタマゴの食と健康キッチン】共同プロジェクト	野菜廃棄物ゼロ化全7工場で完了(サラダクラブ中河原工場・伊丹工場・鳥栖工場)
キューピーが第6回食育活動表彰 教育関係者・事業者部門【企業の部】において、農林水産大臣賞を受賞	ヴェルデ ビーナッツホイップ、チョコホイップ 容器薄肉化によりプラスチック使用量を約9.3%削減	

野菜の魅力を体験できる複合型施設「深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム」を開業	キュービー 3分クッキング 野菜をたべよう!スープの素シリーズ3品を年月表示
オンラインと出前事業でSDGs教室を開始	アヲハタ まるごと果実シリーズ瓶軽量化
キュービー、デリア食品、ポテトデリカが第72回大会日本食品保蔵科学会 産業技術功労賞を受賞(冷圧フレッシュ製法®)	ヴェルデ トーストスプレッドシリーズ 容器薄肉化によりプラスチック使用量を約10.9%削減
日本食品工学会第23回年次大会 技術賞を受賞冷圧フレッシュ製法®)	サラダクラブ パッケージサラダトレー 約10%軽量化によるプラスチック使用量削減
2020日本パッケージングコンテスト 包装部門賞 食品包装部門賞を受賞(キュービー 平飼い卵マヨネーズ)	サラダクラブ 加熱用カット野菜 炒めるキャベツ鮮度保持延長技術により業界最長消費期限を実現
2020日本パッケージングコンテスト 包装技術賞 アクセシブルデザイン包装賞を受賞(レンジでチンするハッピーレシビ)	サラダクラブ パッケージサラダフィルム規格変更(寸法の縮小化・薄肉化)によるプラスチック使用量削減
2020日本パッケージングコンテスト ジャパンスター賞 公益社団法人日本包装技術協会会長賞を受賞(ヴェルデ ビーナッツホイップ、チョコホイップ)	渋谷本社および仙川キューポート使用電力を実質再生可能エネルギー由来へ100%切り替え
2022年度グッドデザイン賞を受賞(HOBOTAMAシリーズ)	キュービー神戸工場(オンサイトPPA)、北京丘比、キタカミデリカ(オンサイトPPA)で太陽光発電を開始
	キュービー ベビーおやつ 野菜入りソフトおせんべいの包材変更によりプラスチック使用量を約35%削減
	サステナアワード2021 みどりの食料システム推進賞を受賞(卵の有効活用動画)
	プラントベースフード HOBOTAMA (ほぼたま)の市販用発売
	サラダクラブ カットレタス増量企画により産地廃棄(フードロス)削減支援を実施
	キュービー あえるパスタソースシリーズ「年月」表示へ切り替え、包材のスリム化によりプラスチック使用量を約7%削減
	キュービー やさしい献立シリーズ 31品 賞味期間延長
	サラダクラブ 素材パウチシリーズ全ての包材・インキを植物由来のバイオマスパウチおよびバイオマスインキへ切り替え完了
	パーム油においてRSPOブックアンドクレーム方式への切り替えを完了し、マス

		バランスの切り替えを開始
2021年	サステナビリティに向けた重点課題(食と健康への貢献、資源の有効活用・循環、気候変動への対応)とサステナビリティ目標を見直し	
	オンライン離乳食教室をキューピー鳥栖工場で開始	キューピー広州工場オール電化設備を導入
	共同研究講座「キューピー・東京家政大学 タマゴのおいしさ研究所」を開設	キューピー ベビーおやつ たまごたっぷりぼうろパッケージのプラスチック使用量を約25%削減
	「健康応援BOOK」を公開	野菜廃棄物ゼロ化4工場で完了(サラダクラブ五霞工場)
	アヲハタ4期連続で「子育てサポート企業」に認定	キューピー テイステイドレッシング全品に再生プラスチック30%を含むボトルを採用
	キューピー食育活動「マヨネーズ教室」「食をテーマにした講演会」を対面とオンラインのハイブリッド化 開始	TCFD提言への賛同を表明 TCFDコンソーシアムへ参画
	キューピーグループ人権方針を策定	サラダクラブ サステナビリティページを開設
	未来を創る子どもたちの生きる力を育む、楽しく学んで試せるサイト「食生活アカデミー」を開設	旬菜デリ青梅工場、キューピータマゴ飯能工場、キューピーベトナムで太陽光発電を開始
	子どもが野菜をおいしく、楽しく食べられるように応援するサイト「子どもと野菜をたのしもう」を開設	
	各世代で意識したい食生活のポイントとおすすめレシピを紹介するサイト「みんなの食と健康応援」を開設	
2020年	組織再編により、経営推進本部にサステナビリティ推進部(旧CSR部)を設置	
	サステナビリティ担当取締役を委員長とするサステナビリティ委員会(旧CSR委員会)を設置	
	CSRサイトをサステナビリティサイトへ名称変更	
	健康経営優良法人2020(ホワイト500)3年連続認定	キューピータイランド(第2期)、旬菜デリ昭島工場で太陽光発電を開始
	AIを活用した原料検査装置でキューピーが第2回日本オープンイノベーション大賞農林水産大臣賞を受賞	野菜廃棄物ゼロ化3工場で完了(サラダクラブ三原工場・サラダクラブ真庭工場)
	東京農業大学内にキューピー「エッグイノベーション」寄付研究部門を開設	第7回「食品産業もったいない大賞」農林水産省食料産業局長賞をキューピーとキューピータマゴが受賞(卵殻と卵殻膜の価値探求と食と健康への貢献)
	キューピーが知的財産権制度活用優良企業として令和2年度「知財功労賞」特許庁長官表彰を受賞	再生プラスチックをキューピー ドレッシング スティックタイプの外装に採用
	松本市・松本大学と共同研究の成果を発表	サラダクラブ 素材パウチシリーズ12品に植物由来のプラスチックを採用

	健康的な食生活提案	全品の賞味期間延長と年月表示
	渋谷区と共同で食生活と健康の関連を調査開始	環境賞「プラスチック・スマート」キャンペーンに参加
	初のオンライン社会科見学をキューピー拳母工場・キューピー神戸工場で実施	CLOMA (Japan Clean Ocean Material Alliance) に加盟
	マヨテラスでオンライン見学を開始	
2019年	「サステナビリティ目標」を設定	
	健康経営優良法人2019(ホワイト500)2年連続認定	野菜廃棄物ゼロ化完了(サラダクラブ遠州工場)
	マヨネーズ教室(出前出張)累計参加人数10万人達成	キューピードレッシング スティックタイプの外装に再生プラスチック使用
	創業100周年イベント「キューピー 笑顔を届ける音楽会」を全国各10カ所の幼稚園・保育園と介護施設で開催	キューピー、サンスター、日本パレットレンタルに3者によるトラックと船舶を組み合わせた3社共同輸送(関西・九州間)を開始
	山形県と包括連携協定を締結(地域の活性化と市民の生活の質向上を目的とした地域創生の推進)	第6回「食品産業もったいない大賞」農林水産省食料産業局長賞をキューピーとグリーンメッセージが受賞(野菜の未利用部を活用した資源循環の推進)
	AIを活用した食品の原料検査装置の取り組みにおいて、キューピーが「IT JapanAward 2019」準グランプリを受賞	令和元年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 農林水産大臣賞をキューピーとキューピータマゴが受賞(卵殻の付加価値化と社会貢献への挑戦)
	ディーブラーニングを活用した食品のAI原料検査装置の取り組みにおいてキューピーが、「ディーブラーニングビジネス活用アワード(日経xTECH主催)」大賞を受賞	キューピータイランド(第1期)で太陽光発電を開始
2018年	「CSRの基本的な考え方」と「CSRの重点課題(健康寿命の延伸、子どもの心と体の健康支援、資源の有効活用と持続可能な調達、CO2排出量削減、ダイバーシティの推進)」を策定	
	キューピーグループの持続可能な調達のための基本方針の策定	
	健康経営優良法人2018(ホワイト500)認定	キューピーで初めて「年月表示」を開始(市販用介護食キューピー やさしい献立シリーズ レトルトパウチ)
	プラチナくるみん認定	キューピードレッシングのガラス容器をプラスチックボトル化(原料調達、容器製造、容器輸送までにおいて、温室効果ガス(GHG)を約20%削減)
	広島市と包括連携協定を締結(地産地消費や食育、健康増進の取り組みなどを推進)	キューピー、ライオン、日本パレットレンタルの異業種3社による共同幹線輸送を開始
	「あいち みんなのサラダ」プロジェクト実行委員会設立(愛知県民の野菜摂取量増加を応援)	平成30年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰をキューピーとグリーンメッセージが内閣総理大臣賞を受賞

		(野菜の未利用部を活用した資源循環の推進)
		平成30年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰 国土交通大臣表彰を受賞
		RSPO*に加盟 (※ RSPO:持続可能なパーム油のための円卓会)
		キューピータイランド(第1期)で太陽光発電を開始
2017年	株主総会にてCSRの展示を実施	
	CSR委員会を設置 環境委員会を食育・社会貢献を含むCSR全体を推進する組織に改編	
	キューピー神戸工場オープンキッチン(工場見学)を開始	グリーンファクトリーセンター白河(第2期)で太陽光発電を開始
	一般財団法人 キューピーみらいたまご財団設立(2019年4月に公益財団法人に移行)	キューピー富士吉田工場 平成28年度関東地区電気使用合理化委員会委員長表彰 「事業所 最優秀賞」を受賞 ※2021年譲渡
	第1回 地域の居場所づくりサミット開催(一般財団法人 キューピーみらいたまご財団)	工場で発生する野菜残さで染めたエプロン(FOOD TEXTILE)をマヨネーズ教室で採用
		野菜残さのサイレージ化を開始(グリーンメッセージ)
2016年	渋谷区との「シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー協定」を締結	キューピー マヨネーズ(一部容量)とキューピーハーフの賞味期間を延長(食品ロス削減)
		「キューピーの森」第三期活動開始
		「エネルギー1/2」をコンセプトとしたキューピー神戸工場の操業開始
		遠州デリカ*で太陽光発電を開始 ※現サラダクラブ遠州工場
2015年	社会・環境推進部をCSR部に改組	
		長距離輸送(500km以上)のモーダルシフトの推進開始
		パッケージサラダ(一部商品)消費期限延長
		グリーンファクトリーセンター(第1期)、キューピー富士吉田工場(※2021年譲渡)に太陽光発電を開始
2014年	仙川キューポート内に見学施設「マヨテラス」をオープン	エコプロダクツ2014年の環境省「Fun to Share」ブース内に卵殻活用事例を展示
		キューソー流通システム所沢物流センター、キューピー醸造滋賀工場に太陽光発電設備導入

		九都県市「容器包装ダイエット宣言」に参加。関東圏スーパー75店舗のキャンペーンで容器軽量化を行った商品を紹介
		ポテトピール(主にじゃがいもの皮と芽)の飼料化開始(養豚用)
		キュービー醸造 滋賀工場で太陽光発電を開始
2013年	お茶の水女子大学に寄附研究部門「食と健康」を設立	加藤産業様、キューソー流通システム、キュービー連携のグリーン物流の普及拡大により、グリーン物流パートナーシップ会議特別賞を受賞
	ダンスコンクールの協賛開始	キューソー流通システム松戸営業所・伊丹第三営業所、ケイバックに太陽光発電設備導入
	「広島県とアヲハタとの包括的連携に関する協定」を締結	「キュービーの森」第二期活動開始
		ケイバック本社工場で太陽光発電を開始
2012年	社会・環境推進部と広報室を再編し、広報・CSR本部を設置	
	幼児向け絵本の製作・発行(年1冊ずつ2016年まで実施)	キュービー ファインケミカル本部五霞工場で太陽光発電を開始
	アヲハタ ジャム工場内に見学施設「アヲハタ ジャムデッキ」をオープン	
2011年	第32回食品産業優良企業等表彰 CSR部門で「農林水産大臣賞」を受賞	
	公益財団法人ベルマーク教育助成財団が行う東日本大震災被災地の教育援助活動に対し5年間の寄付を開始	
2010年	三國清三シェフを講師に迎えた「家族でわくわくクッキング」を開始	
2009年	社会・環境推進室と法務・知的財産室を再編し、CSR推進本部を設置、社会・環境推進室を社会・環境推進部に改組	
	キザニア甲子園に「マヨネーズ工場」パビリオン出展	営業車にハイブリッドカー「プリウス」を導入
2008年	マッチングギフト制度「Q P e a c e」開始	段ボールの印刷に使用するインクを39色から標準色18色に集約
	「社会と環境について語るブログ」が環境goo大賞(ブログ部門)受賞	
2007年	フードバンク活動への支援開始	キュービー富士吉田工場でISO14001の認証取得 ※2021年譲渡
	「社会と環境について語るブログ」開始	水源涵養を目的として森林保全活動「キュービーの森」を山梨県富士吉田市で開始

2006年	「社会・環境報告書」の発行を開始(社会性の記述を増やし、冊子版とウェブ版を発行)	
	渋谷音楽祭への協賛開始	「チーム・マイナス6%」に参加
		八都県市「容器包装ダイエツト宣言」に参加
2005年	CSR担当役員任命、環境対策室を社会・環境推進室に改組	
	「環境・社会報告書」の発行を開始(「環境報告書」に社会活動に関する内容を付加)	
		中河原工場でISO14001の認証取得
2004年	キューピーニュースが第4回消費者教育教材資料表彰(主催:財団法人消費者教育支援センター)の優秀賞を受賞	鳥栖工場でISO14001の認証取得
2003年		キューピー全工場で廃棄物の再資源化率100%達成
2002年	マヨネーズ教室を開始	キューピー全工場の廃棄物焼却炉を廃止
	東京水産大学(現 東京海洋大学)大学院に「ヘルスフード科学(中島董一郎記念)寄附講座」を設立	五霞工場で廃棄物の再資源化率100%達成
2001年		「環境報告書」の発行開始
		五霞工場でISO14001の認証取得
		グループ環境マネジメントマニュアルを制定
2000年		マヨネーズ容器、段ボール箱の減量化、仕切り板廃止などを実施
		伊丹工場でISO14001の認証取得
		NPO法人「霧多布湿原ナショナルトラスト」への協賛および寄付を開始
1998年		容器包装の環境影響評価基準を制定
		グリーン購入の基本原則を制定、OA用紙ガイドラインを作成・運用開始
		環境保全のための基本方針を制定(部門ごとの目標を設定し活動)
1997年		環境担当役員、環境対策室を設置
		環境委員会(委員長:環境担当役員)を全社組織に改組
		卵殻膜を素材としたうまみ調味料を発売(商品名「卵醬」) ※現在は販売しておりません
1993年		安全・環境に関するグループ各社相互点検システムを確立

1992年		容器減量化を推進(ドレッシングびんを丸形・軽量びん化など)
1991年		環境問題検討委員会を設置(委員長:生産本部長)
		卵殻膜を加工、化粧品原料として発売
1984年	「食」をテーマとする講演会活動を開始	
1981年		卵殻を食品用カルシウムとして発売(膜除去技術の確立により実現、商品名「カルホープ」)
1980年	「那覇ママさんコーラスまつり」(現「全沖縄おかあさんコーラス大会」)の協賛開始	
1978年	日本合唱連盟・朝日新聞社主催の「全日本ママさんコーラス大会」(現「全日本おかあさんコーラス大会」)の協賛開始	
1975年	食生活に関するビデオの配布開始	
1973年	食と健康の知識の普及をはかる「キューピーニュース」発行	
1971年		活性汚泥による排水処理設備を導入(1975年に全工場に整備)
1969年		卵殻の破碎・乾燥設備を導入(旧仙川工場)
1963年		廃棄物削減を合理化の一環として取り組み開始
1962年	「キューピー3分クッキング」放映開始	
1961年	オープンキッチン(工場見学)を開始	
1960年	財団法人ベルマーク教育助成財団への協賛開始	
1956年		卵殻を天日で干し、土壌改良材として農家に販売を開始

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

資源の有効活用・循環 +

気候変動への対応 +

生物多様性の保全 +

食と健康への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

イニシアチブ・加盟団体 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

グループ各社の
サステナビリティ活動 >

グループ各社のサステナビリティ活動

アヲハタ株式会社

ジャム類(ジャム、マーマレードなど)、産業用加工品類(フルーツ・プレパレーション:主としてヨーグルト・アイス用フルーツソース)などの食料品の製造および販売をしている会社です。

アヲハタ株式会社 サステナビリティ 

株式会社サラダクラブ

キューピーと三菱商事が設立したパッケージサラダの製造・販売をしている会社です。

株式会社サラダクラブ サステナビリティ 

キューピータマゴ株式会社

液卵・乾燥卵などの加工食品の原料から、茹卵・たまごサラダ・厚焼たまご・オムレツなどの商品を製造・販売している会社です。

キューピータマゴ株式会社 サステナビリティ 

デリア食品株式会社

サラダ・惣菜、米飯、麺類、漬物、コミュニケーションフードの製造および販売をしている会社です。

デリア食品株式会社 サステナビリティ 

株式会社ポテトデリカ

「じゃがいも」を原料としたポテトサラダなどのお惣菜を開発・製造している会社です。

株式会社ポテトデリカ サステナビリティ 

キューピー醸造株式会社

醸造酢、穀物酢、果実酢の製造販売。漬物、惣菜向け調味酢、調味液の製造販売。食品添加物(品質保持用)などの製造販売をしている会社です。

キューピー醸造株式会社 サステナビリティ 

株式会社ケイパック

マヨネーズ・ドレッシングを中心とした小袋調味料の製造および販売をしている会社です。

株式会社ケイパック 環境対策 